ニバラック式ノ施療院ヲ建設シ、十月三十一日開院式ヲ擧行シ、罹災者ノ施療ニ從事セリ。

(c)支那

(イ)支那慰問使前教育總長湯爾和、同、北京病院長候鋮汝外二名ハ、九月十五日上京シテ、東京驛ホテルニ止宿シ、市内各救護所ヲ視察シ、罹災者ノ慰問ヲ爲セリ。

(ロ)九月十五日支那紅十字會救護隊莊篠牛惠霖以下醫師、看護婦等一行二十五名上京シテ、府下澁谷町下澁谷元東京感化院跡ニ止宿シ、傷病者ノ治療ニ從事ノ豫定ナリシモ、言語不通其他ノ關係上、九月二十二日ヨリ赤十字社病院ニ加入シテ治療ヲ應援シ、十月十六日退京セリ。

(ハ)支那各團體慰問代表江庸ハ隨員二名及ビ中華留日同胞被災急賑會代表兼學術研究會日災慰問代表瞿國眷同、王佐臣同、胡己任等ト共ニ、九月十七日上京シテ、帝國ホテルニ止宿シ、留日學生代表王澤民蔡文燿外二十五名ヲ招キ、各團體代表トシテ慰問ヲ述ベ、且學生ヨリ被害情況ヲ聽取シ、其携帯セル慰問金三萬二千五百圓ヲ施代理公使ニ手交シ、十月十六日退京セリ。

(ニ)山西省慰問使孝秀中張承炤ハ九月二十三日上京シテ小石川區指ヶ谷町三十番地尚友學舍ニ止宿シ、其携帯セル慰問金五千餘圓ヲ罹災者ニ分與シ、十月十六日退京セリ。

(ホ)中華學藝社特派員上海中華教育團救濟日災會代表林驛一ハ、九月十三日上京シテ、本郷區西須賀町十六番地村田方ニ止宿シ、其携帯セル慰問金二千圓ヲ施代理公使ニ手交シ、十月四日退京セリ。

(ヘ)陝西特派日災慰問使揚鶴慶及ビ揚鶴年ハ、九月三十日上京シテ、府下中野町千九十三番地絡南方ニ止宿シ、同省學生三十五名ニ對シ、全燒者五名ニ百圓宛、半燒者五名ニ五十圓宛、其他ノ者ニ二拾五圓宛ヲ給與シ、尚澤南省ヨリノ依托金ヲ、同省學生全燒者三名ニ三百圓、半燒者五名ニ四百圓、外十二名ニ對シ二十圓乃至三十圓宛ヲ支給シ、十月十四日退京セリ。

(ト)中華民國内務部賑務所華洋義賑會代表勞玉帝陳憲錯ハ、十月六日上京シテ帝國ホテルニ止宿シ、震災情況ヲ視察シ、横濱罹災支那商人ニ慰問金二千圓ヲ寄贈シ、本邦ニ對スル慰問金三十萬圓ハ、既ニ駐支芳澤公使ニ交付シタレドモ、猶歸國ノ上、

東京罹災民ニハ綿布、綿、木材等ノ物資ヲ輸送スベキ事ヲ約シ、十月十三日退京セリ。

(チ)支那參議院議員雷殷ハ對日救濟各團體代表トシテ、九月二十一日上京シテ、小石川區關口臺町二十四番地、福井方ニ止宿シ、廣西省長依囑トシテ、同省學生ノ罹災者ニ一人宛三十圓乃至八十圓ノ範圍ニ於テ、被害ノ程度ニ應ジ、合計金千二百餘圓ノ慰問金ヲ配給シ、九月二十八日退京セリ。

(リ)新任山東省經理員王明信ハ、同省學生慰問ノ爲、九月二十七日上京シテ、小石川區戸崎町十四番地同省經理所ニ止宿シ、殘留者五名(歸國中ノ者多キ爲)ニ對シ、五十圓宛支給セリ。

(ヌ)湖南外交交涉員王英泌ハ、同省慰問使トシテ九月二十九日上京シ、小石川區白山御殿町百九番地中華聖公會寄宿舍ニ止宿シテ、同省罹災學生五十名ニ對シ、四十圓乃至八十圓宛計二千四百餘圓ヲ給與シ、殘額二千五百圓ハ學費補給金トシテ、適宜分與ノ事ヲ同省經理員ニ委托シ、十月十三日退京セリ。

(ル)江蘇省特派日本賑濟華僑專員南京知事沈訴ハ同省在留學生及ビ商人慰問ノ爲ニ金二千圓ヲ携帶シ、十月二日上京シテ、本鄉區菊坂町菊富士ホテルニ止宿シ、襄

ニ金五千圓ヲ携帶入京セル同省經理員廬壽錢ト共ニ、被害程度ヲ調査シ、一人宛三十圓乃至八十圓ヲ配給シ、十月十日退京セリ。

(ヲ)世界紅卐字會中華總會代表紫財政部員馮閎模揚承諾ハ、十月六日上京シテ本鄉區菊坂町菊富士ホテルニ止宿シ、京濱間ノ被害ヲ調査シ、十月十四日退京シタルガ、同人等ハ渡日途中ノ南京ニ於テ、白米二千石ヲ購入シ、熊野丸ニ托シテ神戸ニ輸送セシガ、當時京濱間ハ米穀充實シ、又其必要ヲ見ザリシヲ以テ、外務省ヲ訪問シ、神戸陸揚ノ白米ヲ適當ニ處分セラルベキ事ヲ委托セリ。

(ワ)廣東省經理員陳任楨ハ同省ヨリノ慰金三千圓ヲ携帶シテ、十月十三日入京シ府下巢鴨町宮仲二千四百四十六番地同省經理所ニ入リ、罹災程度ニ應シ、一人宛二十圓乃至八十圓ノ範圍ニ於テ慰問金ヲ分與セリ。

(カ)對日震災救濟同志會代表袁良ハ震災慰問竝情況調查ノ爲ニ、十月二十六日上京シテ帝國ホテルニ止宿セシガ、同會ハ九月四日附ニテ十萬圓ヲ日本政府ニ郵送シ、二萬圓ヲ日本駐在日本總領事ノ手ヲ經テ寄贈シ、尙支那各地ヨリ義捐金ヲ募集シ、應募金十數萬圓以上ニ上リ之ガ寄贈ノ手續ヲ爲シタリ。

第六章　犯罪豫防檢擧

第一節　災害ノ犯罪ニ及ボシタル影響

震火災ノ示シタル偉大ナル破壞力ハ、社會及ビ個人ニ激甚ナル影響ヲ與ヘ、其結果各種犯罪ノ原因、內容、件數等ニ異常ノ變態ヲ呈セシメタリ。サレバ其統計學的研究ノ如キモ、刑事政策上極メテ重要ナリト雖、當時警察事務ハ、專ラ救護警戒ノ方面ニ忙殺セラレテ、又犯罪ノ檢擧取締ニ銳意スルノ遑ヲ有セズ、一般民衆モ亦危懼ト、不安トニ襲ハレテ、混亂ヲ極メタル際ナリシカバ、各種ノ被害、就中輕微ナル盜難ノ如キハ、概ネ屆出ヲ爲サザリシガ故ニ、被害件數ノ夥多ナル事ハ疑ナシト雖、今之ヲ詳カニスル能ハズ、從ウテ統計ニ現レタル被害件數ヲ以テ、直ニ平常ノ犯罪統計ト比較スルハ、却テ事實ノ眞相ヲ誤ルノ虞アルヲ以テ、之ヲ除キ、重要ナル犯罪ニ就キテ考察スル所アラントス。

第一　窃盜

震火災ノ結果、多數ノ失業者ヲ出シ、生活上ノ資源ヲ杜絕セシメタルハ誠ニ已ムヲ得ザル現象ニシテ、就中、纔ニ身ヲ以テ免レタル罹災者ノ如キ、其慘狀見ルニ忍ビザルモノアリ、而モ商工業ノ中心地ヲ擧ゲテ焦土ト化シ、蓄積セラレタル物資ノ大半ハ烏有ニ歸セルノミナラズ、水道ノ破壞ハ飲料ノ涸渴ヲ來シ、交通機關ノ全滅ハ物ノ移入ヲ困難ナラシメタレバ、飮食料共ニ缺乏ヲ極メ、假令多少ノ貯蓄アルモノト雖容易ニ食料ヲ購入スル能ハザルノ窮境ニ陷レリ、況ンヤ其他ニ於テヲヤ。由來生活資料ノ窮迫ハ財產ニ對スル犯罪ノ主因ヲ爲スモノニシテ、其ノ饑渴ニ迫レル罹災者ノ中ニハ、他人ノ財物ヲ窃取スル事ニ依リテ、自己及ビ家族ノ生活ヲ維持スルノ餘儀ナキニ至レルモノ無キニアラザリシカバ、窃盜ハ先ヅ食料ト、雨露ヲ凌グベキ燒亞鉛板トノ掻浚ヨリ始リシガ、時恰カモ帝都ノ大半ヲ占ムル廣漠タル燒跡ニハ、銀行、會社、商店等ノ倉庫、金庫等ノ燒失ヲ免レ、破壞又ハ半燒シテ殘存セル貨物、金品ノ管守者ナキモノアリ、殊ニ貴金屬、寶石類商ノ燒跡ニハ、多數商品ノ未ダ灰燼中ニ橫ハレルモノモ亦尠カラズ、加フルニ警察力ハ震火災ノ爲ニ著シク障碍セ

ラレシノミナラズ、通信・交通機關ノ杜絶ハ犯罪ノ搜査上ニ一大支障ヲ來シ、瓦斯電燈ノ全滅ハ、市中ヲ暗黑ナラシメテ、犯罪ノ敢行ヲ容易ナラシムルノ狀態ナリキ。

是ニ於テ金庫破、土藏破、燒殘品ノ發掘等ヲ爲スモノ漸次增加スルニ及ビテ、遂ニ純然タル盜賊ニ變化セリ。然ルニ九月中旬以後ハ、內外ノ救恤品ハ軍艦又ハ汽船ニ依リテ芝浦ニ集注蓄積セラレ、且海路旅客輸送モ亦開始セラルルニ及ビ、同所ハ自ラ橫濱・橫須賀及ビ關西方面ヘノ關門ヲ爲スト共ニ、多數避難者ノ蝟集雜沓ヲ見タル結果、救恤品ノ盜難頻々トシテ起リ、殊ニ荷揚人足中、其取扱ヘル慰問品、救護品ヲ窃取スルモノ多カリシガ、更ニ他ノ燒殘地域ニ於テ著シク犯罪ノ增加律ヲ示セルモノヲ、所謂板ノ間稼(浴場ニ於ケル窃盜)ト爲ス、而シテ其犯人ノ大半ハ婦女子ナリキ。

是各戶ノ警戒ハ軍隊、警察及ビ自警團ニ依リテ嚴重ニ實施セラレ、窃盜ノ跋扈ヲ許サザリシニ反シ、浴場ノ混雜ニ乘ズル犯行ノ比較的容易ナリシト、生活難ニ堪エザル志操薄弱ナル婦女子ノ多カリシガ爲ナルベシ

第二　詐欺及ビ恐喝

府・市・町・村其他ノ官公衙ニ於テ、罹災者ニ對スル救恤金品及ビ救護品ノ取扱ヲ開始スルヤ、罹災人員ノ數ニ應ジテ配給スル事ト爲シタルヲ以テ、自ラ虛僞ノ申立ヲ爲シ、救護金品ヲ詐取スルモノアリシト共ニ、或ハ罹災者中、郵便貯金通帳ヲ燒失セルモノ多數ナルニ乘ジ、郵便局ニ對シテ虛僞ノ申告ヲ爲シ、貯金ノ詐取ヲ企ツルモノアリ、或ハ郵便局員ナリト詐稱シテ民家ニ赴キ、「災害ノ爲郵便局ノ貯金臺帳燒失シタルニ付、通帳ノ記號、番號並ニ金額ヲ知リタシ」トノ口實ノ下ニ、一片ノ受取證ト引換ヘニ通帳ヲ詐取シ、之ニ依リテ更ニ、郵便局員ヲ欺キ、該貯金ヲ騙取スルモノ尠カラズ。此外憲兵、警察官ノ官名ヲ詐稱シテ、恐喝强要ヲ爲セルモノ亦簇出セリ。

第三　橫領及ビ背任

災後ニハ罹災者ノ搬出セル家財及ビ燒殘品ニシテ、混亂中、其置場ヲ遺忘シ、或ハ河海ニ漂流セル物件ノ所有者ガ、避難又ハ死亡ノ爲ニ、一時占有ヲ離脫スルニ至レルモノ(漂流木材多數ヲ占ム)避難ノ際所持金品ヲ遺失セルモノ等尠ナカザルニ乘ジ、之ヲ橫領セルモノ多カリシガ、更ニ救恤品・救護品ノ配給ニ從事スルモノニシテ、其地位ヲ利用シ、任務ニ背キテ之ヲ橫領セルモノアリ、殊ニ公務員中、斯種ノ犯行ヲ

敢テセルモノナキニ非ザリシハ最モ憎ムベキナリ。

第四　放火

九月中ニ於ケル放火被害件數ハ二十五件ヲ算シ、前年同月中ノ被害件數五件ニ比較シテ甚シキ增加率ヲ示シタリ、惟レ蓋シ、概ネ災後人心ノ動搖ト警戒ノ不備トニ乘ジ、平素ノ怨恨ヲ晴サントセルモノヲ以テ其ノ多數ヲ占メ、其他或ハ惡戲ニ出テ、或ハ他ノ犯罪ノ手段ニ供セントスルモノモ亦ナキニ非ザレドモ、其數ハ前者ヨリモ僅少ナリシガ如シ、當時世上ニテハ不逞鮮人放火ノ流言頻リニ傳播セラレシカドモ、九月中ニ檢擧セル放火犯人中、鮮人ハ僅カニ輕微ナル未遂罪二件ヲ算スルノミニシテ、其他ハ皆內地人ナリシニ徵セバ、鮮人放火ニ關スル流言ノ內容ガ如何ニ無稽ナリシカヲ推察スルニ足ラン。

第五　遺棄

震火災ノ爲ニ、或ハ資產ヲ失ヒ、或ハ職業ニ離レテ生活ノ途ニ窮セルガ爲、幼兒ノ扶養ニ窮シ、已ムヲ得ズシテ混亂ノ際密ニ之ヲ遺棄セルモノ尠ナカラズ。

九月中ノ調查ニ依レバ、其數十件ヲ算シ、而シテ概ネ生後二・三ケ月ヲ經過セル嬰兒ナリシヨリ觀ルモ、當時哺乳兒ノ養料ヲ得ルコト極メテ困難ナリシト、之等ノ母ニシテ災害ノ爲ニ死亡セル者ノ多カリシヲ知ルヲ得可シ。

第六　殺人及ビ傷害

不逞者ノ來襲ニ關スル種々ナル流言ノ發生ト共ニ、恐怖ニ滿チタル民心ハ、却テ憤激ノ絕頂ニ達シ、所謂自警團ノ組織セラルヽヤ、多勢ヲ恃メル集團ハ忽チ群衆化シ、自衞功名怨恨ヲ加味セル輿論ハ益々群衆ノ專橫ヲ助長シ、狂暴ナル指導者ノ所爲ニ雷同シタル團員ノ言動ハ、廣ク模倣傳播セラレ、一部ノ群衆ハ益々惡化シテ遂ニ殺傷ヲ敢行スルニ至レルモノノ如ク、九月中ニ於ケル殺人事件百十件、傷害事件モ亦九十七件ヲ算シタリ。

第七　戎器取締令違反

不逞者ノ來襲ヲ誤信シテ自衞ニ任ジタル自衞團員カ、各自戎兒器ヲ携帶セル事ハ既ニ前章ニ述ベタリ、而シテ一般民衆中ニ、自警團ノ暴力ニ備フル爲ニ、自衞上又武器ヲ携帶セルモノモアリ、孰レモ取締上、其携帶ヲ禁止シタレドモ、犯狀ノ重キモノニ至リテハ、戎器取締令ニ依リテ處罰セシモノ、九月中ニ於テ十四件ヲ算シタリ。

第八　流言蜚語

流言蜚語ノ原因、內容及ビ其防止策ニ就キテハ前章ニ述ベタリシガ、特ニ治安維持ニ關スル罰則ヲ適用スベキモノ、卽チ安寧秩序ヲ紊亂スルノ目的ヲ以テ治安ヲ害スル事項ヲ流布シ、又ハ人心ヲ惑亂スルノ目的ヲ以テ流言浮說ヲ爲シタルモノ比較的少數ニシテ、九月ヨリ十一月ノ間ニ檢擧セルモノ十一件ヲ算スルニ過ギズ其他警察犯處罰令ニ依リテ處罰セルモノ三十二件ニ達セリ。

第九　暴利ノ情況

震火災ノ爲ニ、都下ノ商業地域ト、工業地域トハ全滅シテ、物資ノ缺乏ヲ促シタルニ、輸送機關杜絕シテ、其移入亦容易ナラズ、而モ市郡ニ殘存セル物資ノミヲ以テ、府民ノ生活ヲ保持スルニ足ラザルヤ明カナリ。是ニ於テ、物價ノ騰貴殆ンド其底止スル所ヲ知ラザルニ至ル、此窮境ニ乘ジ、生活必需品タル食料及ビ建築材料ノ小賣ニ從事シテ暴利ヲ獲得セントスルモノ俄ニ增加セリ、然レドモ當時ノ實際ヲ觀察スルニ、有限ノ商品ノ値上ゲハ當然ノ結果ニシテ、其移入ニ要スル運賃モ亦低廉ナラザルガ故ニ、小賣商ニ於ケル一般物價ハ震災以前ニ比シテ略三割高ヲ示スニ至ルベキハ已ムヲ得ザル情勢ナリト云ハザル可カラズ、故ニ、暴利ノ取締ハ固ヨリノ事ナレドモ、只其標準ヲ定ムルニ就キテハ多大ノ困難ヲ感ジタリ、若シ其取締嚴重ニ失スルモノアランニハ啻ニ、商人ヲシテ窮地ニ陷ラシムルノミナラズ、小賣商人ノ如キハ倒產ノ不幸ヲ見ルノ虞ナキニ非ズ、サレバ、寬嚴事宜ニ適シ、一面ニハ經濟界ノ平和ヲ保ツト共ニ、他面ニ於テハ民衆生活ノ安定ヲ得セシムル事ハ焦眉ノ急務タリシナリ。

政府ハ此ノ如キ經濟界混亂ノ情勢ニ鑑ミ、不自然ナル物價ノ騰貴ヲ制センガ爲、先ヅ勅令第三百九十六號ヲ以テ、非常徵發令ヲ公布セリ。卽チ同令ハ震火災被害者ノ救濟ニ必要ナル食料・建築材料・運搬具等ノ物件、又ハ勞務ノ非常徵發ヲ爲サントスルモノニシテ、之ニ對スル賠償ハ、其地市場ニ於ケル前三箇年間ノ平均價格ニ依リテ定ムルヲ原則ト爲セリ。

是ニ於テ、被徵發物件ヲ販賣スル一般商人等ハ、商品ノ早晩徵發セラルベキヲ豫想シ、苟モ少額ノ利益ダニアラバ直ニ賣却スルノ傾向ヲ生ジ、物價調節上一時良好ナル現象ヲ呈シタレドモ、幾クモナク、海上輸送ノ途開ケテ物資ノ移入行ハレ、徵發

件數自ラ減少セルノミナラズ、罹災者亦バラック住宅ノ建設ニ着手シ、應急復興ニ全力ヲ傾注スルニ至リシカバ、物資ノ需要激增シテ、物價ハ益々暴騰ノ狀ヲ呈シタリ。

是ニ於テ、政府ハ九月七日勅令第四百四號ヲ以テ、支拂延期令ヲ公布シ、私法上債務ノ履行期限ヲ延引シ、同日又勅令第四百五號ヲ以テ、生活必需品ニ關スル暴利取締令ヲモ發布シテ、物價暴騰ノ豫防ト、物資分配ノ圓滿トヲ計リ、更ニ九月十一日勅令第四百七號ヲ以テ、米穀ノ輸入稅ヲ免除シ、同十二日勅令第四百十號ヲ以テ、震災被害者ニ對シ、租稅ヲ減免スルコトヲ得ルモノト爲シ、又勅令第四百十一號ヲ以テ、生活必需品並ニ土木建築ノ用ニ供スル器具・機械及ビ材料ノ輸入稅ノ低減又ハ免除ニ關スル途ヲ拓ク等、物價政策ニ意ヲ須キテ、經濟界ノ救濟ト、罹災者ノ保護トニ努力セル結果、能ク其功ヲ奏シ、米價ハ却テ下落ノ傾向ヲ示セルノミナラズ、其他ノ生活必需品モ亦豫想セルガ如キ昂騰ヲ見ザリシト雖モ、唯建築材料タル亞鉛板・木材等ニ於テハ、平均五割以上ノ暴利ヲ貪ルモノアリ、甚シキハ十四割ニ及ブモノヲ出シタレバ、遂ニ之ヲ檢擧シテ、法令ヲ適用スルノ餘儀ナキニ至レルハ深ク遺憾トセル所ナリ。

第二節　特殊犯罪ノ豫防檢擧

災後ニ於ケル秩序ノ保持ハ、主トシテ豫防警察ノ施設ニ俟タザル可ラズ、而シテ之ガ對策ハ既ニ第二章ニ於テ詳記シ、災害ノ影響ニ因ル犯罪取締ニ關シテモ亦前節ニ述ベタルガ如シ、然レドモ各個犯罪ニ對スル特殊ノ豫防措置、並ニ犯罪ノ搜査、犯人ノ檢擧及ビ證據ノ蒐集保存等ヲ嚴密ナラシムル事ハ、司法警察ノ使命ナルト共ニ、秩序ノ恢復・人心ノ安定ニ對シテ重大ナル關係ヲ有ス。能ク之ヲ事前ニ察知シテ豫防ノ方策ヲ講ジ、又事後ニ於ケル檢擧ヲ周到ナラシメントセバ、一般ノ社會的情勢並ニ人心ノ歸嚮ヲ詳カニシ、其原因ヲ芟除スルニ若カザルナリ、而モ突如トシテ起レル九月一日ノ大慘害ハ、忽チ社會ノ常態ヲ攪亂シ、各種ノ犯行踵ヲ接シテ發生セントスル形勢ヲ馴致セリ。

赤池總監ハ這般ノ情勢ニ察シ、災後直チニ木下刑事部長ヲ班長トセル偵察班ヲ組織シ、管下ノ一般的情勢ヲ偵察セシムルト共ニ、夫々對策ヲ講ゼシメ、湯淺總監モ

亦部僚ヲ督シ、捜査主腦機關タル東京地方裁判所檢事局ト密接ナル連絡ヲ保ツハ勿論、司法省・戒嚴司令部・憲兵司令部、臨時震災事務局及ビ朝鮮總督府等トモ協調ヲ計リ、以テ災害ニ伴フ犯罪ノ防止ニ遺憾ナキヲ期セリ。

木下刑事部長ハ命ヲ承クルヤ、先ヅ小泉捜査課長ヲシテ、强力犯及ビ智能犯ノ二係ヲ合同シテ、管内情勢ノ視察及ビ犯罪ノ捜査ヲ開始セシメ、望月庶務課長ヲシテ捜索人・迷人保護幷ニ犯罪發生情況ノ調査ヲ爲サシメ、更ニ岩藤鑑識課長ヲシテ、鮮人ノ保護ト、犯罪證憑ノ保存並ニ鑑識トニ從事セシメ、以テ犯罪ノ捜査檢擧ニ支障ナカラシメタリ。

然レドモ捜査用機關タル、警察電話及ビ一般交通・通信機關ハ全滅シ、鑑識設備亦燒失セルノミナラズ、避難者ノ混雜・流言蜚語ノ宣傳・人心ノ惡化等捜査・檢擧ノ實行上ニ幾多ノ障碍ヲ生ジ、局ニ當ル者ノ苦心名狀スベカラザルモノアリ、刑事部ハ此難局ニ處シテ、幸ニ時宜ヲ誤ラズ、自ラ重要事犯ノ捜査・檢擧ヲ斷行スルト共ニ、各署ヲ指揮督勵シテ、災害ニ伴フ犯罪ノ防止ニ努力シ、以テ災後ニ於ケル司法警察ノ任務ヲ辱カシメザルヲ得タリ。今其一斑ヲ概說シテ苦心ノ跡ヲ繹ネントス。

第一　管内情勢ノ偵察並ニ調査

九月一日小泉捜査課長ハ、中村(義正)强力犯係長、有松智能犯係長以下ノ課員ヲ指揮シ、災害ノ情況、人心動搖ノ狀態、救護及ビ避難ノ實況等ヲ偵察シ、災後ニ處スベキ一般對策ニ資スルト共ニ、同日夜半、各主任警部以下四十五名ヲ三隊ニ分チ、之ヲ火災場及ビ避難場ニ派遣シテ、犯罪ノ應急警戒・取締ニ任ゼシメタリシガ、二日ニモ亦各方面ニ亘リ、災害ニ伴フ犯罪ノ原因タルベキ事情並ニ犯罪ノ趨勢ニ就キテ偵察ニ從事セシメタル折シモ、鮮人暴動ニ關スル流言ノ盛ニ傳播シツヽアルヲ察知シ且殆ンド同時ニ、放火暴動等ノ情報頻リニ到ルニ及ビ、事態極メテ容易ナラザルモノアルヲ認メ、卽時出口、峯島、前田ノ各警部ニ各巡査六名乃至九名ヲ隷屬シテ、流言ノ眞相ヲ調査セシメ、個々ノ情報ニ對シテハ、課長、係長以下直ニ現場ニ出動スル等、捜査手配上ノ遺漏ナキヲ期セリ。

第二　朝鮮人ノ犯罪檢擧

九月二日ノ午後ニ至リテハ、流言ノ内容益々激烈ヲ極メ、慘害ニ困憊セル民衆ノ憤激特ニ甚シク、遂ニ戎兒器ヲ執ッテ之ニ對抗シ、或ハ自警團ヲ組織シテ自衞ニ任

ジ、或ハ要所ヲ扼シテ通行人ヲ誰何シ、苟モ不審者ト認ムルモノアラバ直ニ取押ヘテ本廳又ハ各署ニ同行シ、或ハ其ノ場ニ於テ迫害ヲ加フルモノ尠カラズ、斯クテ本廳假事務所タル府立第一中學校ニ同行セルモノ須臾ニシテ朴秉董外百六十八名ニ達シタリ、中村强力犯係長及ビ部下ノ主任者ハ直ニ鮮人ノ取調ヲ開始セルニ、其犯跡ヲ認ムベキ證憑充分ナルモノ極メテ少ク、鮮人ニ關スル流言ハ概ネ虛傳ナルコト闡明セシカバ、管下在住ノ鮮人ヲ保護センガ爲ニ、總テ之ヲ收容スルト共ニ、其犯罪ニ渉ルモノアラバ、徹底的檢擧ヲ爲スノ方針ヲ定メ、九月二日以降、小泉搜査課長ハ有松、中村義正兩係長以下各主任警部及其ノ部下ヲ督勵シテ、同事犯ノ搜査ニ努力シタル結果、九月中、犯罪事實ノ發覺セルモノ三十件ヲ算シ、此內犯人ト共ニ事件ヲ檢事局ニ送致セルモノ二十件ニ上レリ。今之ヲ犯罪別ニ擧グレバ左ノ如シ。

朝鮮人犯罪表

罪名	檢擧		送致	
	件數	被告人數	件數	被告人數
爆發物取締罰則違反	二	一一	二	一一
爆發物取締罰則違反及放火	一	三	一	三
騷擾强盜罪	一	三〇	一	三
銃砲火藥取締法違反	三	三	一	一
遺失物橫領及銃砲火藥取締法違反	一	一	一	一
放火未遂	一	一	一	一
放火豫備	三	六	一	一
殺人未遂	一	一	一	一
强盜未遂	一	三	一	一
窃盜	一二	一二	一〇	一〇
窃盜及橫領	三	四	二	三
詐欺	一	一	一	一
計	三〇	七六	二〇	三二

尙犯罪嫌疑者ノ如キモ多數ナリシガ、搜査取調ノ結果、確證ヲ得ザルモノハ收容所ニ保護シ、九月二十五日以後ハ之ヲ朝鮮總督府出張所ニ引渡シタリ。

第三　流言者及ビ不穩宣傳者ノ檢擧

(一)流言ニ關スル調査

流言ノ眞相ハ民衆ニ依リテ同行セラレタル鮮人ニ對スル嚴密ナル取調ト、流言ニ對スル現狀實査トニ依リテ概ネ虚傳ニ過ギザル事明カトナリタレバ、更ニ進ミテ其ノ出所ト徑路トヲ詳カニシ、該犯人ノ檢擧ニ努ムルノ必要ヲ認メ、九月二日以降流言ノ最モ宣傳セラルヽ、避難者ノ集團地ニ、刑事巡査ヲ派遣シテ犯人ノ檢擧ニ努メ、尋テ同月七日ニハ出口警部等ヲ神奈川縣下ニ特派シ、十九日ニハ小泉課長自ラ櫻井警部外巡査部長一名ヲ引率シテ、府下荏原郡大森蒲田六鄕方面ヨリ神奈川縣ニ亙リ、流言ノ徑路ニ就キテ細密ナル調査ヲ遂ゲ、二十日ニモ亦、櫻井警部外一名ハ尚殘留シテ調査偵察ヲ續行シ、該方面ヨリノ流言防止ニ努メタリシガ、之ニ依リテ略流言ノ傳播徑路ニ關スル眞相ヲ推知セル事ハ第五章ニ述ベタルガ如シ。

(二)流言者ノ檢擧(警察犯處罰令適用)

流言ノ防止ニ關スル本廳ノ方針ハ、昂奮セル人心ヲ安定シテ一般群衆ヲ指導スルト共ニ、流言者ヲ取締ルニ在リシト雖モ、單ニ流言傳播ノ事實ノミニ拘泥セバ、當時都下ノ住民何人カ之ヲ爲サヾルモノアランヤ、故ニ治安警察法ヲ適用セズ、專ラ警察犯處罰令第二條第十六號「人心ヲ詿惑セシムル目的ヲ以テ流言ヲ爲スモノ」ニ限ル事ト爲シ、九月二日以來、七日マデノ間ニ犯人ヲ檢擧シテ拘留處分ニ附シタルモノ二十件、說諭ニ止メタルモノ十二件、合計三十二件ヲ算セリ。是ヲ檢擧月日及流言ノ內容ニ依リ區別スレバ左ノ如シ。

內務省令警察犯處罰令第二條第十六號違反者調

檢擧月日	檢擧件數	同人員		處分結果	
			說諭	拘留	
九月二日	二	二	二		
三日	六	六	一	五	
四日	一一	一一	四	七	
五日	四	四	一	三	
六日	七	七	四	三	
七日	二	二	一	二	
計	三二	三二	一二	二〇	

流言ノ種別	處分件數	
朝鮮人ニ關スルモノ、	一四	
大地震又ハ海嘯來襲ニ關スルモノ、	一〇	
警察官ニ關スルモノ、	三	
火災ニ關スルモノ、	二	
大本教ニ關スルモノ、	一	
其他	二	
計	三二	

(三)治安維持令該當者ノ檢擧

是ヨリ先、本廳ガ流言者ノ檢擧ヲ爲スヤ、之ニ適用スベキ法規ハ、警察犯處罰令及ビ治安警察法アルノミ、而モ前者ハ其刑輕キニ過ギテ流言防止ノ効果ニ乏シク、後者ニ至リテハ其効果更ニ薄弱ニシテ取締ノ目的ヲ達スル事殆ンド不可能ナルガ故ニ、專ラ處罰令ニ準據シタレドモ、不備ノ點鮮ナラズ、是ニ於テ政府ハ九月七日勅令第四百三號ヲ以テ、治安維持ニ關スル罰則ヲ公布セリ。

木下刑事部長ハ小泉捜査課長以下ノ部下ヲ督勵シ、同日以降ハ此勅令ニ依リテ、流言者ノ捜査、檢擧ニ努力シ、更ニ各署ヲ指揮シテ嚴密ナル取締ニ任ジタリシガ、同勅令ノ精神ハ、固ヨリ流言ヲ絶滅シ、昂奮セル人心ヲ安定シテ以テ、治安ヲ保持スルニ在リタレバ、九月八日勅令執行ノ心得ニ關シ、木下刑事部長ヨリ各署長ニ左記指示ヲ發セリ。

治安維持ニ關スル緊急勅令適用ニ關スル指示(大正十二年九月八日秘號外)

標記ノ件ニ關シ、別紙ノ通通牒シタル趣、通牒有之候條別紙ノ趣旨諒知ノ上、執行上萬遺憾ナキヲ期セラルヘシ。

(別紙)

司法省刑事局長ヨリ各刑事局秘第二五號(司法省刑事局長・檢事總長・檢事長・檢事正宛)

治安維持ニ關スル緊急勅令ノ適用ノ件依命通牒

本日勅令第四百三號ヲ以テ治安維持ニ關スル罰則發布セラレ、卽日施行セラレ候事ニ相成候ニ付テハ別紙ノ趣旨御了知ノ上、萬遺算ナキ樣特ニ御配慮相成度候

(別紙)

緊急勅令　(大正十二年九月七日公布)

勅令第四百三號

第二節　特殊犯罪ノ豫防檢擧

出版通信其他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハズ、暴行、騷擾其ノ他生命、身體若クハ財產ニ危害ヲ及ボスベキ犯罪ヲ煽動シ、安寧秩序ヲ紊亂スルノ目的ヲ以テ治安ヲ害スル事項ヲ流布シ、又ハ人心ヲ惑亂スルノ目的ヲ以テ流言浮說ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(1)此際本令ヲ適用スルニ付テハ、今回ノ震災ニ際シ人心ノ不安ニ陷レルヲ奇貨トシテ更ニ其ノ不安ヲ一層甚シカラシメ其ノ間非望ヲ逞ウセムトスル徒ヲ取締ルコトヲ主眼トスベク、一般ノ良民ニ對シテハ嚴重ニ之ガ適用ヲ愼ミ、特ニ其ノ情狀ノ重大ニシテ看過スベカラザルモノニ限ラザルベカラズ、殊ニ恐怖又ハ激昂ノ餘偶々外形上法規ニ觸ルルモノアルガ如キ場合ニ於テハ之ガ適用ヲ避ケザルベカラズ

(2)本令ハ大體之ヲ三個ノ場合ニ分チテ考察スルコトヲ得ベシ、一ハ暴行、騷擾其ノ他生命身體、財產ニ危害ヲ及ボスベキ犯罪ヲ煽動シタル場合、其ノ二ハ安寧秩序ヲ紊亂スルノ目的ヲ以テ治安ヲ害スル事項ヲ流布シタル場合、其ノ三ハ人心ヲ惑亂スルノ目的ヲ以テ流言浮說ヲ爲シタル場合ニシテ其ノ何レノ場合ニ於テモ、出版、通信、演說、貼紙其ノ他何等ノ方法ニ依ルヲ問ハザルナリ

(3)第一ノ場合ニ於ケル暴行又ハ騷擾ハ、必ズシモ刑法ニ定メタル暴行罪又ハ騷擾罪ヲ構成スルモノタルコトヲ要セズ、例ヘバ住居其ノ他ノ建造物ニ對スル暴力行使ノ如キモ暴行ニ該當スルモノニシテ、敢テ人身ニ對スルモノナルコトヲ要セズ、又騷擾ハ必ズシモ暴行迫脅ニ依ルコトヲ要セザルノミナラズ、一地方ノ靜謐ヲ害スル程度ノモノタルコトヲ要セザルナリ。然レドモ今回之ヲ適用スルニ付テハ主トシテ暴行罪又ハ騷擾罪ニ該當スル場合ニ限ルベク、然ラザル場合ハ、特ニ其ノ必要アルモノニ止メザルベカラズ。

(4)第二ノ場合ハ單ニ治安妨害ノ事項ヲ流布スルヲ以テ足レリトセズ、其目的安寧秩序ノ紊亂ニ在ルコトヲ要件トスルモノナルヲ以テ、斯ル目的ヲ缺ク學說又ハ意見ノ發表ノ如キハ之ニ該當セザルモノナルヲ以テ、今回之ヲ適用スルニ當リテハ主トシテ、不逞ノ徒ガ治安妨害ノ事項ヲ流布シタル場合ニ限ルヲ要ス。

(5)第三ノ場合ノ流言浮說ハ其ノ內容ノ如何ヲ問ハズ、人心ノ不安ニ陷ラシムルモノハ之ニ包含スト雖モ惡意アル場合卽チ人心ヲ惑亂スル爲斯クノ如キ行爲ヲ爲シタルモノヲ罰スルノ意ナルヲ以テ、流言浮說ヲ輕信シテ善意ニ之ヲ他人ニ告ゲタル場合ノ如キハ固ヨリ之ニ該當スルモノニ非ズ。

(6)第一ノ場合ニ於ケル煽動、第二ノ場合ニ於ケル流布、第三ノ場合ニ於ケル流言浮說ノ行爲ハ何レモ不定又ハ多數ノ者ヲ對象トスルモノナリト雖モ、必ズシモ現ニ不定又ハ多數ノ者ニ對シテ之ヲ爲スヲ要セズ、特定ノ一人ニ對シテ之ヲ爲スモ、其目的ノ不定又ハ多數ノ者ノ意思ヲ動カシ、若クハ不定又ハ多數ノ者ニ傳播セシムルノ意ニ出ヅル場合ハ之ヲ包含スルモノトス。

而シテ勅令文ハ之ヲ印刷シテ、民衆ノ間ニ大宣傳ヲ試ミ、更ニ豫防警戒ヲ嚴ニセ

シカバ、人心次第ニ安定シ、流言ヲ爲スモノ亦自ラ減少セリ。從テ九月七日以降十一月末日迄ニ、同法令ニ依リテ檢擧セルモノハ十一件ニ過ギズ、此內事件ヲ檢事局ニ送致セルモノ五件、犯情輕微ニシテ說諭ニ止メタルモノ六件アリシガ、之ヲ治安維持令ノ內容ニ依リテ區別スレバ左ノ如シ。

種別	送致件數	說諭件數	計
暴行脅迫其ノ他生命身體若クハ財産ニ危害ヲ及ボスベキ犯罪ヲ煽動シタルモノ、			
安寧秩序ヲ紊亂スルノ目的ヲ以テ治安ヲ害スル事項ヲ流布シタルモノ、	一		一
人心ヲ惑亂スルノ目的ヲ以テ流言浮說ヲ爲シタルモノ、	四	六	一〇
合計	五	六	一一

第四　自警團員ノ殺傷事犯捜査檢擧

自警團ノ指導取締ニ關シテハ、第二章ニ於テシ、又其內容ト經過トニ關シテハ、第五章ニ於テ之ヲ述ベタレバ、重復ヲ避ケ、團員ニ依リテ敢行セラレタル殺傷事犯ニ對スル捜査檢擧ノ情況ヲ概說セントス。

(一)　殺傷事件ノ性質ト檢擧ノ方針

自警團員ノ犯罪ハ、專ラ鮮人暴動ノ流言ヲ基因トセル群衆心理的現象ナルガ故ニ、犯罪ノ動機及ビ犯人ノ意志內容ハ固ヨリ通常ノ事犯ト同一視スベキニ非ズ、若シ此際急激ナル檢擧ヲ斷行センニハ、却テ一大騷擾ヲ惹起セシムルノ虞アリ、蓋シ當時ノ急務タル、昂奮セル民心ヲ安定シ、帝都ノ秩序ヲ恢復スルニ在リタレバ、犯人檢擧ノ時機ノ如キモ愼重ノ考慮ヲ要スルノ必要アルヲ認メ、九月九日以降內務司法、陸軍(戒嚴司令部)及朝鮮總督府等ノ各關係官署ト、充分ナル協議ヲ遂ゲ、事犯ノ捜査檢擧ニ關スル一般的方針ヲ確定シ、以テ刑事部ニ於ケル活動ノ具體的方策ヲ定ムルニ至レリ。

(二)　殺傷事件ノ捜査及ビ檢擧

警務部ニ於ケル各種事犯ノ豫防警戒ト相俟チテ、司法警察機關タル刑事部ニ於テモ亦木下刑事部長ハ其議定セル具體的方策ニ基キ、更ニ東京地方裁判所檢事局

ト協議ヲ遂ゲ、小泉捜査課長並ニ中村(義正)强力犯係長・有松智能犯係長等ヲシテ、各個ノ事犯ニ對シ、現場ノ臨檢捜査ヲ爲サシメ、更ニ九月四日以降ニハ管内全般ニ亙リ、在鄕軍人團・青年團員ノ一般的傾向及ビ各個ノ言動性質等ニ就キ、詳細ナル内偵ヲ遂ゲシメ、又九月六日ニハ望月庶務課長ヲシテ各署管下ニ於ケル殺傷事件ノ被害調査ヲ、岩藤鑑識課長ヲシテ各所ヨリ蒐集セル證據品ニ就キ嚴密ナル鑑識ヲ行ハシメ、以テ後日檢擧ノ際何等ノ支障ナカラシムルト共ニ、主トシテ秋葉警部ニ命ジ、各個事件ノ捜査ヲ爲サシメタリシガ、九月下旬ニ至リテ人心漸ク鎭靜ニ向フヤ、一般的檢擧ノ時機既ニ熟セルヲ認メ、檢事局ト交渉ノ結果、十月初旬ヲ以テ一齊ニ檢擧ノ手ヲ下ス事ニ内定セシカバ、更ニ前田・出口ノ兩警部、小山警部補等ヲシテ再ビ事件ノ捜査ヲ開始セシメ、寺島・龜戸・千住・南千住・巢鴨・品川・大崎・駒込・四谷・麹町・鳥居坂・三田・坂本・大森ノ各署管下ニ於テハ自警團ノ行動最モ狂暴ヲ極メタルヲ確知スルニ及ビ、豫定ノ如ク、十月一日檢事局ノ總動員アリ、捜査課員ノ全部亦出動シテ、同方面ニ於ケル犯人ノ一齊檢擧ヲ開始セリ。今其擔當區分ヲ擧グレバ左ノ如シ。

捜査擔當區

管轄署名	捜査擔當者
龜戸警察署管内	中村强力犯係長・櫻井警部・前田警部・恒岡警部・秋葉警部・出口警部・後藤警部補及各部下
寺島警察署管内	有松智能犯係長・吉川警部・峰島警部・土屋警部・小山警部補・山口警部補・佐藤警部補及各部下
千住警察署管内	中村强力犯係長・前田警部・恒岡警部・秋葉警部・後藤警部補及各部下
南千住警察署管内	中村强力犯係長・前田警部・秋葉警部・後藤警部補及各部下
巢鴨警察署管内	有松智能犯係長・櫻井警部・土屋警部・佐藤警部補・山口警部補及各部下
品川警察署管内	中村强力犯係長・大川警部・小山警部補及各部下
大崎警察分署管内	小山警部補及其部下
四谷警察署管内	佐藤警部補・山口警部補及部下
麹町警察署管内	前田警部・恒岡警部及各部下

麻布鳥居坂警察署管内	前田警部・恒岡警部及各部下
芝三田警察署管内	出口警部及其部下
下谷坂本警察署管内	櫻井警部及其部下
大森警察署管内	土屋警部及其部下

中村强力犯係長以下ノ各警察官ハ、直ニ其部署ニ就キ、檢事ノ指揮ニ依リテ確實ナル證據ノ蒐集、被告人・關係人ノ捜索・同行・取調等ニ全力ヲ傾注シタリシガ、事件ハ概ネ九月二日以降五日ニ至ル四日間ニ於テ、大火災ノ餘煙未ダ去ラズ、流言ノ最モ激甚ヲ極メタル大混亂中ニ敢行セラレタルモノニシテ、既ニ約一ケ月ヲ經過セルモノナレバ、捜査上ノ端緒ヲ得ル事容易ナラズ、就中、數百人ノ自警團員中十數名以上協力シタルモノ、又ハ連日多數ノ殺傷ヲ爲シタルモノ等ニ至リテハ、犯罪ノ事實ヲ確認シ、犯人ヲ探明スル事最モ困難ニシテ、刑事部並ニ各署ノ苦心名狀スベカラザルモノアリ、而カモ迅速ナル捜査ニ依リテ檢擧ヲ行ヒ、犯人逃亡・犯證湮滅ノ機會ヲ與ヘザルノ措置ヲ採ラザル可カラズ。

是ニ於テ連日・連夜ノ活動ヲ繼續スル事、前後三十餘日ニテ、能ク、帝都ヲ震駭セル殺傷事犯全部（殺人百十件・傷害九十七件）ノ檢擧ヲ結了スルヲ得タリ。今檢擧事犯中、九月二日以降五日ノ間ニ行ハレタル犯罪ニ就キテ、其事實ノ概要ヲ表示スレバ左ノ如シ。

災害時下、殺傷事犯調査表

署名	犯罪日時	場所	罪名	事實概要	檢擧人員	被害人員	處理順末
麴町	九月四日午正	麴町區中六番町四六大本教本部附近路上	傷害及暴行	傷害及暴行ヲ加フ	三	一	十月十六日送致
同	九月三日午後二時卅分	同區永田町二ノ一六先ノ路上	殺人	不逞鮮人ト誤信シ日本刀ニテ殺害ス	一	二	九月五日令狀執行
三田	九月三日午後九時	芝區日ノ出町七先	殺人	鮮人ナル噂ニ匿シタリト憤リ日本刀ニテ殺害ス	一	一	九月十二日令狀執行
同	九月四日正午	同	殺人	同	一	四	九月十二日令狀執行
同	九月三日午後九時頃	東京市河港課芝浦出張所倉庫内	殺人	潜伏シ居タルヲ日本刀ニテ殺害ス	二	一	十月二十日送致

同	鳥居坂	四谷	駒込	坂本
九月三日午後十時	九月四日午前一時	九月三日午後九時頃	九月四日午後九時頃	九月四日午後十一時頃
同	芝區三田小山町小山橋河中	四谷區鹽町三七先	本郷區駒込肴町路上	下谷區三輪町一一五先路上
殺人及橫領強盜	殺人	傷害	殺人未遂	殺人
被害者カ就寢シ居タル同倉庫内ニ鮮人一名潛伏シ居タルヲ鮮人ヲ以テ匿シタリト稱シ南濱橋ノ欄干ニ縛シ短刀棍棒等ヲ以テ中ヨリ殺害シ及懷中ヨリ金三十五圓ヲ奪取ス	被害者カ發作的ニ精神ニ異狀ヲ來シ河中ニ投身自殺ヲ圖リタルモ死ニキレズ下流ニ泳ギ居タルヲ鮮人ト誤信シ飛込ミ日河中ニテ鮮人ト誤信シ本刀ヲ以テ殺害ス	鮮人ト誤信シ本刀ヲ以テ傷害ス	鮮人ト誤信シ殺害セントシテ重傷ヲ加フ	鮮人ト誤信シ本刀及棍棒ヲ以テ殺害ス
六	一	一	一三	六
一	一	一	四	一
十月二十日送致	十月二十五日令狀執行	十月二十三日令狀執行	九月十七日令狀執行	十一月四日送致

同	同	同	品川	市計	水上	日本堤	象潟
九月二日午後六時	九月二日午後八時卅分	九月二日午後五時卅分	九月二日		九月二日午後九時頃	九月三日午後七時頃	九月三日午後九時頃
被害者主家裏通	大井町一、二八五先路上	品川町南品川三先路上	府下大井町一七三六路上		府下小松川町下平井平井橋上河筋	淺草區今戸町三五先	淺草區新谷町一四樂天地飛行館前
殺人未遂	殺人	傷害致死	殺人	殺傷害三十件計十三件	殺人	傷害	殺人
不逞鮮人ト誤信シ棍棒等ヲ以テ亂打傷害ス	不逞鮮人ト誤信シ日本刀ヲ以テ殺害ス	鮮人ト誤信シ傷害死ニ致ス	鮮人ト誤信シ日本刀ヲ以テ殺害ス		被害者カ糞尿船ニ依リ避難シ來レルヲ鮮人ト誤信シ帆立棒等ヲ以テ撲殺ス	日本刀及棍棒ヲ以テ重傷ヲ加フ	鮮人ト誤信シ殺害ス
四	一	二	一	計四三　三五八	五	一	二
一	一	一	一	計　一二〇　一七三	一	一	一
十月十四日不起訴	十月十三日令狀執行	十月九日令狀執行	九月十五日送致		十一月五日送致	十二月十四日送致	十月二十七日令狀執行

大崎	九月二日午後六時頃	府下平塚村二八八先路上	殺人未遂	不逞鮮人ト誤信シ鳶口鉞等ヲ以テ重傷ヲ負ハス	六	一	十月十六日令狀執行
同	九月二日午後五時廿分	府下平塚村下蛇窪三六先路上	傷害	不逞鮮人ト誤信シ木銃棍棒等ヲ以テ毆打傷害ス	六	二	十月十六日令狀執行
同	九月二日午後五時頃	大崎町桐谷星製藥會社附近	殺人未遂	不逞鮮人ト誤信シ棍棒玄能鳶口等ヲ以テ毆打傷害ス	五	四	十月十二日令狀執行
同	九月一日午後六時頃	府下平塚村戸越八四二先路上	傷害	不逞鮮人ト誤信シ銃劍等ニテ傷害ス	二	一	十月二十二日令狀執行
同	九月二日午後五時頃	府下平塚村下蛇窪六九一先路上	傷害	不逞鮮人ト誤信シ棍棒等ヲ以テ毆打傷害ス	五	一	十月十六日令狀執行
大森	九月二日午後六時頃	府下池上村路上	傷害	不逞鮮人ト誤信シ棍棒ヲ以テ傷害ス	一	八	送致
同	同後五時頃	同	傷害	同	五	三	送致
世田谷	九月二日午後五時頃	世田谷町太子堂電車軌道内	殺人	獵銃ヲ以テ射殺ス	一	一	十月十九日令狀執行

中野	九月二日午後十一時頃	府下高井戸村下高井戸路上	傷害	通行中ヲ傷害ス	一一	一	十月八日送致
澁谷	九月三日午前	府下澁谷一七八二先道路	殺人未遂	殺意ヲ以テ傷害ヲ加フ	二	二	十一月九日送致
巢鴨	九月三日午後九時頃	巢鴨町巢鴨橋際	毀棄傷害	指揮刀木銃竹鎗金棒等ヲ以テ傷害ヲ加ヘ自動車ヲ破壞ス	二二	二	十月十四日令狀執行
同	九月四日午前一時頃	被害者宅	殺人	不逞鮮人カ潜伏シ居レリト附近ノ者カ騒ギヤ被害者不逞鮮人ト誤信シテ射殺ス	一	一	九月七日令狀執行
同	九月四日午後三時頃	巢鴨中學校前附近	傷害	被害者ヲ鮮人ナリト稱シテ日本刀ニテ上肢ニ斬リツク	二	一	十月十日令狀執行
同	九月四日午後十二時頃	西巢鴨町字向原三四二六先	傷害	被害者ヲ傷軍人ナリハ社會主義者ナリト稱シ巡査之ヲ傷軍人ニアラザルコトヲ立證シタルヲ以テ鳶口其他ヲ以テ重軍人及巡査ニ輕傷ヲ負ハシム	四	二	憲兵隊ニ移牒令狀執行

同	同	千住	同	同	王子	同	
九月五日午後七時頃	九月四日午後十時頃	九月三日午後五時	九月四日午前十一時	九月二日午前九時	九月五日午前八時ヨリ正午	九月五日午後七時頃	
西巣鴨町池袋一先道路	府下南綾瀬村柳原一六一先道路	千住町二ノ八一先道路	南千住字通新町巡査派出所附近	西新井村本木河出川金次郎方外十戸及上尾久	被害者宅	西巣鴨町池袋一先道路	
傷害	殺人	殺人未遂	殺人	殺人強盗詐欺	強盗及恐喝	傷害	
酔氣ニ乘ジ附近ニ警戒中ノ被害者ヲ毆打負傷セシム	日本刀ヲ以テ被害者ヲ殺害ス	警察署ニ同行中ノ被害者ガ鮮人ヲ之ヲ殺害セントシテ斧ヲ以テ全治二ケ月以上ノ重傷ヲ加フ	巡査ノ保護中ナル被害者ヲ日本刀ヲ以テ殺害ス	金品掠奪及殺害無錢飲食及窃盗ヲ爲ス	棍棒ヲ以テ脅迫シ其他價格百六十六圓ノ物ヲ強奪ス	酔氣ニ乘ジ附近ニ警戒中ノ被害者ヲ毆打負傷セシム	
二	一一	三	一八	七	一	二	
二	七	二	一	一九	三	二	
九月二十一日送致	九月十二日ヨリ十八日迄ニ執行	十月十日執行	十月二十一日送致	十月五日送致	十月二十四日送致	九月二十一日送致	
同	同	同	同	同	同	寺島	
九月四日午前九時卅分	九月三日午後九時廿分	九月四日午後一時卅分	九月三日午後九時廿分	九月三日午後十時	九月四日午前二時	九月三日午前零時	
南足立郡綾瀬村	同西新井村與野二三二先道路	同花畑村字一近橋	千住町二丁目道路ニ於テ	南足立郡花畑村一近橋附近	同江北村鹿濱九三〇先	南葛飾郡大畑荒川放水路河川堤下	
殺人	殺人	殺人	殺人未遂	殺人未遂	殺人	殺人	
同	棍棒猟銃ヲ以テ殺害ス	同	日本刀棍棒ヲ以テ全治二ケ月ヲ要スル重傷ヲ加フ	同	鮮人ト誤認シ棍棒ニテ殺害ス	鮮人ト誤認シ手拳ヲ以テ頭部其他ヲ毆打シ全治十日間ヲ要スル傷害ヲ加フ	
二	二	一〇	四	二	七	一	
一	一	五	一	一	一	一	
十月十日、十一日令狀執行	九月七日令狀執行	九月七日令狀執行	九月七日令狀執行	九月七日送致	十月八日令狀執行	十月六日不起訴	
十月十日令狀執行							

同	同	同	同	同	同	同	同
九月三日午後一時	九月三日午前十時	九月三日正午	九月三日午前十一時頃	九月三日午前七時ヨリ正午迄	九月三日午前九時	九月三日午前八時	九月二日午後五時
府下寺島町玉ノ井	白鬚橋上	寺島町玉ノ井	寺島町玉ノ井	府下吾嬬町木下曳舟通	寺島町玉ノ井	荒川放水路堤下	吾嬬町
殺人	殺人	殺人	殺人	殺人	殺人	殺人	傷害
鈴ヲ以テ刺殺セルモ被告之ヲ否認ス	毆打シ他ノ群衆カ參加シテ打チ斬リシ後川ニ投シ死ニ至ラシム	群衆ニ打倒サレ打倒サレ虫ノ息ト云フ居ルヲ咽喉及腹ヲ刺シ以テ突キ刺シ死ニ至ラシム	群衆ニ打倒サレ居ルヲ日本刀ヲ以テ斬殺ス	玄能ヲ以テ毆打シ負傷セシメ又ハ死ニ至ラシム	斬殺又ハ撲殺ス	撲殺ス	通行中ノ被害者ヲ誰何シ日本刀ニテ傷害ス
一	一	一	一	二	四	一	一
一	一	二	二	二	六	一	一
不起訴	不起訴	十月十九日令狀執行	十月十九日令狀執行	十月十九日令狀執行	十月十日令狀執行	十月十三日令狀執行	十月十日令狀執行

同	同	同	同	同	同	同	同
九月三日午前六時	九月三日午前三時	九月三日午前三時	九月三日午前三時	九月二日午後八時	九月三日午後六時	九月十三日未明	九月二日午後五時
吾嬬町上大畑沿岸	吾嬬町木下水路側地	荒川停留場先	吾嬬町木下水路側地	荒川放水路四木橋際	府下隅田町大倉牛乳店側	吾嬬町木下水路堤	吾嬬町
殺人	殺人	殺人	殺人	殺人	傷害	殺人	傷害
足部ヲピストルヲ以テ狙撃シタルヲ他ノ多數人カ死ニ致ラシム	日本刀ニテ斬殺ス	サーベルニテ斬殺ス	隱レ居タルヲ日本刀ニテ斬殺ス	鐵棒ニテ撲殺ス	日本刀ニテ傷害ス	七首ヲ持チ逃ゲ來ルヲ日本刀ヲ以テ斬殺ス	通行中ノ被害者ヲ誰何シ日本刀ニテ傷害ス
一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一
十月二十九日令狀執行	十月二十八日令狀執行	十月二十八日令狀執行	十月二十八日令狀執行	十月十日令狀執行	十月十日令狀執行	十月十七日令狀執行	十月十三日令狀執行

同	九月三日正午	府下寺島町玉ノ井	殺人	一	杉丸太ニテ撲殺ス	十月二十九日令狀執行	一	一
龜戸	九月三日午後十二時	吾嬬町請地鐵道線路附近	殺人	六	鉞及ステッキニテ撲殺ス	十月三十一日令狀執行	二	一
同	九月三日午後三時	龜戸町遊園地	殺人未遂及殺人	六	石・棍棒、日本刀ニテ殺傷ス	十月十四日令狀執行	三	一
同	九月二日午後八時	府下吾嬬町龜戸鐵道ガード際	傷害	一	壓棒ニテ臀部ヲ傷害ス	十月五日不起訴	一	一
同	九月三日午前五時	吾嬬町龜戸二三九先	傷害	一	斧ヲ以テ頭部ニ切創ヲ負ハス	十月五日不起訴	一	一
同	九月二日午後十二時	吾嬬町葛西川六一七先	殺人	一	不逞鮮人ナリト誤信シ鐵棒ニテ毆打、即死セシム	十月七日令狀執行	一	一
同	九月二日午後十二時	吾嬬町葛西川八八五先	殺人	四	鮮人ト誤認シ毆打死ニ致ラシム	十月七日令狀執行	一	一
同	九月二日午後十二時	吾嬬町龜戸二七六先	殺人殺害ス	四	角材竹槍瓦ヲ以テ毆打死ニ致ラシム	十月五日令狀執行	一	一

同	九月三日午後七時	吾嬬町大畑五一〇先	殺人	一	棍棒ニテ毆打殺害ス	十月五日令狀執行	一	一
同	九月三日午後三時	龜戸町境橋附近	殺人並傷害	一	巡査ガ同行中ノ三名ヲ殺害シ巡査ニ傷害ヲ加フ	送致	四	一
龜戸	九月二日午後十一時	府下龜戸三、二一五先	殺人未遂	一	水中ニ溺レタル被害者ニ猟銃ヲ發射シタルモ命中不明	十月七日不起訴	一	一
同	九月二日午後八時	吾嬬町小村井一五七先	殺人	四	竹槍ヲ以テ毆打死ニ致ラシム	十月二十八日令狀執行	二	一
同	九月三日前七時	同	殺人	六	角材竹槍瓦ヲ以テ毆打死ニ致ラシム	十月二十九日令狀執行	三	一
府中	九月二日午後七時	千歳村烏山	殺人並傷害	一五	嶌口、日本刀、竹槍、棍棒ヲ以テ毆打シ一名ヲ殺害ス	十月七日ヨリ十一月二十五日迄ニ令狀執行	一七	一四
郡計			殺人 四五件 傷害 一六件 強盜 一件 計 六二件	一六二 八五 一 計 二四八			一一四 二九 三 計 一四六	

總計	合計								
		殺人	五五	二〇〇	一三一				
		傷害	一九	九〇	三二				
		强盜	一	一	三				
七五									
二九六									
一一六									

第五　燒殘品ニ對スル犯罪ノ豫防・檢擧

燒跡ニ於ケル燒殘金品ノ盜難豫防警戒ニ關シテハ、震災直後警務部長ヨリ口頭命令ヲ傳達シテ、各署ヲ督勵シ、刑事部ニ於テモ亦、捜査課員ヲ各方面ニ派遣シテ實地警戒ニ當ラシメ、殊ニ金庫又ハ倉庫ノ燒殘レルモノニ對シテハ、軍隊ト協力シテ警戒ノ任ニ當リ、尚ホ各銀行管理ニ屬スル金庫ニ對シテハ充分ナル警戒員ヲ配置シテ之ヲ保護シタレドモ、災後ノ混亂ニ乘ジ、屍體又ハ燒跡ヲ發掘シテ金品ヲ不法領得シ、或ハ罹災者ノ避難・死傷等ニ依リテ看守者ノ不在ヲ奇貨トシ、夜間金庫ヲ破壞シテ金品ヲ窃取スルモノ尠ナカラズ、是ニ於テ、九月七日、木下刑事部長ハ、各署長ニ指示シテ警戒並ニ犯人ノ檢擧ニ努メシムルト共ニ、同日齋藤遺失物係長等ヲシテ「無斷ニ他人ノ家屋燒跡等ヨリ金品ヲ發掘スル者ハ嚴罰ニ處セラルヽヲ以テ、此ノ際濫ニ燒跡ニ立入リテ誤解ヲ招カザル樣注意アリタシト」云ヘル告示一萬枚ヲ市内ノ樞要場所ニ撒布宣傳スルト同時ニ、各署ニモ配付シテ之ヲ要所ニ揭示セシメ、以テ民衆ノ反省ヲ促シ、斯種犯罪ノ豫防ニ努力セリ。

斯クテ日ヲ經ルニ從ヒ、災害當時道路又ハ河川・溝渠内等ニ遺留セル金品ヲ不法領得スルモノヲ生ズルヤ、十月十四日、木下刑事部長ハ、左ノ指示ヲ各署長ニ發シテ取締ノ徹底ヲ期セリ。

拾得金品不正領得取締ニ關スル件（十月十四日號外）

這回ノ災害ニ際シ、罹災者ノ多クハ危險ノ切迫ト共ニ搬出金品ヲ、路上又ハ河川、溝渠ニ投ジ、或ハ水中ニ携帶避難セル儘之ヲ遺留シ、其ノ他船舶ノ燒燬、沈沒等ニ原因スル、河川溝渠ニ埋沒セル金品ハ蓋シ頗ル多額ニ上ルベク思料セラレ候處、此機ニ乘ジ、名ヲ河溝ノ浚渫ニ藉リ、是等金品ノ不正領得ヲ敢テスルモノナキヲ保セザルノミナラズ、從來河溝ヲ浚ヒ諸物件ヲ拾得スルヲ以テ窃カニ其業トナセル者モアルヤニ付旁々斯ノ種ノ者ニ對シ注意ヲ拂フハ勿論、河川、浚渫人夫等ニ對シテモ深ク注意シ、苟クモ金品ヲ不正領得スルコト無之樣嚴重取締ヲ加ヘラルベシ。

既ニシテ捜査課及ビ各署ハ、犯罪ノ捜査ニ努力シタル結果、九月以降十月迄ノ間ニ金庫破四件、漂流物横領十四件、遺失物横領五十件ヲ檢擧スルノ傍、豫防警戒ヲ嚴ニセルヲ以テ漸ク此弊風ヲ一掃スル事ヲ得タリ。

第六　暴利取締

(一)暴利取締ノ方針

震火災ノ影響ニ依リ、一般物價ノ昂騰スベキハ自然ノ趨勢ナリト雖モ、其取締ノ標準如何ハ直ニ經濟界ニ重大ナル關係ヲ及ボスモノアルヲ以テ、九月七日勅令第四百五號生活必需品ニ關スル暴利取締令發布セラルヽヤ、湯淺總監ハ當時物資ノ配給事務ヲ擔當セル、笹井保安部長ヲシテ、生活必需品ノ標準價格ニ就キテ、詳細ナル研究ヲ遂ゲシメ、之ニ依リテ取締ノ範圍並ニ處分ノ標準ヲ定メ、九月九日各署長ニ對シ左記通牒ヲ發シタリ。

生活必需品暴利取締ノ件（九月九日號外）

今次ノ震災ニ際スル暴利取締ノ爲、勅令第四百五號ヲ以テ、生活必需品暴利取締令公布相成候處、之カ取締ニ關シテハ、克ク其趣旨ヲ體セラルヽト共ニ、左記事項了知ノ上、執行上萬遺憾ナキヲ期シ、充分努力相成度

記

(イ)本令ハ物資ノ配給ヲ圓滑ナラシムルノ目的ヲ以テ公布相成候次第ニ有之候條取締嚴ニ失スルトキハ反ツテ物資ノ配給ヲ阻害スル虞アルニ付、其ノ邊可然措置相成度

(ロ)震災前ノ價格ニ比シ、其ノ三割高ヲ超ユルモノハ一先之ヲ暴利ト看ルコトヽス、但シ震災後他ノ地方ヨリ移入シ又ハ生産費、運搬費等ノ一般的昂騰ニ因リ之ヲ斟酌スヘキモノハ懲篤說諭ヲ加ヘテ取締ノ趣旨ニ適セシメ、若シ情狀止ミ難キモノハ罰則ヲ適用シ又現品ヲ徵發スル等必ズ保安部長宛禀議ノ上措置スルコト

參考　暴利取締令竝生活必需品目指定ニ關スル農商務省令ハ左ノ如シ

生活必需品ニ關スル暴利取締ノ件（大正十二年九月七日勅令第四百五號）

震災ニ際シ暴利ヲ得ルノ目的ヲ以テ、生活必需品ノ買占若ハ隱惜ミヲ爲シ、又ハ不當ノ價格ニテ其販賣ヲ爲シタルモノハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ生活必需品ノ品目ハ命令ヲ以テ之ヲ指定ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

暴利取締ノ件ニ依ル生活必需品指定ノ件（大十二年九月七日農商務省令第一號）

大正十二年九月七日勅令第四百五號生活必需品ニ關スル暴利取締ノ件ニ依リ、生活必需品ノ品目ヲ左ノ通指定ス

第二節　特殊犯罪ノ豫防檢擧

一、食料品、
二、炊爨具及食器、
三、薪炭・油其他ノ燃料及照明用品、
四、船車其ノ他ノ運搬具及之ニ使用スル消耗品、
五、建築材料（疊・建具及家具ヲ含ム）及建築用具、
六、藥品其ノ他ノ衞生材料、
七、綿毛糸綿毛布及其ノ製品、
八、紙類
九、梱包用材料、
十、履物雨具及掃除用品、
十一、筆墨其ノ他ノ文房具、

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

尋テ九月十日ニ至リ、笹井保安部長ハ、更ニ生活必需品ノ標準價格ニ關シテ、農商務省商務局ト協議シ、再ビ各署長ニ左記通牒ヲ對シ發シタリ。

暴利取締ニ關スル生活必需品標準價格ノ件（九月十日保安部情報第八號外）

暴利取締ニ關シ、曩ニ依命通牒致置候處、各種ノ標準價格ハ農商務省商務局發表ニ係ル別紙第八號保安部情報登載東京市卸賣並小賣物價表ノ通ニ有之候條、右斟酌ノ上取扱相成度追テ該記載洩レノ物品價格ハ逐次追報ノ見込ニ付申添候

（大正十二年九月十日午後二時）

震災前市内各種標準物價表

一、卸賣物價

品目	産地及標準	單位	自十年一月至十二年六月平均價格	本年自一月至六月平均價格	本年七月價格
玄米	標準米	上一石	三五・七〇 円	三三・四三〇 円	三六・四一〇 円
同	同	中一石	三二・五九〇	三一・一〇〇	三四・二三〇
同	同	下一石	二九・二七〇	二七・八九〇	三〇・九六〇
大麥	茨城三等	一石	九・六一〇	九・五五〇	九・六〇〇
裸麥	讃岐三等	一石	一五・六九〇	一五・五四〇	一六・〇六〇
小麥	茨城三等	一石	一七・八六〇	一五・五〇〇	一六・二七〇
大豆	鶴ノ子大玉二等	百斤	九・三六〇	一三・八四〇	一五・五〇〇
小豆	北海道三等	百斤	一〇・〇五〇	一〇・二二〇	一〇・八七〇
長鶉豆		五等 百斤	一二・七一〇	八・三七〇	六・八〇〇

腕豆	北海道三等	百斤	一二・七一〇	一二・四四〇	一・〇八七〇
小麥粉	竹印（五貫九百匁）	一袋	三・八七〇	三・八九〇	三・三一〇
澱粉	北海道一等	百斤	九・四一〇	一〇・五七〇	一〇・九〇〇
甘藷		十貫	二・九一〇	二・四六〇	二・八八〇
馬鈴薯		十貫	二・六七〇	二・三四〇	一・六二〇
清酒	中	十駄	一、〇〇五・七九〇	九四九・一九〇	九七四・一九〇
醬油	最上	一樽（九升入）	八・一三〇	九・五三〇	六・九九〇
味噌	上	一貫	六八〇	六八〇	七一〇
食鹽	五等	一叭（五十斤）	一・九四〇	一・九〇〇	一・九〇〇
鰹節	伊豆本節	十貫	一八一・三一〇	二〇〇・〇八〇	一八五・五二〇
精製糖	Y K 印	百斤	二七・五九〇	三〇・一九〇	二八・六八〇
分蜜糖	M S 3	百斤	二一・二〇〇	二三・七九〇	二二・九〇〇
茶	駿遠大頭	一貫	六・四〇〇	六・四五〇	七・一五〇
刻煙草	はぎ四十匁玉	一箱（六貫）	五五・三一〇	五三・四〇〇	五三・四〇〇
牛肉	骨付	十貫	五二・三五〇	四八・八二〇	四八・〇〇〇
豚肉	骨付	十貫	三九・六四〇	四三・八三〇	四四・五二〇
鷄卵	鷄鷄	一貫	四・七四〇	五・二六〇	四・八〇〇
地玉	雛鷄	一貫	三九・二七〇	三〇・二〇〇	三二・七四〇

牛乳		一升	三七〇	三七〇	三七〇
鰯（生）	近海	十貫	三九・八〇〇	七〇・八〇〇	七〇・一三〇
鮪（生）	近海	十貫	五四・二〇〇	六一・二〇〇	六一・七一〇
鰆（生）	近海	十貫	二六・三六〇	二六・七五〇	一七・一三〇
鯖（生）	近海	十貫	一五・六八〇	一五・七〇〇	一一・〇八〇
鮭	勘察加	一貫	六・七〇〇	九・七五〇	一三・九七〇
綠綿	天津	百斤	五〇・一五〇	五七・六〇〇	五五・二六〇
綿糸	赤玉子左二十手（五十貫）	一個	三一一・四八〇	二五二・九五〇	一五三・九六〇
大麻	野州	三十貫	二一九・七六〇	一九一・六六〇	二四五・八一〇
銘仙	筋物	一疋	一九・二九〇	一八・二〇〇	一七・六九〇
羽二重	白	百匁	二二・六六〇	二五・九四〇	二六・三〇〇
綿木綿	遠州	一反	一・三八〇	一・三一〇	一・三八〇
晒木綿	知多並二等	一反	七〇〇	七〇〇	七〇〇
モスリン	鷹印赤百番	一反	二一・六四〇	二二・〇一〇	二二・三六〇
羅紗	軍官絨	一碼	三・一一〇	二・一七〇	二・一三〇
石灰	鼠色生石灰（十貫俵）	一俵	七四〇	七五〇	七五〇
セメント	淺野	一樽	八・二七〇	八・三二〇	八・二二〇
普通煉瓦	燒過三等	千個	三三・四七〇	三五・〇〇〇	三六・〇〇〇

屋根瓦	三州並三上桟瓦	百枚	九・二五〇	九・五〇〇	
銑鐵	骸炭銑釜石一等	一噸	六八・四一〇	六七・〇〇〇	
丸鐵	厚六分	十貫	四・九四〇	四・二六〇	
平鐵	厚二分 幅一寸	十貫	四・七九〇	四・三〇〇	
角鐵	厚六分一寸 幅一寸	十貫	四・七九〇	四・三〇〇	
鋼鈑	長四尺八幅十尺	百斤	六・〇一〇	四・八〇〇	
電氣銅	長六尺	一枚	一・〇五〇	九八〇	
亞鉛鍍鈑（波形）	九十封度	一箱	一五・九七〇	一五・二〇〇	
鉄力鈑	十二番二寸	一樽百斤	一四・八八〇	一四・二〇〇	
丸釘	小角四寸二間物	一本	一・七一〇	一・七〇〇	
杉角材	小角四寸二間物	一本	五・〇〇〇	五・〇〇〇	
檜角材	二間物	一本	二・二二〇	二・二八〇	
松六分板	二間物	一坪	二・一四〇	二・一二〇	
杉四分板	二間物	一坪	二・二四〇	二・一九〇	
松丸太	末口五寸乃至七寸長一間半	一本	七・二〇〇	七・二〇〇	
杉丸太	足場用	一本	二・五一〇	二・五〇〇	
若竹	三寸廻乃至四寸廻	一束	一・六一〇	一・六〇〇	
過酸化石灰		一叭（七貫五百匁）	一・三七〇	一・四三〇	
			一〇・九九〇	九・五〇〇	
			六九・一七〇	六七・〇〇〇	
			四・七二〇	四・二六〇	
			五・〇七〇	四・三〇〇	
			四・八七〇	四・三〇〇	
			五・七三〇	四・八〇〇	
			四四・四三〇	五〇・〇五〇	
			一・二四〇	九八〇	
			一三・七六〇	一五・二〇〇	
			一四・三五〇	一四・二〇〇	
			二・〇六〇	一・七〇〇	
			四・九二〇	五・〇〇〇	
			二・四三〇	二・二八〇	
			二・五四〇	二・一二〇	
			六・七四〇	七・二〇〇	
			二・八二〇	二・五〇〇	
			一・七六〇	一・六六〇	
			一・三七〇	一・四三〇	

アンモニヤ	内地純白	一叭	五・八〇〇	八・七二〇	七・七〇〇
硝酸ソーダ	智利	一噸	二一六・〇二〇	一四四・三四〇	一三二・六八〇
干鰯	近海	十貫	四・六七〇	四・四一〇	三・九一〇
鯨搾糟	五等	十貫	八・四一〇	九・二七〇	八・三五〇
菜種油糟	上	百斤	四・三四〇	五・〇七〇	四・五一〇
大豆油糟		一枚（四十八斤）	二・二二〇	二・二三〇	二・〇三〇
麪		一俵	二・四〇〇	二・五二〇	二・一九〇
石油	白蝙蝠印	五十缶入一箱	七・五二〇	六・四三〇	六・〇一〇
石炭	九州一等塊炭	一萬斤	一四三・二三〇	一三八・三三〇	一三五・〇〇〇
薪（雜木）	上物	千束	三八八・四三〇	三三九・五〇〇	三五〇・〇〇〇
木炭	奥州白炭	十貫	三・七六〇	三・三〇〇	三・〇〇〇
菜種油	伊勢物	一箱二斗（二缶）	一三・九四〇	一五・四一〇	一四・一三〇
大豆油		一箱（二缶）	一〇・六〇〇	一二・二三〇	一〇・九七〇
印刷料紙	赤鷲印	一封度	二一・〇〇〇	一八・〇〇〇	一八・〇〇〇
半紙（改良）	土佐美印	一（百帖）綸（一噸）	九・六四〇	七・九八〇	七・四一〇
燐寸（細軸）	神戸一等	一（一噸）打	四六・五四〇	四一・三〇〇	四一・〇〇〇
疊表	備後本口引通	一枚	一・五一〇	一・一四〇	一・四五〇
牛革	鳳凰印象一等	百斤	一六〇・六五〇	一六四・一七〇	一六〇・六五〇

二、小賣物價

品名	銘柄	單位	平均 自本年二月至同六月	九月一日現在
米	一等	一升	円 四一八	円 四五五
同	二等	同	三九六	四四〇
同	三等	同	三八〇	四二五
糯米	三等	同	四〇〇	四一五
改良麥	三等	同	一六〇	一七〇
大豆	鶴ノ子大玉	同	三四〇	三八〇
小豆	北海道三等	同	二七〇	三二〇
玉葱	最上等	百匁	〇六四	〇二五
馬鈴薯	同	同	〇四一	〇二五
麥粉	印	同	〇七五	〇七〇
茶	煎茶三等	一斤	二・〇〇〇	二・〇〇〇
味噌	上赤	百匁	〇八〇	〇八〇
醬油	爺印	一升	一・〇〇〇	一・〇〇〇
食鹽	再製鹽	一斤	〇六六	〇六六
酒	白鶴	一升	二・二九〇	二・二五〇
清酒	エビス	一本	三七〇	四〇〇
砂糖	三盆白	一斤	三四〇	三二〇
鰹節	伊豆本節	百匁	二・〇五〇	二・二〇〇
牛肉	内地ロース	同	一・六〇〇	一・六〇〇
同	青島ロース	同	七七〇	八〇〇
豚肉	一等	同	一・〇〇〇	一・〇〇〇
鷄肉	若雄山	同	一・七〇〇	一・七〇〇
鹽鮭	北海上	同	一六〇	一二〇
鷄卵	地玉子	同	四一〇	四七〇
牛乳		合	一〇〇	一〇〇
煉乳	鶯印	罐	一一〇	四九〇
乾椎茸	靜岡上	匁	八八三	八五〇
乾菲	能州百	匁	四二五	四八〇
乾梅	紀州同	同	三五〇	三〇〇
澤庵漬	馬練	同	〇八三	〇八〇
鰻蒲焼	呼賣	玉	〇二〇	〇二〇
高野豆腐	上	個	一八五	二〇〇
豆腐	上	一丁	〇五〇	〇五〇

晒木綿	極別印	一	反	八七〇
金巾裏地	正花色	一	反	一・九八三
モスリン（白）	白號	一	尺	四三七
縮緬（白）	丹波上物	一	尺	一・三一〇
綿縫糸	白三合	百	匁	一・一八三
綿	青梅上等	一	貫	七・五〇〇
足袋	木綿九文	一	足	七〇〇
木炭	土釜樽丸上	一	俵四貫	一・六〇〇
同	楢堅上	一	俵五貫	二・一五〇
薪	櫟上	一	束	四〇〇
コークス	瓦斯	一	俵七貫	一・三五〇
石鹸	花王	一	個	一五〇
燐寸		十	個入一袋	〇七〇
半紙	黄門印	一	帖	〇四〇
				八五〇
				一・九〇〇
				四〇〇
				一・二五〇
				一・一〇〇
				七・五〇〇
				七〇〇
				一・五〇〇
				二・〇〇〇
				一・三〇〇
				四〇〇
				一五〇
				〇七〇
				〇四〇

然ルニ商人中ニハ種々ノ口實ヲ設ケテ暴利ヲ貪ラントスルモノ漸ク多キヲ加フルノ情勢ナリシカバ、九月十七日、笹井保安部長ハ不當價格ノ認定ニ關シ、左記通牒ヲ各署長ニ發シタリ。

暴利取締ノ不當價格認定ニ關スル件（九月十七日外）

暴利取締上ノ商品ニシテ數多ノ商人間ヲ轉々シ其ノ都度相當ノ利益ヲ加算セラルルカ爲、遂ニ一般需用者ニ對シテハ震災前ノ價格ニ比シ甚シキ高價ヲ以テ販賣セラルヽモノアルヤノ風聞有之候處、斯ノ如キハ震災後ノ生產費及運搬費等ノ一般的昂騰ニ基ク正當ノ價格ニ非ザルヲ以テ、所謂仕入値段ニ拘泥シテ小賣價格ヲ斟酌スベキモノニ無之候間、取締上御留意相成度、

然ルニ東京銅鐵物問屋組合及金物問屋等ハ亞鉛板小賣販賣者ノ暴利ヲ貪レルヲ憂ヒ、聯合共同販賣所ヲ設ケテ其販賣ニ從事セントシ、九月二十一日價格表ヲ附シテ營業ノ許可ヲ申請セリ、之ヲ審査スルニ穩當ナル態度ナレバ直ニ之ヲ允許スルト共ニ、暫ク其提案ヲ以テ暴利取締ノ標準價格ト爲スベキニ決シ、翌二十二日笹井保安部長ヨリ左記通牒ヲ各署長ニ發シタリ。

亞鉛板販賣ニ關スル件（九月二十二日外）

震災後亞鉛板ノ需要夥シク物貨漸ク不足ヲ告ゲムトスル折柄、東京銅鐵物問屋組合及金物問屋ニ於テ、日本橋區小傳馬上町十六番地九道橋際ニ聯合共同販賣所ヲ設ケ、別紙値段表ニ

依リ一般需要者ニ販賣スル趣申出有之、右價格ハ震災後ニ於ケル移入及生産ヲ潤澤ナラシムル爲ニハ止ムヲ得ザルモノト被認候ニ付テハ、一先ツ暴利取締上不當價格認定ノ標準價格ト可致候條價格以上ニ販賣スル者アリタルトキハ之ヲ檢擧スルニ努メラレ度。

追テ右共同販賣所ハ來月二十二日ヨリ開始致スベキ趣ニ付申添候

東京鋼鐵問屋組合聯合販賣價段

東京金物問屋組合

一、亞鉛引平	（三十番）	壹枚ニ付	金一圓八十錢
一、同	（二十八番）	同	同
一、同	（二十六番）	同	金二圓三十錢
一、同生子同	六尺（三十番）	同	金一圓七十錢
一、亞鉛引生子板七尺	（三十番）	同	金一圓九十五錢
一、同	八尺（三十番）	同	金二圓二十錢
一、同	六尺（二十八番）	同	金二圓二十錢
一、同	（三十番）	同	金一圓九十五錢

右　聯合販賣事務所（九道橋際）日本橋區小傳馬上町十番地

（二）暴利取締ニ關スル宣傳

九月七日暴利取締令（勅令第四〇五號）及同令ニ依ル生活必需品ノ指定ニ關スル農商務省令ノ公布セラルルヤ、之ヲ一般民衆ニ周知セシムル必要アルヲ認メ、警務部宣傳隊ハ、先ヅ該勅令及ビ省令ノ全文ヲ印刷シテ市郡ヘノ大宣傳ヲ試ミ、尋テ又其大意ヲ記シタル告示文ヲ起草シテ之ヲ各署ヘ頒布シ、適當ノ方法ニ依リテ要所ニ掲載セシムル事ト爲シ、同月十二日更ニ笹井保安部長ヨリ左記通牒ヲ各署長ニ發シタリ。

暴利取締ニ關スル宣傳ノ件（九月十二日外）

暴利取締ニ關シテハ夫々勵行中ノコト、思料セラレ候得共、一般ニ之ガ趣旨ヲ周知セシムルハ各商人ヲシテ自制セシムルコトヽ相成ルベキヲ以テ、左記ノ文案ヲ適當ノ方法ニ依リ要所ニ掲示スル等周知ノ方法ヲ採ル樣被致度

追テ申告ヲ受理シタル場合ハ、誇大嘘僞、中傷等ノ有無ニ留意シ、取締上遺算無キヲ期セラレタシ。

記

生活必需品ノ買占若ハ賣惜ミヲ爲シ、又ハ不當ノ價格ニテ其ノ販賣ヲ爲ス商人ガアリマシタラ、其ノ事實ヲ最寄警察署又ハ派出所、駐在等ニ申告シテ下サイ。暴利ヲ得ル目的デ右ノ行爲ヲ爲シタ者ハ其ノ情狀ニ依リ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處セラルヽコトニナツテ居リマス

是日官房文書課宣傳係ニ於テモ亦市郡ニ亙リテ大宣傳ヲ爲シ、以テ暴利者ノ豫防並ニ取締ノ徹底ヲ期シタリシガ其宣傳文ヲ擧グレバ、

暴利取締

「市民ノ罹災困憊ニ乘ジ暴利ヲ貪ルモノアラバ、直ニ警察署又ハ巡査派出所ニ申告セヨレ度官民協力取締ヲ斷行セム」

(3)　暴利者ノ檢擧

(ロ)檢擧ノ方針ト各署ノ督勵

生活必要品ノ市價及ビ暴利取締ノ一般的範圍並ニ處分ノ標準等ハ上文ニ述ベタルガ如シ、而シテ暴利者ノ檢擧ニ關シテハ、刑事部ニ於テ司法當局ト協議ヲ重ネテ檢擧ノ方針ヲ定メ、犯人ノ檢擧ヲ勵行シ、之ガ處分ノ標準ニ付テハ保安部長ノ通牒ニ依ラシムルコトヽシ、爾來之ニ依リテ各署ヲ督勵シタリシガ、九月八日峰島警部等ヲシテ檢擧ノ事ニ專從セシメ、更ニ同月二十六日以降ニハ佐藤警部補等ヲモ其員ニ加ヘテ時弊ノ匡救ニ銳意セシガ、更ニ萬全ノ策ヲ講ゼンガ爲ニ、同月十二日木下刑事部長ハ暴利取締令ノ勵行ニ關スル左ノ指示ヲ各署長ニ發シタリ。

暴利取締ニ關スル件（九月十二日外）

震災ノ爲多數市民ハ困憊ノ極ニ達シ、將ニ生活ノ安定ヲ失シ居ル折柄、奸商ノ跋扈スルアリテハ、市民殊ニ罹災民ノ窮狀測ルベカラザル實況ニ有之各位ニ於テハ既ニ相當取締ニ從事シツヽアリト雖モ、昨今各所ニ於テ暴利ヲ貪ルモノヽ漸ク多カラムトスルノ狀アリ、此際部下ヲ督勵シ暴利取締令ヲ勵行シ、其ノ犯情甚シキモノハ嚴重ニ之ヲ檢擧シ、一般ヲ警醒スルノ途ニ出ヅル等、時局匡救上萬遺算ナキヲ期セラルベシ。

而シテ小賣商ノ販賣價格ノ騰貴ハ、卸賣商ガ暴利ヲ貪ルニ基因セルニ依リ、暴利取締ノ目的ヲ貫徹セントセバ、先ヅ卸賣商中ノ暴利者ヲ檢擧セザル可カラズ、是ニ於テ九月十三日木下刑事部長ハ各署長ニ左記指示ヲ發シタリ。

暴利取締ニ關スル件（九月三日外）

時下暴利取締ニ關シテハ、各位努力ノ結果相當ノ實績ヲ收メツヽアリト雖モ、彼ノ卸商ニシテ今尙卸賣標準價格ヲ無視シ居ルモノアリ、爲ニ小賣商人ニ於テ其ノ標準價格ヲ遵守スルコト困難ノ事情アルモノ勘カラザルヤノ聞ヘ有之、斯クテハ暴利取締令ノ徹底ヲ期シ難ク甚遺憾トスル處ニ候就テハ實際取締ニ當リテハ此邊ノ實情篤ト調査ノ上若シ右樣ノ事實

アル時ハ其ノ卸商人ノ他署管內（又ハ他府縣）ニ屬スルト否トヲ問ハズ、照會其ノ他ノ方法ニ依リ迅速ニ取調ベ檢擧ノ方法ヲ講ジ、以テ同令ノ精神ヲ貫徹スルコトニ努メラルベシ

然ルニ各署ニ於テハ、暴利者ノ檢擧ヲ爲スニ當リ、保安部通牒ノ取締方針ニ適合スルヤ否ヤニ惑ヒ、稟議ヲ待ツテ執行セムトセルモノナキニ非ズ、之ガ爲却テ時機ヲ失シ、暴利者ヲシテ跋扈セシムルノ憾アリ、是ニ於テ、木下刑事部長ハ九月十三日ヲ以テ各署長ニ對シ、其犯情ノ甚シキモノハ總テ之ヲ檢擧シ、然ル後保安部ノ指揮ヲ仰ギ、或ハ說諭ニ止メ、或ハ檢事局ニ送致スル等、臨機ノ處分ヲ取ルベキ旨ヲ指示シ、取締ノ貫徹ヲ期セリ。

斯クテ九月二十二日、司法當局ヨリ、暴利者ノ得タル不當利益卽チ其暴利額ハ之ヲ政府ニ沒收スルコトニ決定シタル旨通達アリタレバ、木下刑事部長ハ笹井保安部長ト共ニ、各署長ニ對シテ左記指示ヲ發シタリ。

暴利取締令該當者檢擧ニ關スル心得方ノ件（九月二十二日號外）

暴利取締ニ就テハ從來數次ノ通達ヲ重ネ各位亦其ノ趣旨ニ則リ鋭意之ガ取締ニ從事シツツアル處ニ有之候處今後一層該取締ノ實ヲ擧ゲル必要上暴利ヲ得ムガ爲標準價格ヨリモ高價ニ商品ヲ販賣シタルモノハ、刑法第十九條ニ依リ其差額ヲ沒收スルコトニ決定シタル趣ニテ、今般司法當局ヨリ通達ノ次第有之候ニ付テハ、自今左記各項ニ依リ處置シ、事犯檢擧上遺憾ナキヲ期セラルベシ。

記

（一）被告ハ現行又ハ準現行犯トシテ、可成身柄ヲ送致スルコト

（二）刑法第十九條ニ基ク沒收ナルニ付、其ノ賣上現在金ノ內該差額（卽チ暴利高）ニ相當スル金員ヲ押收シテ檢事局ニ送致ノコト。

（三）右差額算出方ニ關シテハ、先ヅ其ノ賣價ニ付諸般ノ事情ヲ參酌シ、嚢ニ保安部長ヨリ通牒（九月九日十日附及同十七日附）ノ趣旨ニ依リ、愼重ニ其ノ標準價格ヲ定ムルコト

（四）會社ニ係ル暴利行爲ハ、其ノ重役又ハ從業員ノ行爲トシテ取扱フベキコト

（五）從業員ノ暴利取締令該當者措置方ニ關シテハ、凡テ稟議ヲ要シタルモ自今右標準價格ニ關シ、又ハ訴追處分ヲ爲スニ付、特ニ疑義ヲ生ジタル場合ニ限リ、保安部長ニ稟議スベキコト

（六）差額押收ヲ爲スニ際シテハ關係者ニ對シ、司法當局ノ決定ニ基クモノナルコトヲ說示シ誤解ナカラシムルコトヲ期スベキコト

（七）取締令ハ不當ノ利得ヲ防止シ物資ノ配給ヲ圓滑ナラシムルヲ趣旨トスルモノナルニ依リ、取締嚴ニ失シテ却テ配給ヲ沮害セシムルガ如キ措置ナキヲ期スルト共ニ、事財產上ノ利害ニ關係スルヲ以テ、愼重考慮ヲ回ラシ、徒ラニ物議ヲ釀スガ如キコトナキ樣注意ノコト（後略）

第二節　特殊犯罪ノ豫防檢擧

(二)　檢擧ノ成績

刑事部捜査課及ビ各署ニ於ケル取締ノ勵行ト、被害者ノ申告トニ依リテ、管下ノ暴利者ハ悉ク之ヲ檢擧セルノミナラズ、司法當局ニ於テモ亦時弊ノ匡救上、迅速ニ事件ヲ處理シ、判決ヲ下セルヨリ、奸商等遂ニ屏息シ、一般商人モ互ニ相戒メタル結果、能ク災後ニ於ケル物價ヲ調節シ、物資ノ分配上平均ヲ得タルガ如シ。今、九月七日以降十月末日ニ至ル暴利取得者ノ檢擧件數四百二十二件ニ就キ、農商務省令第一號ノ指定セル生活必需品目ニ區別スレバ左表ノ如シ。

自九月七日
至十月三十一日暴利取得者檢擧件數表

品目別	件數	檢擧件數		
		九月	十月	計
一、食料品、	四〇	六	三四	七四
二、炊爨具及食器、	一八三	一	一一	一七
三、薪　炭、油其ノ他燃料及照明用品、	一	五	七	一二
四、船車其ノ他運搬具及之ニ使用スル消耗品、	一一六	二	二	三
五、建築材料建築用具、(疂・疊・建具及家具ヲ含ム)	二九九	三	一一六	一二九
六、藥品其ノ他衞生材料、	二四〇	一	一八二	一二四
七、綿毛、綿毛糸、綿毛布及其ノ製品、	一	一	二	三
八、紙　類、	二	二	三	五
九、梱包材料、	二	二	三	五
十、履物、雨具及掃除用品、	二	二	三	五
計	四二二	一	一八二	二四〇

第七、　救護品救恤品ニ關スル犯罪ノ檢擧

九月中旬ヨリ十月ノ交ニハ、內外ノ救護品、救恤品等續々帝都ニ輻輳セシガ、區・町・村ニ於テハ、民間ヨリ臨時救護配給委員ヲ囑託シ、在鄉軍人團・青年團・自警團員等ノ應援ヲ得テ、敏速ナル配給ヲ行ヒ、當廳亦之ガ監視ヲ怠ラザリシト雖、其間往々ニシテ不正行爲ニ出ヅルモノアリ、之ガ爲ニ罹災者中一般配給ノ公平ヲ擬ヒ、非難ノ聲漸ク起ル。

是ニ於テ、各個ノ情報ニ就キテ詳細ナル內偵ヲ遂ゲ、十月末日迄ニ日暮里町役場臨時救護委員二名ニ係ル配給品橫領事件、及ビ上野竹ノ臺ニ於ケル罹災民中、帝國大學生救護團ヨリ配給委員ヲ囑託セラレタルモノ四名ニ係ル救護品橫領事件ヲ

檢擧セリ。然ルニ芝浦ニ於テ救護品、救恤品ノ陸揚運搬ニ從事スル日傭人夫ニシテ、混亂ニ乘ジ、取扱品ノ掠取、窃盜ヲ爲スモノ多キヲ探知シ、捜査課員吉川警部等ヲ特派シ、三田警察署ト協力シテ六十二件ヲ檢擧セリ。而シテ、配給ヲ受クベキ罹災者中、虚僞ノ人員ヲ申告シテ、配給品ノ騙取ヲ企ツルモノアルガ故ニ、嚴重ナル監視ニ依リテ其豫防ニ努メ、十月二十日小石川區音羽町配給所管理者ニ係ル斯ノ種詐欺事件ヲ檢擧シ、弊害ノ一掃ヲ期セリ。

第八、其他ノ犯罪ノ豫防警戒

災後ニ於ケル重要犯罪ノ外、一般情勢ノ推移ニ依リ、種々ナル犯罪ノ行ハルベキ傾向ヲ呈シタレバ、屢々各署ニ對シテ其豫防警戒ニ關スル指示ヲ發シ、違反者ノ檢擧ニ努メシメタルガ、今其重ナルモノヲ擧グレバ左ノ如シ。

(一)　强窃盜及ビ火災ノ豫防

災後日ヲ經ルニ從ヒ、罹災者ノ燒失地域ニ復歸シテ、假小屋ヲ建築スルモノ漸ク多キト共ニ、燒殘地域ニ於ケル避難民ノ移住亦多數ニ上ルヤ、之ニ伴ヒテ强窃盜又火災被害ノ簇出セン事ヲ慮リ、其豫防警戒ニ關スル注意ヲ促ガサンガ爲ニ、

九月二十二日、木下刑事部長ハ左ノ指示ヲ各署長ニ發シタリ。

犯罪警戒取締ニ關スル件

震災被害地區ニ在リテハ各方面共假小屋又ハ共同バラック建居住者日ヲ趁ウテ增加シ、一面被害地以外ハ多數罹災者同居者等ノ爲混雜ヲ來シ、從テ强窃盜又ハ火災被害ノ虞有之候ニ付テハ此際是等ノ豫防警戒ニ付特種ノ方法ヲ講ズル等、取締上萬遺憾ナキヲ期セラルベシ

(b)　婦女誘拐ノ取締

罹災者中扶養者ヲ喪ヘル婦女ノ多數ニ上ルハ明白ナル事實ニシテ、其生活ノ窮乏ニ乘ジ、誘拐ヲ試ミントスルモノ亦必ズ尠ナカラザルベシトハ、本廳ノ豫想セル所ナリ。是ニ於テ、九月三十日、木下刑事部長ハ各署長ニ對シ、左ノ指示ヲ發シテ取締ヲ勵行シ、斯ノ如キ憫ムベキ婦女ヲシテ毒手ヨリ免レシメン事ヲ期セリ。

婦女誘拐ニ關スル取締ノ件

今次ノ大震災ニ依リ、死歿シ又ハ行衞不明トナリタルモノ頗ル多數ニ上リ、爲ニ親子夫妻離散シ、扶養者ヲ喪ヒタル婦女子亦甚ダ少カラザル情況ニ候處、世上或ハ罹災者救助ノ美名ノ下ニ或ハ種々惡辣ナル手段ニ依リ、是等憫ムベキ婦女子ヲ營利又ハ猥褻ノ爲誘拐セムトスル

モノ漸ク多カラムトスルノ聞ヘ有之候ニ付テハ、其ノ署管内罹災者避難所、救護所ニ對シ細心ノ注意ヲ加フベキハ勿論、一時救助ノ爲個人ノ居宅又ハ工場、寄宿舍等ニ婦女子ヲ收容シ居ルモノニ付テモ、相當査察ヲ遂ゲ、若シ誘拐ノ虞アル場合ハ、其ノ事情ヲ詳細取調ノ上苟且ニモ犯罪行爲ヲ認ムルトキハ嚴重ニ檢擧スル等、取締上遺憾ナキヲ期セラルベシ

(c)　郵便貯金通帳詐欺、軍用電線切斷、自轉車窃盜等ノ豫防警戒

十月十一日木下刑事部長ハ、標記ノ各種犯罪ニ關シテ、左ノ指示ヲ各署長ニ發シテ、豫防、檢擧ヲ爲サシメタリ。

犯罪豫防檢擧ニ關スル件

近時左記犯罪續發ノ傾向有之候ニ付テハ、時節柄其ノ署管内ヲ嚴密手配ノ上、是等犯人ノ豫防檢擧ニ努メラルベシ

記

(一)　郵便貯金通帳詐欺事件

災害後郵便局員ナリト詐稱シ民家ニ到リ「這回ノ災害ニ付貯金臺帳ヲ燒失シタルヲ以テ貴殿ノ郵便貯金通帳ノ記號竝金額ヲ知リタシ云々」ノ口實ノ下ニ、一片ノ受取證ト引換ニ貯金通帳ヲ預リ行キ該貯金ヲ詐取セムトスルモノアリ

(二)　軍用電線切斷事件

目下戒嚴令下ノ市、郡ニ亙リ軍用電話(信)架設セル所、諸所ニ於テ該電線ヲ切斷窃取スルモノアリ、現ニ本月六日近衞工兵大隊ト吾妻橋保護兵間ニ架設ノ電線ヲ淺草區山谷町ニ於テ約十五米突切斷窃取シ、尚騎兵第十三聯隊架設ノ小瀧橋、中野電信隊間ノ電線ヲ、道路上伊勢宮下附近ニ於テ約五、六米突切斷窃取シタル事實アリ

(三)　自轉車窃盜事件

災害以來交通機關ノ杜絶ニ伴ヒ、自轉車ノ盜難被害續發シ、痛ク被害者ノ困感セル處ナルカ今日尚ホ同一被害減少セズ、而カモ之カ犯人ノ檢擧甚ダ渺キ現狀ニ付、嚴重取締ヲ要ス、尚ホ自轉車窃盜犯人ヲ檢擧シタルトキハ叙上ノ被害情況ニ顧ミ、他ニ同一犯罪ナキヤ嚴重取調ノ上妥當ニ措置シ、輕々ニ微罪釋放ノ取扱ナキ樣留意セラルベシ

(d)　赤十字記章名稱濫用者ノ取締

本廳ガ軍隊ト協力シテ、市、郡要所ニ檢問所ヲ設ケ、通行者ニ對スル警戒嚴重ヲ加フルニ及ビ、往々ニシテ自動車其他ニ赤十字記章、名稱等ヲ濳用シ、又ハ之ニ類似セルモノヲ濫用スルモノアリ、其取締モ亦等閑ニ附ス可ラザルガ故ニ、十月十八日木下刑事部長ハ左ノ指示ヲ各署長ニ發シタリ。

赤十字記章名稱濫用者取締方ノ件

震災以來自動車救護所其ノ他ノモノニ赤十字記章、名稱ヲ濳用シ又ハ之ニ類似ノモノヲ濫用シテ相當ノ利便ヲ得又ハ得ムトスルモノ勘カラサル模樣有之候處、本件ニ付テハ別紙寫

ノ勅令モ公布セラレ居ル次第ニ付逆反者ニ對シテハ嚴戒ヲ加ヘ、特ニ惡意ニ出ヅルモノハ罰則ヲ適用スル等取締上萬遺憾ナキヲ期セラルベシ

（別紙）赤十字記章・名稱等使用者處罰ノ件（略）

（c）賭博犯ノ豫防檢擧

災後一般人心ノ荒廢セルニ際シ娯樂機關亦廢滅シテ民衆ハ慰安ヲ求ムルニ由ナク、一面罹災者中ノ心ナキ者ハ救護金品ノ配給ヲ受クルニ安ンジ、却テ其生業ニ勵マサルモノアルニ至リシ爲、遊惰ノ弊習其間ニ瀰蔓シ、賭博ニ恥ケル等、風俗ノ頽廢ヲ促サントスルノ傾向アリ、延イテハ各種犯罪ノ素因タルノ虞アルガ故ニ、嚴重ナル取締ヲ爲スノ必要ヲ感ジ、十月二十日木下刑事部長ハ左ノ指示ヲ各署長ニ發シタリ。

賭博犯豫防・檢擧ニ關スル件

震災後時日經過スルニ隨ヒ、或ハバラック内或ハ路傍空地等ニ金錢ヲ賭シ、博奕ヲ敢行スルモノ頓ニ增加ノ傾向アリ、本犯罪ノ如キハ固ヨリ重大事犯ニ非ザルモ其ノ取締ノ適否ハ、竟ニ災害後ノ人心ヲ矯リテ惰弱ニ陷ラシムルノ虞アルモノニシテ、延テ各種ノ犯罪ヲ胚胎シ、影響スル處寔ニ尠カラズ、時節柄寒心ニ堪ヘザル事象ニ付、部下ヲ督勵シ、同犯罪ノ警戒取締ヲ嚴ナラシムルト共ニ、其ノ檢擧ニ努メラルベシ。

（d）掏模ノ豫防檢擧

災後交通機關ノ漸次恢復セラルヽヤ、汽車モ電車モ共ニ滿員ノ狀態ヲ呈シタレバ、車内ノ混雜ニ乘ジ、掏模ノ跋扈甚シク、被害頻發シタルヲ以テ、木下刑事部長ハ又其豫防・檢擧ヲ行ハントシ、十月二十六日左ノ指示ヲ各署長ニ發シタリ。

掏模犯豫防・檢擧ニ關スル件

震火災以來交通機關不備ノ結果、汽車、電車ノ混雜名狀スベカラザル狀態ニシテ、此ノ機ニ乘ジ掏模犯ノ橫行スルハ必然ノ勢ナルベキモ、之ガ被害近時著シク激增ノ狀アルハ深ク遺憾トスル處ナリ、各位ハ部下ヲ督勵シ、各鐵道驛、電車其ノ他雜踏ノ場所ニ嚴密ノ手配ヲ加ヘ之ガ豫防・檢擧ニ努メラルベシ

第九、犯罪被害並ニ其檢擧件數及ビ微罪釋放者數

九月一日以後ニ發生シタル各種犯罪ハ、震火災ノ社會ニ及ボシタル影響ニ基因スルモノ多數ヲ占メタレバ、其處分ニ就キテモ、被告人ノ性格、犯罪ノ動機、檢擧後ニ於ケル改悛ノ有無及ビ被害並ニ家族ノ生活狀態等ヲ參酌シ、事犯輕微ニシテ而モ再犯ノ虞ナキモノノ如キハ、其情ヲ察シテ微罪釋放ニ附スルハ、刑事政策上最モ適切ナルヲ思ヒ、此ノ方針ヲ徹底セシメンガ爲ニ、九月十三日木下刑事部長ハ左ノ指

示ヲ各署長ニ發シタリ。

犯罪檢擧ニ關スル件(九月十三日號外)

震災時下ニ於ケル諸種ノ犯罪豫防及檢擧方ニ付特ニ努力ヲ要スヘキハ曩ニ指示セシ處ニ有之、是等犯人、特ニ竊盜犯ノ如キ檢擧ノ場合ハ其ノ犯情ヲ篤ト調査シ四圍ノ事情竝本人改悛ノ狀如何等十分參酌ノ上微罪釋放處分ノ活用ニ就キ深ク留意セラルヘシ

斯クテ此方針ニ則リテ、專ラ微罪釋放處分ノ活用ニ留意スル所アリ、九月以後十二月ニ至ル迄ノ總檢擧件數一萬五千七百八十五件ニ對シ、一千三百四十七人ノ微罪釋放處分ヲ爲シ、更ニ輕微ナルモノニ至リテハ說諭ニ止メタルモノ亦多數ニ上レリ。今、同上期間ニ於ケル犯罪被害及其檢擧件數竝ニ微罪釋放者數ヲ前年同期ニ比較スルニ左ノ如シ。

震災時下犯罪被害竝檢擧件數調

月別	年別比較	殺人 被害	殺人 檢擧	放火 被害	放火 檢擧	強盜 被害	強盜 檢擧	竊盜 被害	竊盜 檢擧	詐欺及恐喝 被害	詐欺及恐喝 檢擧	横領 被害	横領 檢擧	其他刑法犯 被害	其他刑法犯 檢擧	諸規則命令違反 被害	諸規則命令違反 檢擧	合計 被害	合計 檢擧
九月中	大正十二年	一一〇	一一〇	二五	一三	五	三	一、八九六	九七三	九二	七四	一二一	一二九	二〇四	二四〇	六三九	五七一	三、〇九二	二、一一三
	大正十一年	五	七	五	四	一八	二一	二、九八五	二、一七八	三四八	一、〇九五	二六一	八〇五	四五八	六二九	一、〇七一	一、四七〇	五、一五一	六、二一〇
	比較 增	一〇五	一〇三	二〇	九														
	比較 減					一三	一八	一、〇八九	一、二〇五	二五六	一、〇二一	一四〇	六七六	二五四	三八九	四三二	八九九	二、〇五九	四、〇九七
十月中	大正十二年	四〇	四六	一一	一二	五	七	二、七六五	二、一四〇	一三四	二一三	一七五	四〇〇	三九八	四五七	三五四	七四一	三、八八二	四、〇一六
	大正十一年	一六	一七	五	四	二一	一一	三、一四四	二、一六三	三五八	八一二	二七〇	八二二	四三七	七四三	八〇	一五九	四、三三一	四、七三〇
	比較 增	二四	二九	六	八											二七四	五八二		
	比較 減					一六	四	三七九	二三	二二四	五九九	九五	四二二	三九	二八六			四四九	七一四
十一月中	大正十二年	八	八	七	六	六	八	三、二三六	一、九二三	一七六	三三三	二〇四	四六四	五九〇	七五三	一七五	二八八	四、四〇二	三、七八三
	大正十一年	八	七	三	四	一三	八	三、三〇三	二、三五八	三七五	七〇〇	二一六	七三五	四四九	六一四	八九	一三一	四、四五六	四、五五七
	比較 增		一	四	二									一四一	一三九	八六	一五七		
	比較 減					七		六七	四三五	一九九	三六七	一二	二七一					五四	七七四
十二月中	大正十二年	一一	一三	八	四	八	一〇	四、一七七	三、三九三	二五〇	五九〇	二八一	七三二	六六六	八五三	一九一	二七八	五、五九二	五、八七三
	大正十一年	八	九	一七	一〇	二六	一七	三、八三一	二、五六〇	四八六	一、三一二	二九八	八六八	五四二	七二五	一一五	一五八	五、三二三	五、六五八
	比較 增	三	四					三四六	八三三					一二四	一二八	七六	一二〇	二六九	二一五
	比較 減			九	六	一八	七			二三六	七二二		一三六						
計	大正十二年	一六九	一七七	五一	三五	二四	二八	一二、〇七四	八、四二九	六五二	一、二一〇	七八一	一、七二五	一、八五八	二、三〇三	一、三五九	一、八七八	一六、九六八	一五、七八五
	大正十一年	三七	四〇	三〇	二二	七八	五七	一三、二六三	九、二五九	一、五六七	三、九一八	一、〇四五	三、二三〇	一、八八六	二、七一一	一、三五五	一、九一八	一九、二六一	二一、一五五
	比較 增	一三二	一三七	二一	一三											四			
	比較 減					五四	二九	一、一八九	八三〇	九一五	二、七〇八	二六四	一、五〇五	二八	四〇八		四〇	二、二九三	五、三七〇

震災時下徵罪釋放者調

月別	種別	竊盗 男	竊盗 女	横領 男	横領 女	詐欺 男	詐欺 女	傷害 男	傷害 女	賭博 男	賭博 女	其他刑法ノ犯 男	其他刑法ノ犯 女	特別法犯 男	特別法犯 女	合計 男	合計 女
九月中	大正十二年	一〇六	一三	一六	二	五	二	四					一	六		一三七	一八
	大正十一年	八六	一三	一八		一三						四		一		一二二	一三
	比較増	二〇			二		二	四					一	五		一五	五
	比較減			二		八						四					
十月中	大正十二年	二二四	三七	三二	七	一〇		三		四	一	四		二		二七九	四五
	大正十一年	七八	一三	一四		一三						一				一〇六	一三
	比較増	一四六	二四	一八	七			三		四	一	三		二		一七三	三二
	比較減					三											
十一月中	大正十二年	二六九	五五	二九	七	一四	一	七		七		四				三三〇	六三
	大正十一年	一〇一	二〇	六	二	一六		一		六	五	三				一三三	二七
	比較増	一六八	三五	二三	五		一	六		一		一				一九七	三六
	比較減					二					五						
十二月中	大正十二年	二九九	七二	五八	八	二一		五		九		二	一			三九四	八一
	大正十一年	一一二	二〇	一六	二	九	一	七		一四		三	一	一	一	一六二	二五
	比較増	一八七	五二	四二	六	一二										二三二	五六
	比較減						一	二		五		一		一	一		
計	大正十二年	八九八	一七七	一三五	二四	五〇	三	一九		二〇	一	一〇	二	八		一、一四〇	二〇七
	大正十一年	三七七	六六	五四	四	五一	一	八			五	一一	一	二	一	五二三	七八
	比較増	五二一	一一一	八一	二〇		二	一一					一	六		六一七	一二九
	比較減					一					四	一			一		

第七章　捜索人留置人ニ對スル措置並鑑識施設

第一節　捜索人

本廳刑事部ニ於テハ、震火災ノ突發ト共ニ之ニ基因スル迷兒・迷人其他所在不明者ノ多數ニ上ルベキヲ豫想シ、直ニ木下刑事部長監督ノ下ニ、望月庶務課長ヲシテ捜索人發見ニ關スル事務ヲ、岩藤鑑識課長ヲシテ迷兒・迷人ノ救護ニ關スル事務ヲ擔當セシメ、幸ニシテ好成績ヲ擧グルヲ得タリ。今其概要ヲ左ニ錄セントス。

第一　迷兒・迷人ノ保護

望月庶務課長岩藤鑑識課長・ハ命ヲ承クルト共ニ、直ニ諸般ノ準備ニ着手シ、九月二日以降、部下ヲ丸ノ内附近ノ公園及ビ廣場ニ派遣シテ、迷兒・迷人ノ救護ニ從ハシメタルガ、其當日ニハ四十四人、翌三日ニハ八十一人、四日ニハ十四人、七日ヨリ十二日迄ニハ九人、合計百四十八人ヲ本廳假本部内（府立第一中學校及府立商工奬勵館内）鑑識課ニ收容セリ。卽チ竹内・山口兩技手及ビ巡査書記十名ヲ其專屬トシ、更ニ庶務係高倉・小松兩警部補及ビ巡査四名ヲシテ之ヲ助ケシメ、又特ニ收容ノ乳兒哺育ノ爲ニ看護婦ヲモ配置スルナド、意ヲ用ヒルト共ニ、迷兒ニ對スル食料ノ如キハ、當時ナホ未ダ一般罹災者ニ配給セザリシ牛乳ビスケツト其他ノ滋養物ヲ給與シ、且數次ノ入浴ヲモ爲サシメタルノミナラズ、世上同情ノ士ノ寄贈ニ係ル衣服・玩具・菓子等ヲモ頒チタレバ、就レモ能ク職員ニ馴レ、就學兒童ニ至リテハ、寄贈ノ教科書ニ依リテ、教示ヲ求ムルモノアルニ至ル。

斯クテ本廳及ビ各署ニハ、多數ノ迷兒・迷人ヲ收容シタレドモ、引取人ノ來ルモノ猶ホ寥々タルヲ以テ本廳ハ先ツ其氏名・年齡・容貌・服裝等ヲ調査シテ、之ヲ一般民衆ニ周知セシメ、以テ父母・親戚等ノ捜索ニ便ナラシムル事ノ急務ナルヲ認メ、九月五日、木下刑事部長ヨリ各署長ニ對シ、左記指示ヲ發シタリ。

迷兒・迷人調査方ノ件

「迷兒・迷人名ヲ一般ニ周知セシムル處置上必要有之候條、其ノ署保護中ニ係ル迷兒・迷人調査ノ上左記樣式ニ依リ折返シ當部宛報告セラルベシ

追テ今後ニ於ケル迷兒・迷人ハ當分ノ間時々同樣式ニ依リ報告セラルベシ

（様式）

年　月　日　迷兒・迷人調査表　警察署

被保護者住所	氏名	年齢	人相着衣特徴

翌六日、各署ヨリノ報告ニ接スルヤ、本廳保護ノモノヲ併セテ約三百通ノ名簿ヲ作成シ、之ヲ各署及ビ東京市調査課其他必要ノ公共團體ニ回付シテ、要所ニ掲示セシメ、更ニ課員ヲ市・郡各所ニ派遣シテ、宣傳ビラ數千枚ヲ撒布シ、又自動車上ヨリノ口頭宣傳ヲ試ムル等、苦心一方ナラズ、其宣傳文ニ曰ク

「震災以來警視廳及各警察署分署ノ手ニ收容保護中ノ迷兒・迷人名ハ、全部當部ニ取纏メ配付シ、一般尋ネ人ノ問合セニ應シ居ルニ付、心當リノ方ハ至急警視廳又ハ各警察署ニ出頭セラレ度シ。」

迷兒・迷人ニ關スル掲示ト、宣傳トハ、其功空シカラズ、殊ニ災後數日ヲ經過シ、世情漸ク鎭靜ニ歸セントスル傾向ノ生シタル際ナリシカハ、之レニ依リテ、或ハ其所在

ヲ知リ、或ハ知ラムトシテ收容所ヲ來訪スルモノ漸ク多ク、本廳收容者百四十八名中ノ百二十九名ハ、皆引取人ヲ得テ再ビ家庭ノ人ト爲リ、三名ノ女性ハ本人ノ希望ニ依リテ確實ナル家庭ニ奉公セシメタレトモ、生後約二週間ノ病兒一名ハ療養ノ甲斐無ク、九月八日ニ死去セシガ、是日ノ現在員僅カニ十五名ノミトナレリ。當時、各署ニ收容セル者亦七百十三名ヲ有セシガ、其大部分ハ保護者ニ交附セリト雖、尚引取人ナキモノモ尠ナカラザルヲ以テ、本廳ハ東京市ト交涉シテ、此不幸ナル人々ヲ、同市社會敎育課ニ引渡ス事ヲ協定セリ。茲ニ同課ニテハ更ニ之ヲ、基督敎青年會内ニ事務所ヲ有スル日曜學校協會ニ其保護ヲ委託シ、青山學院内、青山女學院ニ收容スベキコトニ定マリシカバ、九月十一日ヲ以テ各署長ニ對シ、左記指示及ビ附屬書類ヲ發シテ其處置ヲ執ラシメタリ。

迷兒・迷人引渡方ノ件

「本月一日以來其ノ署ニ於テ收容保護中ノ迷兒迷人ニシテ、未タ引渡人無キモノハ東京市社會局ニ引渡シ、收容セシムルコトニ交涉濟ニ付、同局ヨリ出頭ノ際ハ便宜引渡シ、其ノ氏名ハ卽時當部ヘ報告セラルベシ

追テ右社會局ヨリ引取ノ爲出頭ノ際ハ當部ノ證明書提示ノ筈ニ付申添ヘ候」

證明書寫

右震災ニ付警視廳管下警察署分署ニ收容保護中ノ迷兒・迷人引取ノ爲出頭スルモノナリ

大正十二年九月十一日

東京市社會教育課

警視廳刑事部

迷人及ビ迷兒等ハ、獨リ警察ノ手ニ收容セルモノノミニアラズ、在鄉軍人會青年團、其他各種團體若クハ個人ニ保護セラレシモノモ亦多カルベシ、是ニ於テ、刑事部ハ、九月十九日、各署長ニ對シテ、若シ斯ノ如キ者アラバ警察署ノ保護ニ移スベキ事ヲ命ジ、且一般民衆ニ對シテモ、之ヲ保護セルモノハ、速ニ警察ニ申告ス可キ旨ヲ記シタル宣傳ビラ約五千枚ヲ、市内各所ニ撒布又ハ貼付シ、施設ノ遺漏無キヲ期セリ。

迷兒保護ニ關シ調査方ノ件

震災ニ因ル迷兒ニシテ、本廳及各署ノ收容保護ニ依ル分ハ爾來引取人ノ發見ニ努メタル結果、其ノ引渡成績甚ダ良好ナルヲ認ムルモ、一面其ノ災害渦中ニ在リテ個人若ハ各種團體ニ收容セラレ引續キ一時的保護ヲ加ヘ、未タ公ニセラレザル迷兒尠カラザル模樣有之候處、是等ノ者ハ引取人ノ發見方法ニ於テ缺クル處アルノミナラズ、今後ノ處置上弊害ヲ伴フナキヲ保セズ、迷兒保護ノ萬全ヲ盡ス能ハザル處有之候ニ付テハ、此際其ノ管内ヲ精密調査ヲ遂ゲ是等迷子發見ノ節ハ一應警察署ノ保護ニ移シ、其ノ住所・氏名・年齡竝收容者住所氏名ヲ當部ニ報告シ、引取人ノ發見ニ努メラルベシ

宣傳文

告

「今次ノ大震災ニヨリ幾多ノ死者ヲ出シ、行衞不明トナレルモノ其ノ數ヲ知ラズ、幸ニシテ生ヲ得タルモ迷子トナリ、他ノ保護ヲ受ケ居ルモノ多カルベキ模樣ニ付、是等ノ迷子ヲ尋ネ歩ク者日々ニ數フベカラズ、此際在鄉軍人會、青年團其他各種團體若ハ個人ノ家ニ於テ收容シ、一時保護又ハ救養ヲ加ヘラレツツアル方ハ、速ニ最寄警察署、巡査派出所、駐在所等ニ届出テラルベシ。」

斯クテ九月二十日迄ニ、本廳及ビ各署ニ於テ收容セル迷兒ハ、男女計一千百二十二人、迷人ハ男女計三百二十七人總計一千四百四十九人ニシテ、此内同日迄ニ保護者ニ引渡セルモノ九百九十三人、市町村其他公共團體等ニ引渡セルモノ三百九十五人ニ及ビ、尚保護中ノモノハ僅ニ六十一人アルノミ、迷人迷兒保護ノ事務ハ是ニ至リテ略ホ完結セリ。今九月二十日ノ調査ニ係ル本廳各署ノ迷兒・迷人收容、引渡シノ情況ヲ擧グレバ左表ノ如シ。

災害ニ因ル迷兒・迷人收容調査表

（大正十二年九月二十日現在）

廳署名	種別	迷兒						迷人					
		收容人員		保護者引渡人員（市町村其他公共團體引渡人員）		現在人員		收容人員		保護者引渡人員（市町村其他公共團體引渡人）		現在人員	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
警視廳		七二	六五	五五	七	七							
麹町		六	三	三	二	三							
日比谷		一八	一〇			一八	一〇	一		一			
錦町													
西神田		二		一									
外神田		三	三	二	一								
久松		一		一									
堀留													
新場橋		一											
築地		四	四	六	四	六							
北紺屋													
月島		七	四	五	四	二							
愛宕		八	六	八	五								
三田		七	二	三									

廳署名	種別	迷兒						迷人					
		收容人員		保護者引渡人員（市町村其他公共團體引渡人）		現在人員		收容人員		保護者引渡人員（市町村其他公共團體引渡人）		現在人員	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
高輪		五	一										
鳥居坂		一	二	一									
六本木			一										
表町		三	一	二									
青山		一											
四谷		一	二										
神樂坂		五八	六一	五八	六〇								
早稻田		七	四	五	二								
富坂		四	三	一									
大塚		一	一	一									
本富士		二四	一六	二三	一五	一							
駒込		三	五	一	五								
上野		四〇	二九	一	四〇	二八							
坂本		七	三	七	三								
谷中		三五	三五	三三	三五	三三							
象潟		三	六	八	六	五							
日本堤		二八	一六	二六	一六	二							

南元町	三	二		二	三					一		一				
七軒町																
相生	一〇	二			一〇	二										
太平																
原庭	四	二	二	二	二											
向島	二	七	三	三	八	四										
西平野	一八	六	八	四	九	二	一									
扇橋									一				一			
洲崎	二	一	二	一												
東京水上	一				一											
市計	四〇八	三二一	二七七	三二四	一三三	七四	九	三	一〇四	一六〇	九六	一二八	四	一五	四	一七
品川	五	一	四	一			一			二		一		一		
大崎	一	一				一	一									
大森																
世田谷	二		一		一											
淀橋	一五	八	四	二	一		一〇	六								
戸塚	五		三				二									

中野		二		二					四	一	三	一	一			
澁谷	二	一	一		一											
巣鴨	一五	二	二	九	四	二										
王子	一七	三〇	二	一九	六	一〇		一	三	一六	一	六	二	二〇		
板橋	六	二	六	二					四	九	四	九				
南千住	一八	三	二四	一九	四	二				二		二				
日暮里																
千住	五	七	一	一	一	六				二				二		
寺島	五三	六三	四三	五一	一〇	三			一	四	一	四				
亀戸	六三	二四	四	二	五九	三				三				三		
小松川	一〇	五	一	三	五	一	四	一		二						二
八王子																
町田	一		一													
府中																
田無																
青梅																
五日市																

郡	計	三八	一五	二五	一二	九五	三六	八	三	五二	九	三	三	六	二
合	計	六六	四六	三九	三五	二七	一三〇	二七	二	二六	二二	一〇五	二五	七	四一	四	九

備考　迷兒ハ滿十六年未滿トシ迷人ハ滿十六年以上トス

第二　所在不明者ノ捜索

震火災時ニ際シ、生死又ハ所在ノ不明ナルモノ甚ダ多ク、之ガ爲ニ管下並ニ他府縣緣故者ヨリ捜索ヲ願出デ或ハ官公署ヨリ照會シ來ルモノ亦擧ゲテ數フ可カラズ、是ニ於テ木下刑事部長ハ、望月庶務課長ヲシテ其捜索事務ヲ擔當セシメ、更ニ九月五日、各署長ニ指示シテ、死傷者及ビ行衞不明者ノ調査ヲ行ヒ、八日捜索專從員トシテ、齋藤遺失物係長ヲ主任トシ、庶務課庶務係及ビ遺失物係員八名ヲ選定シ、所轄警察署ト連絡ヲ保チ、各個ノ出願ニ就キテ實地捜索ノ衝ニ當ラシメタリ。

然ルニ捜索上唯一ノ端緒タルベキ被捜索人ノ住所ハ燒失シテ、其生死及ビ立退先ヲモ確知スル事能ハザルガ故ニ、先ヅ一般避難者ノ行方ヲ調査スルノ必要ヲ感ジ、九月十二日近縣及ビ管下各署長ニ左記照會並ニ指示ヲ發シタリ。

避難民ノ行衞調査ノ件

今次ノ震火災ニ付、避難民ハ各所ニ離散シタル爲、生存セル一家眷族ニシテ、其ノ行衞ヲ尋ネ廻ルモノ今尙無數ノ情況ニ有之候ニ付テハ、是等尋ネ人ノ便宜供與上必要有之候條、貴管内（其署管内）公私設ヲ問ハズ、避難者收容所、傷病者救護所等ニ就キ所在調査ノ上、左表ニ依リ至急御回答相成度（報告セラルベシ）。

左表

收容場所	今後ノ立退場所（未定ノトキハ豫定場所）	罹災者當時ノ住所區名	氏名

記載例

（一）收容場所ハ避難所、傷病救護所等ニ收容セル其ノ場所ヲ記載スルモノニシテ、個人ノ家宅ニ收容セル分モ之ヲ記載ノコト

（二）本表ハ罹災當時一家ヲ有スルモノハ、其ノ戸主名ノミヲ記シ、同居又ハ寄宿者ハ各人毎ニ氏名ヲ記載ノコト

（三）本表調査人員ハ多數ニ上ルベキニ付、調査ヲ得ルニ隨ヒ分割シ、第一報、第二、三報ト順ヲ逐ヒ廻送（提出）ノコト

（四）本表ハ曩ニ報告濟ノ迷子、迷人ハ之ヲ除外スルコト

此調査ニ依リテ知リ得タル避難者ノ總數ハ十餘萬人ニ達セシカバ、卽チ庶務

課ヲシテ「イロハ」別避難者名簿ヲ作成シ、之ヲ各署並ニ東京市調査課及ビ臨時東京帝國大學情報部等ニ送付シ、一般捜索人ノ便ニ供セシムルト共ニ、捜索願ニ對スル調査材料タラシメ、顯著ナル効果ヲ擧クルヲ得タリ。今九月八日ヨリ十月十日ニ至ルマデノ間ニ、遺失物係ニ於テ捜索回答ヲ發セル員數ヲ示セバ左表ノ如シ。

捜索人員調

種別	被捜索人		住所判明		死亡		住所不明	
元住所管轄區別 / 男女別	男	女	男	女	男	女	男	女
麹町	一九	一八	四八	三七	一		三	一
神田	四二	三	一〇六	三七	一		一五	三
日本橋	三四	三	四四	三三			八	三
京橋	六四	二六	五六	二五			六	三
芝	三六	一五	三三	一四			三	一
麻布	一	一	一	一			一	
赤坂	一	三	一	一			一	
四谷	一							
牛込	二	一	二	一				
小石川	四	二	四	二				
本郷	一八	三	一七	二				
下谷	五九	三一	五四	二八	一	一	四	二
淺草	一〇九	六四	七五	四九	一	三	一四	二
本所	一八〇	一八二	一〇三	六〇	二	一〇	一三	一〇
深川	二三四	八一	九二	五八	一	二	三	二
郡部	六	四	六	四				
計	九八	五九	六四二	三〇	九	六	二七	一五
男女計	一、四三七		九七二		一五		四五	

第三　變死者ノ調査

震火災ニ因ル變死者ノ調査ニ就キテハ、本廳鑑識課内ニ高木警部補ヲ主任トセル調査掛ヲ置キ、各署ヲシテ特ニ提出セシメタル變死者ノ死因、發見ノ場所、引取人ノ有無、原籍、住所、職業、氏名、年齢及ビ處置等ニ關スル報告ニ基キ「震火災死者名簿」ヲ作成セシメ、以テ捜索ノ便ヲ圖ルト共ニ、各署ニモ備ヘ付ケテ、變死者ノ遺族、親戚、故

舊等ノ閲覧ニ供シタレバ之ニ依リテ其生死ヲ詳ニセルモノ甚ダ多ク、成績極メテ可良ナリキ。

第二節　留置人

本廳及ビ各署ニ收容セル留置人ノ保護ハ、震火災ノ際、殊ニ注意ヲ要シタルノミナラズ、收容ノ場所タル本廳ハ勿論各署ノ大半ハ燒失ノ厄ニ遇ヘルガ故ニ、更ニ苦心ヲ重ネシガ、措置概ネ其當ヲ得テ、一人ノ死傷者ヲモ出サザリシハ、本廳ノ幸慶トスル所ナリ。今措置ノ概要ヲ記シテ、後日ノ參考ニ供セントス。

第一　留置人ノ解放並ニ移送

九月一日ノ午前、本廳刑事部及ビ各署ニ於ケル留置人ハ、拘留囚三百七十七人、現行犯人、百二十人、檢束者百四十八人合計六百四十五人ナリシガ、此內震火災ニ際シテ監獄法第二十二條及ビ明治三十年十一月本廳訓令甲第七十二號警察署留置場取締規程ニ依リ、拘留囚及ビ現行犯人ヲ解放セル警察署ハ、日比谷警察署外三十二署(刑事部ヲ含ム)ニ及ビ、解放人員ハ拘留囚二百四十一人、現行犯人八十五人合計三百二十六人ニシテ、猶別ニ檢束ヲ解除シタルモノ百四人アリ、而シテ右三十二署ノ中、廳舍ノ燒失セルハ錦町署外二十三署、又其燒失セルモ遂ニ解放スルニ至ラザリシハ久松、愛宕ノ二署ナリ。

今各署別留置人數及ビ解放數ヲ表示スレバ左ノ如シ。

留置人解放調

區別	留置人數			解放數		
署名	拘留	現行	檢束	計	拘留	現行	檢束	計
麹町	六	一	四	一〇	一	一	一	三
日比谷	八	一	一	一〇	八	一	一	一〇
錦町	二	一	二	五	二	一	二	五
西神田	四	一	九	一四	四	一	九	一四
外神田	七	一	七	一五	七	一	七	一五
久松	三	一	四	八	三	一	四	八
堀留	一	一	一	三	一	一	一	三
新場橋	三	一	二	六	三	一	二	六

築地	六	|	一	七	六	|	一	七
北紺屋	四	|	|	四	四	|	|	四
月島	五	|	|	五	五	|	|	五
愛宕	六	|	二	八	|	|	|	|
三田	四	|	|	四	四	|	|	四
高輪	|	|	一	一	|	|	|	|
鳥居坂	二	四	|	六	一	四	|	五
六本木	三	|	|	三	|	|	|	|
表町	五	|	|	五	三	|	|	三
青山	一	|	|	一	|	|	|	|
四谷	八	三	四	一五	|	三	四	七
早稲田	一	|	|	一	|	|	|	|
富坂	九	三	二	一四	|	|	|	|
大塚	八	|	|	八	二	|	|	二
本富士	四	|	一	五	|	|	|	|
駒込	一	|	二	三	|	|	|	|
上野	一七	|	七	二四	一七	|	四	二一

坂本	九	|	二	一一	九	|	二	一一
谷中	四	|	一	五	|	|	|	|
象潟	七六	|	二〇	九六	七六	|	二〇	九六
日本堤	五	|	五	一〇	五	|	五	一〇
南元町	四	|	一	五	四	|	一	五
七軒町	一四	|	三	一七	一四	|	三	一七
相生	六	四	三	一三	六	四	三	一三
太平	四	五	一	一〇	四	五	一	一〇
原庭	五	三	五	一三	五	三	五	一三
向島	二	|	三	五	二	|	三	五
西平野	六	一	四	一一	六	一	四	一一
扇橋	五	三	|	八	五	三	|	八
洲崎	四	|	二	六	四	|	二	六
水上	四	|	|	四	四	|	|	四
品川	七	|	五	一二	|	|	|	|
大崎	一	一	|	二	|	|	|	|
大森	二	|	|	二	|	|	|	|

澁谷	二	—	一	三	—	—	—	—
淀橋	二	六	九	一七	—	—	—	—
戸塚	—	—	五	五	—	—	五	五
中野	—	—	二	二	—	—	二	二
巣鴨	八	—	五	一三	—	—	—	—
王子	三	四	四	三	—	—	—	—
板橋	—	—	四	四	—	—	二	二
南千住	三	八	二	三	二	八	二	三
寺島	一九	三	二	一四	九	三	—	三
龜戸	七	—	四	三	七	—	一四	二
小松川	三	—	—	三	三	—	—	三
八王子	一	—	—	一	—	—	—	—
刑事部	一五	六三	—	七八	—	四六	—	四六
計	三七七	一三〇	一四八	六四五	一四一	八五	一〇四	四三〇

備考 留置人數ハ九月一日現在トス

是ヨリ先、本廳刑事部鑑識課ニ於テハ、災變ノ起ルト共ニ、留置人ヲ帝國劇場前ニ避難セシメタリシガ、幾許モナク同所ノ危險ニ瀕スルニ及ビ、一時之ヲ馬場先門內宮城外苑ニ移シテ形勢ヲ窺ヘリ、然ルニ火災ノ延燒殆ンド其底止スル所ヲ知ラズ留置人ノ保護容易ナラザルモノアルヲ曉リ、九月一日午後四時二十分ニ至リ、遂ニ刑事被告人中、澤田正二郎一派四十六名ヲ解放シ、殘餘十五名ハ愛宕署ニ、拘留四十六名ハ麴町署ニ委託スルコトト爲シ、卽時護送セシメタレドモ、同夜麴町署モ亦危險ニ陷レルガ故ニ、再ビ之ヲ四谷署ニ移送シタリ。

更ニ各署ニ於ケル解放ノ狀態ヲ按ズルニ、其最モ速カナリシハ太平署ノ午後零時、日比谷署ノ午後一時、西神田署ノ午後一時三十分ト爲ス。蓋シ皆是時ヲ以テ猛火ノ威嚇ヲ受ケタルガ故ナリ。

斯クテ九月一日ニ解放セルモノ二十四署、二日ニ解放セルモノ七署、三日ニ解放セルモノ一署ナリシガ、概ネ廳舍燒失ノ結果、已ムヲ得ズ之ヲ決行スルニ至レリト雖モ、類燒ヲ免レタル各署ニシテ、尙且解放ヲ敢テセルモノ三田署外八署アリ。惟フニ當時ノ形勢旣ニ危急ニ迫リ、斯クスルニ非ザレバ、貴重ナル人命ヲ保護スル能ハザリシガ爲、臨機ノ處置ヲ講シタルモノニ係リ、必ズシモ輕擧ナリトノミ評スル

ヲ得ザルニ似タリ。而シテ久松署ガ、九月一日午後七時、到底其延燒ヲ免レザルヲ察スルヤ、直ニ留置人ヲ上野公園ニ移シタル後、翌二日ノ午前燒殘ノ留置場ニ護送歸署セシメ、又愛宕署ガ延燒ト同時ニ之ヲ高輪署ニ護送シテ保護ヲ依賴シ、解放ノ擧ニ出デザリシガ如キハ誠ニ時宜ニ適シタル措置ナリト云フ可シ。

猶解放時ニ於ケル留置人所持金品ノ取扱ハ、象潟・原庭兩署ノ如ク警署察ニ保管シタルモノアリ、或ハ解放ト同時ニ交附セルモアリテ必ズシモ一樣ナラズ。

抑々監獄法施行規則第五十三條ヲ按ズルニ、非常時ニ際シテ囚人等ヲ解放セントセバ、豫メ被解放者ニ對シ、解放時ヨリ二十四間內ニ指定ノ場所ニ出頭ス可キ事ヲ告知セザル可カラズ、然ルニ各署ニ於テ留置人ヲ解放スルニ方リ、此規定ニ準據セルモノハ本廳刑事部及日比谷外七署アルノミ、其他ノ二十五署ニ至リテハ、歸署ノ時日ヲ定ムルモ、或ハ一週間後トシ、或ハ一箇月後トシ、甚シキニ至リテハ歸署ノ時、日並ニ場所ヲ指定セザルモノモ無キニ非ラズ、斯ノ如キハ當時ノ實情、所定期限內ニ歸署セシムル事ノ困難ニシテ、又豫メ出頭スベキ場所ヲ指定スル能ハザル程度ノ混亂ニ陷レルガ爲ナル可シトハ云ヘ、決シテ妥當ナル措置ト稱スルヲ得ザルナリ。若シ夫狼狽ノ結果、此規定アルヲ忘レ、此規定アルヲ知ラザルモノアリトセバ、其過ヤ恕ス可カラズ、之レ本廳ノ深ク遺憾トスル所ナリ。

第二　解放留置人ノ歸還

各署ニテ解放セル留置人中、指定ノ二十四時間ニ歸署シ、又ハ其居所ヲ届出テタルモノハ、僅ニ五十八人（刑事部ノ四十六人ヲ含ム）ニ過ギズ、然レドモ歸署ノ時、日等ヲ指定セズ、又之ヲ指定スルモ區々ニシテ統一ナカリシ事上述ノ如クナレバ、直ニ逃走罪ヲ以テ處分スル能ハザル事情アリ、暫ク之ヲ猶豫セシガ、遂ニ九月二十三日ニ至リ將ニ其處分ニ着手セントシ、各署長ニ指示シテ調査セシメタルニ、同日午前八時迄ニ出頭セルモノ、拘留囚五十七人、現行犯六十七人（刑事部ニ於テ解放セル澤田正二郎外四十五人ヲ含ム）合計百二十四人ニシテ、未ダ歸還セザルモノ拘留囚百八十八人、現行犯人二十二人、合計二百十人ニ達ス。

卽チ檢事局ト協議シテ其搜査ヲ繼續セリ。今未還留置人ヲ各署別ニ擧グレバ左表ノ如シ。

未歸還留置人調

（大正十二年九月二十三日午前八時現在）

署名	區別	拘留	現行	檢束	計
日比谷町		二	二		二
錦町		二	二		二
西神田		三	三		三
外神田		七	七		七
新場橋		一三	一三		一三
築地		五	五		五
北紺屋		三	三		三
月島		二	二		二
三田		一	一		一
表町		一	一		一
上野		一五	一五		一五
坂本		三	三		三
象潟		六九	六九		六九
日本堤		五	五		五
七軒町		一一	一一		一二
相生		一〇	三		一三

署名	區別	拘留	現行	檢束	計
太平		四	五		九
原庭		五	三		八
向島		二	一		二
西平野		六	五		一一
扇橋		五			五
洲崎		四			四
水上		四			四
南千住		一			一
小松川		三	三		六
龜戸		三	二		五
計		一八八	二二		二一〇

第三　本廳留置場

本廳ノ留置場ハ、震災ノ當日既ニ燒失セルニモ拘ハラズ、流言ノ傳播ニ伴ヒ、犯罪嫌疑者トシテ鮮人ノ引致セラルルアリ、其他ニモ留置ヲ要スル者次第ニ增加セントスル有樣ナレバ、速ニ之ガ設備ヲ爲スノ必要ヲ感ジ、九月二日市ヶ谷刑務所ノ同意ヲ得テ、收容能力四百名ヲ有スル東京地方裁判所及ビ東京區裁判所構內ナル、刑

務所假監二ケ所ヲ、本廳留置場ニ代用シ、尋テ十月二十七日、燒殘遺失物倉庫ニ應急設備ヲ施シテ留置場ニ充テタリシガ、翌十三年二月二十七日假廳舍完成シ、同三十日留置場ノ竣工ヲ見ルニ及ビテ此所ニ收容スル事トナシタリ。

第三節　鑑識施設

第一　災害前ノ鑑識施設

明治四十四年四月警務部刑事課ニ鑑識係ノ創始セラレテヨリ以來、鋭意其施設ノ充實ニ努力スルコト十有餘年、大正十年六月刑事部ノ獨立ト共ニ同係ヲ昇セテ課ト爲シ、更ニ技術係ヲ置キ、時勢ノ進運ニ順應シテ益々改善ヲ加ヘタル結果、檢索設備トシテハ、刑務所指紋原紙約四十四萬、(明治四十一年十月以降全國前科者ニ渉ル)警察指紋原紙約八萬、刑事被告人原紙約二萬、刑事被告人寫眞票及ビ其原板各八萬、受刑者氏名索引票約五十萬、犯罪手口索引票約四萬、犯罪者形態索引票約三萬及ビ章標採集約六千ヲ有シ、更ニ刑事寫眞ノ設備トシテハ、ベルチロン式撮影裝置、犯罪現場用双眼寫眞器、大小早取寫眞器顯微鏡寫眞器、指紋寫眞器及ビ夜間撮影裝置ヲ始メ、其他一切ノ附屬裝置悉ク完備セリ。　又刑事理化學室ハ大正八年五月ノ開設ニ係リ、其當時ニ於テハ、舊廳舍寫眞撮影室ノ一隅ニ小實驗臺一、顯微鏡一、小天秤一、硝子製小化學器具數點、重湯煎鍋一ト百餘種ノ藥品トヲ備ヘ、血液、精液、毛髮ノ檢査等簡單ナル檢査ヲ行フニ過ギザリシガ、大正十年度ニハ顯微鏡一、顯微光像鏡一、白金器具一、比重計等ヲ、同十一年度ニハ液量分析器具一式、スペクトロスコフ、ガワ|氏ノ血色素計、青木式エキレカートル貫科、銅製乾燥器類其他硝子製器具數十種類、試藥戸棚一、器械重戸棚一、實驗臺一式等ヲ、同十二年度ニハ尺度ミクロメーター測微計、水蒸汽發生裝置手動角度計其他金屬器具數點ヲ購入セルヲ以テ、施設漸ク整ヒ、細菌的檢査及ビ高級化學試驗ヲ除クノ外、刑事警察上ノ鑑識檢査ノ全部ヲ施行シ得ルノ域ニ達シ、我警察界ニ於ケル一權威トシテ重キヲ爲スニ至レリ。

第二　鑑識施設ノ被害情況

本廳ニ於ケル鑑識施設ハ上文ニ述ブルガ如ク、略完備ノ域ニ達シタルモノナリシガ、九月一日ノ激震ト共ニ、階上理化學室ナル試藥棚轉倒シテ藥品ヨリ發火シ、將ニ大事ニ至ラントセルヲ、辛ウジテ消止メタレドモ、幾許モナク午後十時、有樂町方

面ヨリノ猛火迫リ來ルニ及ビ、岩藤鑑識課長ノ努力ニ依リ、鑑識設備ノ核心タル指紋原紙約二十七、八萬枚及重要ナル刑事參考品若干ヲ搬出シ得タル以外ニハ、其全部ヲ擧ゲテ烏有ニ歸セシムルニ至レリ。是、單リ本廳ノ不幸ノミニ止マラズ、又以テ我國刑事警察界ノ重大ナル損害ナリト云ハザルベカラズ。

第三　災害以後ニ於ケル鑑識施設

(一)　寫眞事務

九月一日ノ火災ニ際シ、鑑識課ニ備用セル寫眞及寫眞用具中ノ主要ナルモノハ概ネ搬出シタルヲ以テ、直ニ寫眞班ヲ編成シ、災害ノ實況ヲ撮影シテ、警察施設上ノ參考トシ、併セテ捜査資料タラシメンガ爲、翌二日ヨリ出動セリ。即チ此日黎明、岩藤鑑識課長及ビ高木、山崎兩警部補、宮地技手等自動車ヲ驅リ、先ヅ神樂坂ニ於テ寫眞材料ヲ購入セル後、神田川ニ沿ヒ、餘炎未ダ熾ンナル陸軍造兵廠前ヲ過ギ、順天堂病院前ヨリ左折シテ湯島ニ出テ、將ニ本郷四丁目ヨリ切通坂ニ出デムトシタルニ、避難者ノ雜沓甚シキヲ以テ、轉ジテ大學正門前ヲ過ギ、彌生町ヨリ右折シ、谷中ニ出テ、坂町ヲ經テ上野公園ニ達ス、其間沿道ノ避難情況並ニ災害情況ヲカメラニ收メ、更ニ當時尚熾ニ延燒シツツアリシ、下谷淺草方面ノ實況ヲモ撮影セシガ此時方ニ、下町一帶ノ地ハ眼界ノ及ブ所火ノ海タラザルハ莫ク、黑雲空ニ漲リ、悽愴ヲ極メタリ、

斯クシテ灰燼ト砂塵ヲ冒シ、神田、日本橋ノ燒跡ヲ橫斷シテ主要箇所ノ撮影ヲ了シ、本部ニ歸着セルハ午後三時ヲ過ギタリ。是ニ於テ、再ビ、江東ノ地ヲ視察セント徒歩シテ深川ニ向ヒ、高橋附近ノ慘狀ヲ寫シ、更ニ被服廠跡ヲ撮ラントシモ、餘焰ニ遮ラレテ遂ニ果サザリキ。

尋テ三日以後モ尙連續シテ災害地區ヲ跋涉シ、具サニ其實況ヲ撮影シタルモノ前後三百九十、合計四百五十枚ノ多キニ達セリ。然レドモ現像燒付ノ作業ニ從フベキ場所ニ窮シ、卽チ牛込神樂坂警察署ノ暗室ヲ利用セシガ、規模小ニシテ設備整ハズ、技術上ノ苦心容易ナラザルモノアリシニモ拘ラズ、遂ニ寫眞全部ノ完成ヲ見タルハ非常ノ努力ニシテ、東京市ノ撮影セルモノト共ニ、之ヲ本記錄ニ登載シテ貴重ナル參考資料タラシムルヲ得タリ。

(二)　理化學事務

本廳鑑識課ニ於ケル理化學室ハ、顯微鏡、顯微光像鏡等二、三重要ナル備品ヲ除ク
ノ外、概ネ震災ト同時ニ破壞シ、檢査不能ノ狀態ニ陷リタルノミナラズ、本廳衞生檢
査所及帝國大學法醫學教室、內務省衞生試驗所等、試驗室ヲ有スル公、私ノ設備モ亦、
同ジ運命ニ遭遇セルヲ以テ、代用試驗室ヲ他ニ覓ムル能ハズ、是ニ於テ、災後數日間
ハ僅ニ要鑑識物件ノ、外觀、色澤、臭味等ニ依リテ皮相的鑑識ヲ行フニ過ギザルニ、飮
食物等ニ毒藥物ヲ混入スル者アリトノ流言盛ニ行ハレ、檢査材料ヲ本廳ニ送致シ
來ルモノ多ク、之ガ實驗ヲ了シテ民衆ヲ安堵セシムルノ必要ハ焦眉ノ急務タリシ
ナリ。

是時ニ際シ、府立第一中學校ノ化學教室ガ、震災ノ被害極メテ少ク、若干ノ藥品ヲ
補充セバ使用ニ堪ヘ得ル事ヲ知リ、直ニ同校ト交涉シテ之ヲ借用シ、九月七日ヨリ
試驗事務ヲ開始シタリ。同教室當時ノ檢査能力ヲ擧グレバ左ノ如シ。

(a)　糞便檢査、
(b)　血液檢査、(但シ血淸ヲ他ヨリ求ムルノ要アリ)
(c)　劇毒物檢査、
(d)　精液檢査、
(e)　毛髮檢査、
(f)　附着物檢査ノ大部分、
(g)　定性分析及簡易ナル定量分析、

檢査事務ハ、當時專ラ乙葉技手ノ擔當スル所ナリシガ、設備不完全ニシテ、而モ試
驗材料ハ日ヲ逐ウテ激增ノ狀アリ、其苦心尋常ナラザルモノアリシト雖、幸ニシテ
應急化學檢査上、多大ノ故障無キヲ得タリ。今試ニ九月七日以降十月四日迄ニ檢
査セル操作ノ主要ナルモノヲ擧グレバ左ノ如シ。

(a)　井水檢査　十五種　(內有毒物ヲ檢出セシモノ十種)
(b)　飮食物檢査　十五種　(內有毒物ヲ檢出セシモノ三種)
(c)　藥品檢査　九種　(內劇毒物ヲ檢出セシモノ八種)
(d)　放火材料檢査　四種
(e)　物質檢査　五種
(f)　爆發性危險物檢査　七種

(g) 液體檢査　二種
(h) 附着物檢査　二種
(i) ダイナマイト檢査　七種
(j) 導火線檢査　三種
(k) 雷管檢査　九種
(l) 定量分析檢査　一種
(m) 血液檢査　八種　（内人血ヲ檢出セシモノ四種）
計　八十七種

第四　鑑識設備ノ復興

鑑識施設ハ、本廳ノ各設備中、最モ重要ナル地位ヲ占ムルモノナレバ、復興モ亦容易ナラズ、是ニ於テ、岩藤鑑識課長ハ藤村係長ト共ニ、專心其事ニ從ヒ、漸ク恢復ノ曙光ヲ認メ得ルニ至レリ。今、其一斑ヲ擧グレバ左ノ如シ。

(一)監獄原紙

受刑者指紋原紙ハ、明治四十一年十月現行刑法實施ノ當時、全國各刑務所ニ服役中ノ者及ビ同月以後入監セシ既決囚ニ付、押捺作成セルモノニシテ、本廳ハ同四十四年十月司法省ヨリ其保管轉換ヲ受ケ、爾來新入監者ニ對シテハ、新原紙ヲ受入レ、再入監者ニ對シテハ、受刑追加記入ヲ爲シ、震災當時ニ於ケル原紙總數實ニ四十四萬九千二百三十三枚ノ多キニ達シ、指紋設備ノ核心ヲ爲シタルニ、火災ノ際搬出セルモノ約十七萬ニ過ギズ、卽チ復興方法ノ第一トシテ、大正十二年十一月十日現在ノ、全國刑務所入監者三萬九千六百餘人ノ指紋原紙ヲ一齊ニ作成セシトシ、司法省ト交涉スル所アリ、大正十三年六月初旬迄ニ、既ニ其送付ヲ受ケタルモノ約二萬ニ達シ、更ニ同日以後ノ入所者ニ對シテハ從前ノ如ク、其ノ都度之ガ送付ヲ受クル事ニ協定セリ。

是ヨリ先、福岡・大阪ノ兩府縣ニ鑑識課ノ設置セラルルヤ、本廳鑑識課備用ノ、指紋原紙附屬赤小票全部四十四萬九千二百三十三枚ヲ謄寫セシメタル事アルヲ以テ、更ニ第二ノ方法トシテ、之ヲ大阪府ヨリ借用シ、大正十二年十二月ヨリ翌年一月ニ亘リ、全部謄寫スルトヲ得タリ、卽チ此赤小票ト、曩ニ燒殘レル指紋原紙ヲ基礎トシテ作成シタル附屬黑小票トヲ對照シ、重複セルモノハ赤小票ヲ廢棄シ、

黒小票ヲ使用スル事ト爲シ、目下課員ノ努力ニ依リ之ガ完成ニ努メツヽアリ。

又從來各署ニ於テハ、課ヨリノ照會ニ應ズル調査ノ爲ニ編纂セル被疑者若クハ前科者ノ前科對照及氏名索引等ハ、指紋原紙燒失ニヨリテ再製不可能トナリタレバ課員五名ヲ司法省ニ派遣シ、同省保存ノ監獄原紙ニ依リテ其事務ヲ執行シツツアレドモ、上述ノ計畫ニ依リ指紋原紙ノ蒐集ヲ今後四・五年繼續スル時ハ、累犯傾向ヲ有スルモノノ原紙ハ殆ンド之ヲ網羅スルヲ得ベク、從テ實際上犯罪者ノ識別ニ支障ナキニ至ルベシ。

(二)　被疑者原紙

震災以前ニ於テハ、刑務所指紋原紙ノ外警察原紙約八萬枚、被告人原紙約二萬枚ヲ有シ、其利用ノ成績見ルベキモノアルヲ以テ、災後直ニ復舊ニ努ムルト共ニ、更ニ大正十三年四月新刑事訴訟法ノ實施セラルルヤ、刑事被告人原紙取扱規程中、一部改正ヲ加ヘ、被告人原紙ヲ被疑者原紙ト改稱シ、内容ノ改善ト充實トヲ圖リ其附屬小票ト共ニ、作成分類及ビ整理ニ從ヘリ。

(三)　不良少年指紋原紙

不良少年ノ指紋原紙ハ、從來全ク等閑ニ附シタリシガ、大正十二年一月一日、少年法實施セラレ、時代ノ要求亦之ヲ忽ニ爲シ難キモノアルヲ以テ、大正十二年六月、始メテ其編纂ニ從ヒ、未ダ成功ヲ見ザルニ先チテ九月一日ノ變ニ遇フ。是ニ於テ、災後各署ヲ督勵シテ再ビ調査ニ從ヒ、翌十三年六月迄ニ送付ヲ受ケタルモノ六百四十八枚ニ達シタレバ、之ニ依リテ又小票ヲ作成セリ。

(四)　諸小票ノ蒐集

諸章標ノ蒐集ハ、刑事上尤モ必要ナルガ故ニ、災後各署ヲ督勵シテ復舊ニ努メ、今ヤ其總數四千七百餘ニ及ベリ。其重ナルモノハ草履ノマーク、下駄ノ刻印、ゴム足袋底、下駄レッテル、靴マーク、靴紐、足袋鞋(コハゼ)、足袋レッテル等ナルガ、尚漸次其範圍ヲ擴張シテ、利用ノ効果ヲ大ナラシメン事ヲ期セリ。

(五)　理化學檢査

理化學檢査材料及ビ器具ノ復舊ニハ特ニ意ヲ用ヒ、大正十三年六月ニ及ビテハ、化學用白金器具其他二・三重要器具ヲ除クノ外ハ、不完全ナガラ日常ノ事務ヲ辨ズルニ於テ、又何等ノ不便ヲ感ゼザルニ至レリ。

(六)　寫眞

災後新タニ購入セル、寫眞用器具中、其重ナルモノハ、英國倫敦警視廳式電燈設備獨逸製ベルチロン式被告人撮影臺、小西製パラゴン引伸機ノ、加工ヲ施シタル裝置、四ッ切用指紋其ノ他ノ複寫用寫眞器、(但顯微鏡ニ附帶セズ)アンゴー手提器械一、手札型手提器械一、指紋用實物擴大檢査器、佛國製四ッ切印畫切斷器等ニシテ、大正十三年六月現在ニ於テ、据付寫眞器二臺、携帶用寫眞器十一臺ヲ有シ、寫眞事務ハ亦何等ノ故障ヲモ見ザルノミナラズ、就中英國倫敦警視廳式電燈設備ノ如キハ、災前ノ其レヨリモ被告人複寫等ニ一層ノ利便多シト稱セラル。

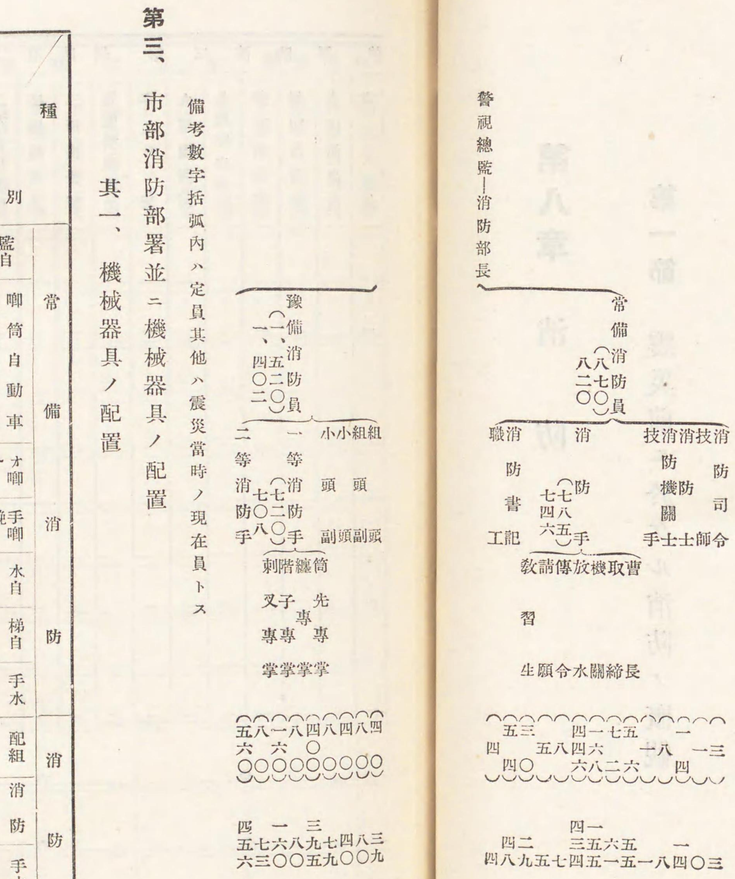
第八章　消防

第一節　震災前ニ於ケル消防ノ概觀

九月一日ノ震災ニ基因セル大火災ハ、延燒三日ニ亙リテ全市ノ大半ヲ焦土ト化セルノミナラズ、數萬ノ生靈ヲ亡ヘル等、有史以來稀ニ見ル所ノ慘害タリ。而シテ事ヲシテ玆ニ至ラシメタル所以ノモノハ、諸種ノ障害相錯綜セル結果ナリト雖モ、消防力ノ不備モ亦其一因タリシハ疑フ可カラズ、是ニ於テ、先ヅ豫メ、震災前ニ於ケル帝都消防制度ノ組織ト、消防力ノ一斑トヲ概說シテ讀者ノ注意ヲ促シ、併セテ將來ノ參考ニ資セントス。

第一、　消防制度ノ組織

第二、市部消防職員



備考數字括弧内ハ定員其他ハ震災當時ノ現在員トス

第三、市部消防部署並ニ機械器具ノ配置

其一、機械器具ノ配置

種別	署所別	監督車	自動車 喞筒 A型	自動車 喞筒 B型	自動車 喞筒 C型	オートバイ喞筒	手喞筒	水管	梯子	手斧	配置數	消防組員	手喞筒	破壊器具
常備消防	消防部	一		二										
	海防練習所				一									
	第一本署		二											
	第二本署				一									
	萬世橋出張所		一											
消防組														

第一消防署	築地出張所		一							一	一〇	一〇	三〇
	月島出張所		一							一			
	日比谷出張所		一					一	一	一			
	久松派出所				一			一					
	三十間堀派出所				一								
第二消防署	本署		一					一	一	一	六	六	一八
	二本榎出張所		一					一		一			
	盛岡出張所		一					一		一			
	三田出張所		一							一			
	將監橋派出所				一								
第三消防署	本署		一					一		一	七	七	二一
	九段出張所		一					一		一			
	矢來町出張所		一					一		一			
	新町出張所		一							一			
	新宿出張所		一							一			
	青山派出所				一								
第四消防署	本署		一					一		一	五	五	一五
	駒込出張所		一					一		一			
	大塚出張所		一					一		一			
	掃除町出張所		一					一		一			
	水道町派出所				一								
第五消防署	本署		一					一	一		六	六	一八
	淺草橋出張所		一					一		一			
	日本堤出張所		一							一			
	谷中出張所		一							一			
	下谷金杉派出所				一								
	向柳原派出所				一								
	淺草公園派出所						一			一			
第六消防署	本署		一				一	一	一	一	六	六	一八
	黑江町出張所		一							一			
	松倉町出張所		一					一		一			
	花町出張所		一							一			
	押上派出所				一	一							
	洲崎派出所				一								

其二、消防管轄區域及消防署ノ所在

合計三十八ケ所	一	三六	二	一〇	一	一七	五	六	五	四〇	四	三〇	一

消防部	管轄區域大要	署所名	署所所在地
消防練習所		麹町區有樂町警視廳構内	麹町區半藏門外
第一消防署	日本橋區全部	本署	日本橋區坂本町四十番地
		築地出張所	京橋區築地二丁目十六番地
	京橋區全部	萬世橋出張所	神田區連雀町十八番地
		月島出張所	京橋區月島通七丁目二番地
	神田區東半部	日比谷出張所	麹町區有樂町警視廳構内
		久松派出所	日本橋區久松町四十一番地
	麹町區東半部	三十間堀派出所	京橋區三十間堀町豐多摩河岸十八號十九號
第二消防署	芝區全部	本署	芝區愛宕町三丁目六番地
		二本榎出張所	芝區二本榎町二丁目十五番地
	麻布區大部	盛岡出張所	麻布區盛岡町二番地

第三消防署	赤坂區一部	三田出張所	芝區三田二丁目二番地
		將監橋派出所	芝區片門前町二丁目十九番地
	四谷區全部	本署	麹町區富士見町二丁目一番地先
	赤坂區全部	九段出張所	麹町區富士見町二丁目一番地先
	牛込區全部	矢來出張所	牛込區矢來町一番地
	麹町區西半部	新町出張所	赤坂區新町五丁目四十一番地
	神田區一部	新宿出張所	四谷區新宿一丁目三十一番地
	麻布區一部	青山派出所	赤坂區青山一丁目一番地
	小石川區一部		
第四消防署	本郷區大部	本署	本郷區元富士町三番地
		大塚出張所	小石川區大塚仲町十五番地
	小石川區大部	駒込出張所	本郷區駒込吉祥寺町二十七番地
	下谷區一部	掃除町出張所	小石川區掃除町六番地
		水道町派出所	牛込區水道町二十二番地
	神田區一部	本署	下谷區北稻荷町四十七番地
第五消防署	淺草區全部	淺草橋出張所	日本橋區馬喰町四丁目二十四番地
		日本堤出張所	淺草區地方今戸町八十六番地
	下谷區大部	谷中出張所	下谷區谷中坂町八番地

第四、市内消防機械器具

第六消防署	本所区全部	本署	本郷区一部	神田区一部
常備消防				
(イ)唧筒自動車(A型)……26		本署	下谷区金杉下町派出所	下谷区金杉上町八十五番地
同　(B型)……2		黒江町出張所	向柳原派出所	浅草区向柳原町二丁目一番地
同　(C型)……10		松倉町出張所	浅草公園派出所	浅草公園内
(ロ)水管自動車……17		花町出張所	深川区東森下町百八番地	
(ハ)梯子自動車……5		押上派出所	深川区黒江町四十一番地	
(ニ)監督自動車……1		洲崎派出所	深川区松倉町二丁目二十六番地	
(ホ)手繰瓦斯倫唧筒……1			深川区花町一番地	
(ヘ)オートバイ唧筒……1			深川区押上町四十三番地	
(ト)手繰水管車……28			深川区西平井町	
(チ)救助幕……14				
(リ)救助袋……15				
(ヌ)消火幕……3				
(ル)水管……1914				
(チ)管鎗……199				
(ワ)携帯電話機……1				
(カ)現場風速計……1				

豫備消防

(イ)手繰水管車……120
(ロ)纏……40
(ハ)竹梯子……80
(ニ)刺叉……40
(ホ)鳶口……160
(ヘ)水管……1200
(ト)管鎗……160

(附)自衛消防設備

(イ)手繰瓦斯倫唧筒……21
(ロ)電動唧筒……40
(ハ)蒸汽唧筒……8
(ニ)華盛頓(ワーシントン)唧筒……45
(ホ)セントリヒユーカル唧筒……1
(ヘ)屋上放水装置……1
(ト)自動消火装置箇所……31
(チ)貯水槽……62
(リ)室内消火栓装置……78
(ヌ)室内消火栓数……752
(ル)消火栓……10

備考　自衛消防設備ハ大正十一年末現在ニ依ル

第五、市部消防上重ナル施設

種別	摘要
A水道消火栓	イ、貯水量二一、〇〇〇、〇〇〇立方尺
	ロ、標準給水量八、〇〇〇、〇〇〇立方尺
	ハ、公設消火栓箇数四、九四〇
	ニ、私設消火栓箇数二、二八〇
	ホ、消火栓一箇ニ対スル平均道路延長當リ一町四二間強
	ヘ、消火栓一箇ニ対スル平均戸数當リ八九戸強

B 火災報知機	日本橋區	七二臺	京橋區	九臺
	神田區	一〇一臺	淺草區	二一臺
	其他	一〇臺	計	二一三臺
C 火災專用電話	イ、公衆電話數		七四、五八四	
	ロ、自動電話數		八四四	
	ハ、受話機		一七	
D 望櫓竝火ノ見梯子	イ、鐵筋望櫓		一二	
	ロ、木造望櫓		一三	
	ハ、火ノ見梯子		七三	

（備考）水道外ノ水利ハ若干有ルモ極メテ小數ニ付之ヲ省ケリ

第二節　火災ノ續發ト延燒ノ情況

第一、火災ノ突發

九月一日午前十一時五十八分、强震ノ襲來アリ、家屋ノ倒潰無數ニシテ發火性藥品ノ顚落スルモノ勘ナカラズ、加之時恰モ午食時ニ際セルヲ以テ、家庭ニ於ケル火氣使用ノ多カリシモ亦發火ノ原因タリシモノニシテ、當時望樓ヨリ市內ヲ望ムニ所在ニ黑煙ノ冲天スルモノ實ニ百三十餘條ト算セラレタリ。而モ之ト殆ンド同時ニ電話及ビ火災報知機ハ斷絕シテ通信連絡ノ用ヲ失ヒ、水道ハ斷水シテ防火行動ノ蹉跌ヲ來シタルニ、折柄ノ强風ハ火勢ヲ煽リテ忽チ四方ニ延燒シ、其底止スル所ヲ知ラズ、遂ニ帝都ノ大部分ヲシテ火海タラシムルニ至レリ。

第二、風速風位ノ變化

九月一日ハ風位・風速ノ變化甚シク、其出火當時ニハ南ノ强風十二米突ト稱セシガ午後五時以後漸次北ニ轉ズルト共ニ、風力頓ニ加ハリ、午後十一時ニ至リテハ每秒二十一米ノ烈風ト化シタリ。

サレバ是日ノ火災モ初メハ北ニ進ミシカ、イツシカ轉ジテ東ニ延ビ、更ニ南ニ擴ル等、延燒ノ方向ハ時ニヨリテ同ジカラズ、且其火勢ノ如キ、或ハ合シテ幅、數町ノ大火條トナリ、或ハ岐レテ數條ノ火道トナリ、而シテ其相衝突スル地點ニハ概ネ大小ノ旋風ヲ促生シ、之ガ爲ニ慘害ヲシテ愈大ナラシメタリ。今之ヲ實地ニ徵スルニ西神田・內神田・本郷・本所・深川ノ大半ハ南風ニ依リテ、淺草・下谷・日本橋・京橋・芝ノ大部

ハ北風ニ依リテ燒失シタリシガ、北風ノ久シク繼續セル結果、更ニ南千住ヨリ芝金杉ニ至ル廣袤數里ノ地域ヲ焦土ト化セシメタリ。然ルニ風力ハ二日ニ入リテ漸ク衰ヘ、午前八時五米四ニ降下シタレバ、消防隊必死ノ活動遂ニ其功ヲ奏シ、芝方面以南ヘノ侵入ヲ沮止スルヲ得タリ。尋テ風位ハ南ニ變ジ、爾後五米突乃至十米突ノ間ヲ往來セリ。以上ハ風位ノ變化ニ伴フ火條推移ノ梗概ナリト雖モ、部分的氣流ノ變動ハ河川丘陵ノ地形ニ依リテ一樣ナラズ、就中本所深川ノ方面ハ南北ニ通ズル墨田川ト、海面ト、ヨリ來ル南風烈シキヲ加ヘ、其北方ハ大建築ト稱スベキモノナケレバ、風力始メヨリ强ク、氣溫亦次第ニ上昇シテ、最高攝氏四十六度ヲ示シタルヲ以テ、之ガ爲メニ誘發セル大小ノ旋風ノ如キモ、隅田川沿岸地ニ於テ暴威ヲ逞ウセルモノニ似タリ。今九月一日ヨリ三日ニ至ル迄ノ氣象ヲ示セバ左表ノ如シ。

時	風 一日 風向	風速	風 二日 風向	風速	風 三日 風向	風速	氣壓 一日	氣壓 二日	氣壓 三日	氣溫 一日	氣溫 二日	氣溫 三日	濕度 一日	濕度 二日	濕度 三日
1	SSE	5.5	NNW	16.9	SSE	7.0	57.3	51.9	55.0	26.0	32.7	26.7	82	41	79
2	ESE	5.5	N	15.4	SSE	8.4	56.4	52.1	54.8	26.0	22.0	32.0	84	41	71
3	E-N	7.9	N	13.8	SE	7.3	56.2	52.4	54.6	25.1	31.3	26.6	87	44	84
4	SE	5.0	N	10.5	S	6.7	56 5	52.7	54.5	25.9	31.6	26.0	83	40	88
5	SE	6.0	NNW	10.2	S	4.3	55.2	53.1	54.6	26.2	31.0	25.6	84	45	84
6	E	7.8	NNW	7.9	S	4.7	54.0	53.6	54.8	26.2	30.3	25.5	84	51	82
7	SE	9.8	NW	7.9	S	5.9	53.4	54.1	54.8	26.0	26.3	26.5	83	63	77
8	SSE	9.5	N	5.4	S	8.1	52.9	54.3	54.8	26.9	26.1	27.7	84	63	76
9	S	11.2	SSW	4.6	S	10.2	52.2	54.4	54.8	26.3	27.7	27.7	90	57	78
10	S	11.0	SW	4.4	S	9.6	51.5	54.0	54.5	26.7	27.1	28.4	85	63	74
11	S	10.8	SW	5.1	S	7.6	51.1	53.8	34.2	26.3	27.1	28.1	88	60	79
12	SSE	12.3	SW	5.6	S	11.2	49.8	53.8	54.1	28.7	26.3	28.1	77	75	81
13	SSW	11.7	SW	6.9			49.7	53.7	53.5	29.1	26.9	27.1	76	72	98
14	S	11.3	SSW	5.9			49.0	53.5	53.6	27.4	25.4	25.7	67	67	100
15	S	11.0	SW	5.7			48.7	53.9	52.8	29.7	27.1	25.7	65	68	100
16	SW	10.7	S	5.6			47.4	53.9	52.5	30.0	27.5	25.8	66	69	100
17	S	13.7	S	8.7			49.3	53.9	52.4	28.3	27.3	26.5	78	67	79
18	WSW	14.5	S	8.2			49.4	54.2	52.6	29.1	27.2	26.6	73	71	100
19	W	13.1	S	6.6			50.0	54.8	52.9	29.8	27.7	26.6	64	54	86
20	WNW	10.4	S	7.9			50.5	55.2	53.0	20.0	27.5	26 6	62	64	88
21	NNW	18.5	S	6.2			50.5	55.3	53.0	32.3	27.2	26.6	52	69	88
22	NNW	19.2	S	5.0			50.8	55.4	52.9	31.9	27.1	26.7	44	72	87
23	NW	21.8	S	4.8			51.4	55.3		32.7	27.1	26.5	45	76	83
24	NNW	17.6	S	6.1			51.6	55.2		22.7	27.0	26.4	41	78	86

第三　火災ノ概況

(一)　麹町區

(a)　警視廳方面

九月一日午前十一時五十八分有樂町一丁目田中製版所ノ火ヲ發スルヤ、折柄ノ南風ニ煽ラレテ、忽チ「シンガーミシン」會社ノ木造建築ニ延燒スルト共ニ、火勢ハ二分シテ一ハ本廳ノ各官舍・馬房・演武場・東面新館・總監官邸等ヲ燒キ、有樂橋通ニ及ビテ止ミ、他ノ一ハ本廳遺失物倉庫裏ヨリ有樂町一丁目ナル木造高層建物ノ密集セル一劃ニ擴ガリ、更ニ幸樂亭方面ヨリ發シタル火道及ビ大正生命保險會社方面ヨリ突進シ來レルモノト相合シテ、益々勢ヲ增シ、遂ニ本廳ヲ全燒セルノミナラズ、(午後三時二十分)帝國劇場ニモ及ビ、其周圍ノ一部ヲ半燒セリ。

(b)　大手町方面

本廳方面延燒中、(午後二時頃)震災ニ引キ續キテ發シタル、帝室林野管理局ノ火ハ、次第ニ猛烈ヲ加ヘ、內務省・大藏省・印刷局等ヲ燒キ拂ヒテ二方ニ分レ、一ハ錢瓶町ニ入リ電話本局・專賣局、大手町二丁目・道三町ニ延燒セシガ、午後八時風向ノ變化ニ依リテ主流トナリ、三菱別館ヨリ吳服橋、大手町ノ線以北及ビ鐵道省ヲ燒キテ午後十二時止ミ、他ノ一ハ始メ主流トシテ風下ナル鎌倉河岸新龍小學校ニ延燒シ、午後零時ニ發シタル日本橋區本町三丁目ノ火道ト鍛冶町ニ於テ合シ、(午後四時)風下ナル富山町・柳原町ニ向ヒ、更ニ他ノ一ハ美土代町・雉子町・須田町方面ニ延燒セリ。

(c)　有樂町三丁目方面

一日午後三時頃有樂町東京電燈會社附近ヨリ發シタル火ハ南風ニ煽ラレテ、其主流ハ數寄屋橋方面ニ延燒シ、遂ニ八官町ヨリ起リテ東北進セル火道ト、數寄屋町ニ於テ合シタリシガ、(五時半)支流ハ、有樂町驛鐵道線以東有樂座及ビ電氣局ニ至ル一廓ヲ燒キ拂ヒタル後、午後八時風位ノ變化ニ依リテ南ニ向ヒ、內幸町方面ニ南進セリ。

(d)　內幸町方面及山下町方面

有樂町方面ヨリ南進セル火道ハ內幸町ニ入リテ帝國ホテルヲ侵シ、更ニ建

築中ナル政友會本部、東洋拓殖會社、毎日新聞ヲ燒キタル後、午後七時植木屋旅館ニ發シタル火道ト合シテ、胃腸病院ニ及ビ、益々南進シテ午後十時櫻田本郷町ヨリ芝區ニ南進セリ。

（e）水田町方面

赤坂田町ヨリ發シタル火道ハ、一日午後五時ニ至リ、山王臺西側ニ延燒スルニ及ビテ、自ラ主流ヲ成シ、遂ニ永田町二丁目ヨリ葵橋通以西鍋島邸、支那公使館方面ニ進ミテ之ヲ屠リ、更ニ虎ノ門女學館ニ飛火シテ、同校及ビ維新史料編纂會等ヲ燒キ拂ヒタリ。

（f）中六番町方面

一日午後零時頃、麹町中六番町明治藥學校ヨリ發シタル火ハ、南風ニ煽ラレテ忽チ三番町ニ及ビシガ、午後四時ニ至リテ風位西南ニ變ジタルガ爲ニ、主流ハ富士見町方面ヨリ電車通ニ沿ヒテ其威ヲ逞クシ、僅カニ富士見町一丁目富見軒通東側ニ及ビ三番町ノ一部ヲ殘セルノミ。然ルニ午後八時風位更ニ北西ニ變ズルヤ、一轉シテ南方ニ進ミ、上六番町・一番町・中六番町・五番町ノ大部分ヲ燒キテ上二番町・元園町・一、二丁目ノ低地ニ出デ、午後十一時半津田英學塾、山縣公爵邸附近ヨリ英國大使館裏ニ及ビ、一方ハ麹町區役所ノ屋上ニ飛火シ、尋テ翌二日午前一時麹町警察署・區役所・郵便局等ヲ燒キ、麹町一・二・三丁目ヨリ電車通ヲ越エテ山本町・平河町・隼町方面低地ニ向フ。而シテ、火ノ東翼ハ半藏門電車交叉點ニ進ミテ麹町電氣變壓所ヲ燒キ、衞戍病院ヲ脅シツヽ平河町方面ニ出テ益々熾トナリ、遂ニ麹町銀行横町及ビ平河町五・六丁目ニ延燒シ、其西翼ハ麹町四・五丁目ノ境界道路ヨリ善國寺谷ヲ侵シテ三日午前三時漸ク鎭火セリ。

（g）麹町五丁目方面

二日午後三時麹町五丁目藥種店ヨリ發シタル火ハ忽チ擴大シ、麹町六丁目改正道路以東燒殘シタル元園町二丁目ノ全部ヲ燒キ、更ニ北進シテ再ビ下二番町ノ一部ヲ侵シ、翌三日午前三時ニ至リテ止ム。

（h）富士見町六丁目方面

震災ト同時ニ麹町富士見町六丁目、日本齒科醫學專門學校解剖室ヨリ發シタル火ハ、初メ西南風ノ爲メ牛込見附飯田町三・六丁目方面ニ向ヒシガ、午後五

時漸次風位西北ニ轉スルニ及ビ、一方ハ飯田町二・四・五丁目ノ全部ヲ屠リ、飯田町停車場並ニ飯田河岸ノ大半ヲ燒拂ヒ、午後六時頃神田三崎町方面ヨリ來レル火道ト合ス、而シテ他ノ一方ハ午後八時九段坂下ニ出デテ南進主流ヲ成シ、午後九時迄ニ飯田町一丁目愛國婦人會、精華女學校ヲ殘シ、佛國大使館附近一帶ヲ燒キタリ。

(二)　神田區

(a)　今川小路方面

一日午後零時三分神田今川小路女子職業學校寄宿舍及ビ一ツ橋四番地ヨリ出火シ、其主流ハ今川小路南神保町・北神保町ニ及ビ、且同時ニ發シタル表神保町及ビ中猿樂町ノ二火道ト合シテ猿樂町・駿河臺方面ニ延燒シ、更ニ三崎町方面ニモ其翼ヲ張リ、表神保町・小川町・錦町ニ延燒セリ。斯クテ其主流ハ水道橋、神田川ノ線ヲ壓シ、午後二時本鄉元町及ビ御茶水北岸ニ飛火シ、尋テ午後五時半ニ至リ、風位西ニ變ジタルガ爲ニ神田川ニ沿ヒテ駿河臺萬世橋方面ニ開展シ、午後七時本石町ヨリ來レル火道ト須田町ニ於テ合ス。幾モナク午後八時風位北ニ變スルヤ、猛烈ナル火勢ハ淡路町・駿河臺甲賀町・小川町・錦町等ヲ經テ南進シ、午後十一時半頃一ツ橋・神田橋附近ニ出デタリシガ、更ニ錦町三丁目ノ火ハ中央氣象臺ニ、如水館ノ火ハ文部省ニ飛火シ、外國語學校、警察講習所等ヲ燒キ、翌二日午前一時鎭火セリ。

(三)　日本橋區

(a)　箱崎町方面

震災ト同時ニ箱崎町及ビ京橋南新堀町ニ起リタル火ハ、忽チ相合シテ主流ヲ成シ、土州橋ヲ越エテ蠣殼町・濱町方面ニ北進シ、更ニ本町ヨリ東進セル火道ト合ス。會々午後八時風位ノ變化ニ依リテ主流ハ漸次南進セリ。

(b)　本町方面

震災ト同時ニ本石町三丁目及ビ本町三丁目ヨリ發シタル火ハ、南風ニ勢ヲ得テ、其主流ハ鐵砲町ヨリ紺屋町・東福田町、松枝町・富山町等ニ出デ、午後五時神田川岩本町方面ノ延燒尻火ト合シ、午後六時神田川岩井町河岸・柳原河岸ニ達ス。是ヨリ先午後四時神田鍛治町・新石町方面ニ於テ大手町方面ノ火道ト合シタ

ル猛火ハ約一時間ニシテ、東ハ大傳馬町・堀留町・新材木町ニ延燒シ、南ハ駿河町、室町・瀨戸物町ニ迫リシガ、午後五時ニ至リテ風位西ニ變ス。是ニ於テ堀留方面ノ火勢ハ自ラ主流ト化シ、本小田原町・芳町・蠣殻町・箱崎町ニ向ヒ又室町方面ノ火道ハ吳服橋・茅場町ニ向ヘリ。然ルニ午後八時頃風位再ビ變ズルニ及ビ、茅場町方面ノ火勢益々强ク、遂ニ前者ニ代リテ主流ヲ成シ、京橋ヲ突破シテ銀座一・二・三丁目木挽町・新富町・築地一丁目及ビ明石町ノ一部ニ延燒スルニ及ビ、京橋八官町ヨリ東北進スル火道ト合シ、午後十時、明石町聖路加病院及ビ水上署附近ヲ燒拂ヒテ鎭火セリ。

(四)　京橋區

(a)　八官町方面

一日午後零時八官町ニ發シタル火ハ自ラ二分シ、其主流ハ數寄橋尾張町・三十間堀ヲ襲ヒ、分流ハ采女町方面ニ進ミ、有樂町方面ヨリ東進セル火勢ハ數寄屋町ニ於テ合シ、午後四時迄ニ三十間堀ノ沿岸及ビ銀座尾張町ニ擴大シ、次第ニ東北進シテ新富町・本挽町・築地二丁目ニ出デ、日本橋本町、南新堀町ヨリ南進スル火勢ト合ス。(午後四時)而シテ其猛火ハ午後七時半工手學校ニ飛火シ、尋テ本願寺ニ延燒セシガ、午後八時隅田川ヲ越エテ又月島ニ飛火セリ。

(b)　月島方面

京橋八官町方面ノ猛火ガ月島二號地渡邊倉庫ニ飛火セルハ一日午後八時ナリシガ、西北風ニ煽ラレテ忽チ二號地ニ延燒セル折シモ、之ト殆ンド同時ニ京橋明石町方面ヨリ一號地西河岸通五丁目及ビ一丁目ニモ飛火シ、風下ノ一號地全部ヲ一掃シテ三號地内ニ入リ、翌二日午前三時遂ニ三號地ヲ燒盡シテ止ム。之ヨリ先キ、一日午後八時、京橋區越前堀ノ火ハ、隅田河口ニ碇泊セル帆船ニ飛火シ、尋テ石川島造船所起重機ニ飛火セルガ爲再ビ大火トナリ、同島及ビ佃島ニ延燒シ、新佃島ノ一部ヲモ烏有ニ歸セシメタリ。

(五)　芝區

(a)　芝口方面

京橋區八官町方面ノ火道ハ、始メ南方ニ擴大シツヽアリシガ、一日午後八時風位ノ變化ニ依リテ忽チ北方ニ進ミ、土橋・新橋ヲ襲ヒテ午後十二時、芝口一・二

丁目ニ入ル、而シテ之ト同時ニ、麹町區内幸町ノ火勢モ亦新幸町王子製紙會社ニ飛火シ、烏森ニ於テ芝口ノ火道ト合シタリ。是時ニ方リ風速二十二米突ノ烈風トナリタルガ爲ニ、火勢頓ニ強ク、其東翼ハ汐留驛ヨリ芝離宮ヲ侵シ、西翼ハ愛宕下通ニテ赤坂田町方面ヲ南下スル主流ト合シ、午後十二時ニ及ビテ巴町・愛宕山下・愛宕町・愛宕下町・露月町ニ出デシガ、翌二日午前二時ニハ新錢座マデ延燒セリ。而シテ高臺方面ニ於テハ八幡町・榮町・廣町ノ一部ヲ燒キタレドモ、風力ノ漸次減退セルト、芝公園ノ樹木ニ遮ラレシトニ依リテ、火勢漸ク衰ヘ、午前七時芝增上寺前通以東公園十五號及十四號ノ一部、並ニ新堀町西應寺ノ大部ヲ殘シ、金杉四丁目ニ至リテ止ム。

(b) 高輪御殿

一日午後零時高輪御殿御學問所化學藥品室ヨリ發火シ、御殿裏重要建築物ヲ燒失シ、午後六時鎭火ス。

六) 赤坂區

(a) 溜池方面

震災ト同時ニ赤坂田町四丁目東屋料理店ヨリ發火スルヤ、忽チ田町一圓ヲキ盡シ、僅カニ新町一丁目・田町一丁目ノ一部ヲ殘セルノミ。斯クテ其主流ハ一方ニハ永田町二丁目ニ延燒シテ麹町區ニ入リ、他ノ一方ニハ南進シテ又二ツニ分レ、分流ハ榎坂(東伏見宮邸ヲ殘ス)町・靈南坂町ノ一部ヲ燒キ、二日午前二時麻布市兵衞町大村邸ニテ鎭火シ、其主流ハ芝區ニ入リ、明舟巴町ヨリ愛宕山ヲ侵シ、午後十二時愛宕下通ニ於テ內山下町ヨリ南進セル主流ト合シタリ。

(七) 四谷區

(a) 新宿方面

一日午後零時頃、新宿旭町アパートメント裏、豆腐屋ヨリ發火シ、電車通ヲ越エ、新宿三丁目ニ進ミテ市電新宿車庫ニ延燒シ、電車百十六臺ヲ燒キ、更ニ遊廓方面ニ向ハントスルヲ、車庫東側及ビ三光町通ニ於テ辛ウジテ之ヲ沮止シタレバ、新宿三丁目全部及ビ接近郡部ノ一部ヲ燒キタルノミニテ午後六時鎭火セリ。

(八) 牛込區

（a）陸軍士官學校豫科

一日午後零時三分牛込區本村町陸軍士官學校豫科（元中央幼年學校）理化學教室ヨリ發火シ、牛込加賀町藥王寺町方面ニ延燒セントスル勢アリタレドモ遂ニ之ヲ沮止シ、附近家屋四棟ヲ燒失セルノミニテ午後二時鎭火セリ。

（九）小石川區

（a）諏訪町方面

一日午後零時三分新諏訪町及ビ砲兵工廠西北隅工場ヨリ出火シテ北進ノ狀アルヤ、工廠ハ其自衞隊（後ニ軍隊來援セリ）消防ニ從事シ、其南半部ヲ燒キタルノミナレドモ、午後六時風位西南ニ變ジテ本郷元町ニ延燒セシガ、水道橋附近ニ於テ鎭火セリ。又新諏訪町ノ火道ハ北進シテ新諏訪町・江戸川及ビ諏訪町ノ一部ヲ燒キ、午後三時半ニ至リテ止ム。

（b）櫻木町方面

一日午後零時櫻木町五、藥種商ヨリ出火シ漸次北進シテ音羽町九丁目ニ延燒シ、午後二時十分鎭火セリ。

（一〇）本郷區

（a）向ケ丘方面

震災ト同時ニ、帝大醫學部醫學科教室・同藥學教室・工學部應用化學教室・火藥學教室等ヨリ發火セシガ、醫學科教室ノ火ハ擴大シテ藥物學教室・圖書館・法經文學部教室・法文學部研究室・八角堂・第一學生控室・大學本部等ヲ燒キ、午後三時半頃鎭火セリ。

（b）御茶水方面

神田方面ノ火道ハ水道橋裏猿樂町・駿河臺ヲ一掃シ、更ニ川ヲ越エテ本郷湯島ヲ侵シ、順天堂病院及ビ女子高等師範學校ヲ燒キテ本郷元町一丁目ニ延燒スルヤ、漸次、神田川ニ沿ウテ東北進シ、神田明神・宮本町・臺所町ヲ烏有ニ歸セシメタル後、同朋町・妻戀町ニ擴大スル主流ト、湯島四丁目ヨリ春木町方ニ進メル分流ト、元町一丁目低地ヲ春木町方面ニ北進スル分流トニ別レシガ、春木町方面ノ分流ハ午後六時風位西南ニ變ジタルヲ機トシ、切通線以北ニ延ビントスルヲ辛クモ沮止シタレトモ風力加ハルニ及ビ切通坂・湯島妻戀町・同朋町ニ至

ル線ハ主流ト化シテ力ヲ添ヘ、御成街道ニ向ヒテ展開シ、午後七時頃ニ至リ、御成街道東側ヨリ仲町・花房町・秋葉原ニ進ミタル折シモ、午後八時半頃風位更ニ北西ニ變ジタルガ爲ニ、御成街道西側一帶ハ忽チ其襲フ所トナリ、餘勢ハ萬世橋方面ニ南下シ、午後十一時頃昌平・萬世・兩橋附近ニ於テ本石町・大手町方面ノ火道ニ擢リタル燒跡ニ至リテ熄ミ、又本郷元町方面ノ火道ハ午後六時ヨリ風位西南ニ變ゼシカバ、壹岐坂ノ線ヲ境界トシ、午後八時頃ヨリ東進シ、火先ハ午後九時本郷春木町ノ燒跡ニ合シテ熄ム。

（一一）淺草、下谷區

（a）藏前方面

一日午後零時藏前ナル高等工業學校藥品室ヨリ發シタル火ハ、折柄隅田川ニ起リシ旋風ノ爲ニ勢ヲ得テ校外ナル專賣局ニ延燒シ、又須賀町及瓦町ニ飛火スルト共ニ、其主流ハ森田町・片町・福富町方面ニ進ミ、而シテ其西翼ハ須賀町猿屋町・福富町・元鳥越町等ヲ燒キ、東翼ハ厩橋稅務署ヲ燒キタル後、隅田川ニ沿ヒテ北進ス、午後六時風位西南ニ變ジタル結果、西二筋町ニ延ビタル主流モ亦

隅田川ニ向ヒテ東進シ、午後十二時頃材木町ヨリ河畔ニ達シテ稍萎靡ノ觀ヲ呈シタレドモ、西翼ノ火勢ハ午後五時頃福井町・左衞門町ヲ襲ヒ、午後七時頃ニ至リテ稍鎭靜セシガ、午後八時再ビ勢ヲ得テ南下シ、午後十一時頃淺草橋附近ニ於テ木石町・箱崎町方面ノ火道ト合シ、向柳原町ノ東側ヲ侵シ、翌二日遂ニ神田佐久間町ニ延燒セリ。

（b）千束町方面

一日午後零時千束町一丁目凌雲閣附近ニ發シタル火ハ、千束町一・二丁目・田町一・二丁目ヲ燒キテ、日本堤ニ向ヒ、吉原廓內ヨリ發シタル火道ト合ス。斯クテ午後五時風位西南ニ變ズルヤ、花屋敷裏象潟町・馬道町方面ノ火勢ハ急速ニ隅田川ニ向ヒテ東進シ、午後八時聖天町・電車線路ニ迫レリ。時ニ、風位北北西トナリテ、火勢ハ次第ニ南進シ、午後十一時淺草公園ノ北東ヲ掠メツヽ、花川戶山宿ヲ一掃シ、午後十二時吾妻橋ニ於テ藏前方面ノ火道ト合ス。是ヨリ先午後十一時公園仲見世ハ既ニ燒失シテ火勢漸ク傳法院ニ迫リ、而シテ千束町方面ノ火道ハ光月町方面ノ火道ト相合シテ益々勢ヲ增

シ、新谷町・芝崎町等ヲ燒キテ午後十一時頃遂ニ公園六區ノ觀物場全部ヲ燒キ、二日午前二時公園ノ西南境ヲ盡シテ南下ス。

(c) 吉原方面

震災ト同時ニ、吉原廓内ハ、京町・江戸町・角町ノ四ケ所ニ發火シ、忽チ四方ニ擴大シテ其主流ハ龍泉寺町・田中町方面ニ進ミ、且同時ニ吉原堤ヨリ今戸方面ニモ向ヒシガ、午後五時頃ニ至リテ火勢愈々强ク・田中町・山谷・吉野町方面ニ延燒シ、更ニ淺草町・玉姫町・橋場町ニ起レル火勢ト合シ、午後十時半頃玉姫町・龜岡町・吉野町・今戸町ヲ燒キ聖天町待乳山附近ニ於テ、千束町ノ延燒火道ト合ス。又龍泉寺町方面ノ火道ハ、午後四時頃ヨリ風位變化スルニ及ビテ、先ニ日暮里ヨリ發シ金杉下町方面ニ進メル火道ト合シ、此所ニ勢ヲ得テ更ニ南進シ、再ビ吉原病院及ビ公園附近ヲ掠メタル火流ト合シ、光月町・入谷町・新谷町金龍學校等ヲ襲フ。午後十二時頃風力ノ加フルト共ニ、延燒ノ勢モ亦物凄ク、遂ニ芝崎町・田島町・本願寺・田原町並ニ淺草公園ノ一部ヲ燒キ、更ニ南進シテ、二日午前二時頃合羽橋通ニ達シ、下谷區ノ南部ニ侵入セリ。斯クテ此火道ハ午前三時頃菊屋橋附近ニ於テ二分シ、東翼ハ、前日藏前方面ヨリノ延燒火道ト合シテ南進セシガ、東臺ノ丘陵ニ支ヘラレテ北松山町方面ニ向ヒ、南稻荷町・永住町・阿部川町ヲ衝キ藏前ノ延燒火道ノ三筋町方面ヨリ來レルモノト合シ、漸進シテ七軒町・小島町ヲ襲フ、時ニ午前六時頃風力漸ク衰フ。是ニ於テ火勢亦減退シ、小島町ヨリ竹町・西鳥越町及ビ向柳原町附近ニ至リ、午前九時頃ヲ以テ鎭火セリ。

菊屋町方面ノ火道ノ西翼ハ、午前十時頃入谷萬年町ヨリ北稻荷町ニ進ミ、更ニ上野警察署ヲ燒キテ仲徒士町ニ及ビ、午後六時ニ至リテ上野停車場並ニ上野廣小路一帶ヲ焦土ト爲シタル後、榮町附近ニ於テ鎭靜セシハ二日午後九時頃ナリシガ、三日午前二時頃東南風ニ煽ラレテ再ビ勢ヲ得、北大門町風月堂ニ飛火スルニ及ビテ數寄屋町・天神町等ヲ燒拂ヒ、三日午前十時ヲ以テ全ク鎭火ス。

(d) 田中町・淺草町方面

震災ト同時ニ田中町及ビ淺草町ヨリ發火シ、南風ニ乘ジテ共ニ南千住方面ニ進ミシガ、風位西ニ變ズルヤ、田中町ノ火道ハ電車通ヲ越エテ淺草町ノ火道ト合シ、以テ主流ヲ成シテ墨田川ニ向ヒ、午後二時更ニ吉原方面ノ火道ト合シ、

玉姫町、淺草町ヲ燒ケリ。

（一二）本所區

（a）柳原町方面

震災ト同時ニ、柳原町ニ發シタル火ハ南風ニ煽ラレテ漸次擴大シ、其尻火ハ菊川町及ビ猿江裏町ニ起レル火道ト竪川ニ於テ、花町ニ發シタル火道ト橫川ニ於テ、互ニ相合シ、入江町・錦糸町等ニ延燒シテ多數ノ燒死者ヲ出シ、又東南松代町方面ニモ延燒セリ。斯クテ益々暴威ヲ逞クシ、午後三時ヨリ五時マデノ間ニ太平町・相生町方面ノ火道トモ合シ、南北二葉町ヲ侵スニ及ビテ火勢頗ル強ク、龜澤町ナル被服廠跡ヲ脅セシガ、午後六時風位ハ西ニ轉ジテ柳島橫川町ニ達シタル折シモ、更ニ西北ノ風ニ變ジ、火勢急速ニ南下シテ橫川以東竪川以北ヲ燒キ盡セリ。

（b）橫網町方面

震災ト同時ニ菊川町・德右衞門町ニ發シタル火ト、花町ニ發シタル火トハ、共ニ北進シテ其勢猛烈ヲ極メ、午後二時元町・相生町一丁目附近ニ飛火スルヤ、西南風ニ煽ラレ漸次橫網町一丁目ニ延燒シ、午後三時頃ニハ、龜澤町兩國橋驛ニ迫リ、又吉岡町・右原町附近ニ發シタル火ト合シテ火勢益々揮フ。會〻午後三時半前後ヨリ大旋風頻リニ起リ、之ガ爲ニ被服廠跡ニ於ケル數萬ノ避難者ヲ燒死セシムルノ大慘事ヲ生ジタリ。斯クテ瞬ク間ニ橫網町二丁目ヨリ外手町ニ流出シ、松倉町方面ノ火道ト合シテ番場町ニ至リ、更ニ花町方面ノ火道ト共ニ龜澤町・二葉町ヨリ石原町ニ延燒セシガ、旋風ト共ニ風位亦屢〻變ジ、到ル所猛威ヲ逞シクシ、遂ニ江東一帶ヲ燒キ盡セリ。

（c）松倉町方面（押上ヲ含ム）

震災後幾クモナク若宮町・吉岡町及ビ押上町ニ發シタル火ハ南風ニ煽ラレテ、午後六時向島小梅中郷ニ達シ、風位變リテ向島ノ東境マデ進ミシガ、午後八時風位再變ノ結果燒跡ニ達シテ止ム。

（一三）深川區

（a）森下町方面

震後間モナク安宅町ニ火ヲ發シ、尋テ富川町・德右衞門町・西森下町・東六間堀

町・猿江裏町等ニモ發シテ西南風ニ煽ラレシガ、其最モ猛烈ヲ極メシハ西森下町・東六間堀町ノ火道ニシテ、忽チ林町ニ延燒シ、松井町ヲ經テ相生町一丁目ノ火道ト合シ、午後四時龜澤町ニ達スルノ分流ヲ生ジタリ。是ヨリ先森下町交叉點附近ニハ頻リニ大旋風ヲ起シテ凄慘ヲ極メ、多數ノ燒死者ヲ出セシガ、火勢ハ次第ニ彌勒寺橋附近・林町・松井町等ニ及ブト共ニ、德右衞門町・菊川町・猿江裏町方面ノ火道ハ北進シテ、午後四時頃花町附近ノ火道ト合シ、本村町・林町方面ニ擴大セリ。而シテ東大工町ノ延燒最モ急速ニシテ、午後三時半頃富川町・東元町ノ一部ニ延ブルニ及ビテ、伊豫橋附近ハ猛火ノ包圍スル所トナリ、活路ヲ失ヘル避難者ヲシテ枕ヲ並ベテ燒死セシムルニ至ル。然ルニ午後五時半頃風位西南ニ變ズルヤ、本所林町・深川本村町等ノ燒殘地域ハ悉ク灰燼トナリ、午後八時頃ニ至リ風位北ニ變ズルト共ニ、火勢ハ自ラ南下シテ、小名木川ヲ渡リテ東大工町方面ノ火道ト合シツヽ千田町・石島町ノ殘部ヲ燒キ、午後九時高橋附近ニ於テ東大工町ノ延燒線ト合シテ此處ニモ亦多數ノ燒死者ヲ出セル後、其儘曲線ヲ描キテ南下シ、午後十二時迄ニ深川區ノ西部ヲシテ焦土ト化セシメタリ。

(b)　東大工町方面

震災ト同時ニ、東大工町硝子工場ヨリ發シタル火ハ、小名木川ヲ越エテ富川町ニ向ヒ、更ニ分レテ高橋扇橋及ビ靈岸町ノ三方面ニ延燒シ、菊川町・富川町・東元町等ヲ侵シテ益々擴大セシガ、午後四時頃ニ至リ、富川町・森下町附近ニ於テ森下町方面ノ火道ト合シ、午後八時頃猿江町・本村町ヲ侵セル際、風位ノ變化ニ依リテ南下シ、吉永町・冬木町・石島町・千田町等ヲ屠リ、午後十二時頃東平井町ニ達セリ。

(c)　洲崎町方面

震災ト同時ニ洲崎遊廓内ノ五ケ所ニ起リタル火ハ、次第ニ東北ニ進ミテ西平井町ニ延燒スルヤ、同時ニ發シタル西平井町ノ火勢ト合シテ茂森町・豐住町等ヲ侵スヤ、風位西ニ變ジ、東平井町ヲ屠リシガ、午後九時風位再ビ變ジテ南下シ、午後十二時ニ至リテ遂ニ遊廓ノ全部ヲ燒キ盡セリ。

第三節　大火ト市民避難ノ概況

第一　避難者ノ流動情況

地震ノ襲來ト共ニ民衆ハ周章狼狽ノ極、僅カニ身ヲ以テ免カレ、亦他ヲ顧ミルニ遑アラズ、屋舍内ニ於ケル火氣ノ有無、發火性物件ノ存在ヲ懸念シテ應急ノ措置ヲ講ジ、或ハ隣保協力シテ危地ヲ冒シ、其未ダ大火トナラザル以前ニ鎭滅セシメタルモノヽ如キハ殆ンド稀ナリ。コレ全市ヲ通ジテ同時ニ百三十餘箇所ノ出火ヲ見タル原因ナルベシ。斯クテ到ル處火災ノ發生ヲ促シ、水道ノ斷絶ト消防ノ不備トハ益々其猛威ヲ逞クセシメ、忽チ四方ニ延燒スルヤ、家財ニ執着シテ容易ニ退カザルモノ尠ナカラズ、彼等ハ躊躇逡巡ノ間ニ避難ノ時機ヲ逸シ、猛火腹背ニ迫ルニ及ビテ初メテ血路ヲ求メントスルモ、既ニ晩シ、路上ハ群衆ト搬出家財トヲ以テ充滿シ、歩行自由ナラザルニ、火災ハ途ヲ遮リ、橋梁マタ燒却シテ進ミ難ク、或ハ燒死シ、或ハ溺死スルモノ前後相踵キ、其路上タルト河中タルトヲ問ハズ、死屍累々トシテ横ハリ、之ヲ正視スルニ忍ビザリシハ實ニ當時ノ實況タリシナリ。

此時ニ方リ、民衆ノ多クハ一時難ヲ附近ノ公園其他ノ廣場ニ避ケタレドモ、終始其安全ヲ得タルモノハ、山ノ手方面ノミ、下町一帶ノ燒失區域ニアリテハ、安全地帶ト信ジタル場所モ、幾モナク修羅ノ巷ト化スルノ實況ニシテ、猛火ニ逐ハレテ屢々移轉シ、或ハ遠ク山ノ手方面並ニ隣接郡部等ニ遁レントシ、而モ其適從スル所ヲ知ラズシテ避難ノ方向ニ迷ヘルモノ甚ダ多シ、若シ之ヲ放置セムカ、遂ニ事ヲ誤リ、燒死ノ不幸ヲ見ルニ至ル可キハ明カナリ。是ニ於テ各警察署ハ專ラ力ヲ此方面ニ注ギ、罹災者ヲ安全地帶ニ誘導シ、幸ニシテ幾十萬ノ生靈ヲ完クスルヲ得タリ。然レドモナホ本所被服廠跡ノ如キ慘事ヲ生ジタルハ聖代ノ痛恨事ナリト謂フ可シ。

蓋本所附近ニハ區内ニ適當ノ避難所ナキガ故ニ、郡部ニ遁レシモノヽ、外ハ、概ネ此處ニ集マリ、警察官モ亦安全地帶ナリトシテ避難ヲ勸誘シタルニ、九月一日ノ夕ニ及ビテ、猛火其四方ヲ包ミ、約三萬坪ノ域内ヲ埋メタル四萬ノ群集ト、其搬出家財トヲ擧ゲテ猛火ノ中ニ葬レリ。此外吉原公園内ノ辨天池、深川越中島ノ陸軍糧秣廠並ニ伊豫橋附近、本所金絲堀停車場附近、芝愛宕下町等ニ於テモ同樣ノ現象ヲ見タリシガ、斯ノ如キハ實ニ、何人ト雖豫期セザリシ所ニシテ、當時如何ニ延燒ノ速カニ

シテ火勢ノ熾ナリシカノ一斑ヲ想像スルニ餘リアルベシ。

第二　避難者ノ流動方面

大火災時ニ方リテ、民衆ガ單獨又ハ警察官ノ指導ニ依リテ避難流動セル傾向ト、其集合地トヲ示セバ左ノ如シ。

住所別	避難流動方面
麹町區東部	二重橋外廣場・白比谷公園・東京驛・芝方面
同　西部	四谷・清水谷公園附近・外濠沿線・牛込方面
日本橋區	二重橋外廣場・白比谷公園・東京驛・芝・品川方面
京橋區	二重橋外廣場・白比谷公園・濱離宮附近・海上方面
神田區	靖國神社外苑・牛込小石川方面
本郷區	殘存部並小石川・巢鴨・瀧ノ川方面
芝　區	芝公園・東伏見宮邸・麻布・澁谷大崎・品川・目黒方面
下谷區	上野公園・本郷・谷中・日暮里方面
淺草區	上野淺草公園・谷中・日暮里・千住・三河島方面
本所區	被服廠跡・龜戸・大島・吾嬬・寺島方面
深川區	岩崎邸・越中島・埋立地・砂町・大島方面
赤坂區	東伏見宮邸・山王公園・青山・澁谷方面

四谷區　淀橋・千駄ヶ谷方面

第三　避難者ノ收容所

未曾有ノ大火災ハ、九月三日午前十時、上野附近ヲ最後トシテ全ク鎮滅ニ歸シタレドモ、罹災者ノ多クハ住スルニ家ナク、身ヲ置クニ地ナシ。斯クテ彼等ハ親族・緣者・知己・朋友ヲ辿リテ鄉里其他ニ移動シ、震災前二百數十萬ヲ算シタル帝都ノ人口ハ殆ンド半減ノ狀ヲ呈シタレドモ、其他ノ大半ハ呆然トシテ廢墟ノ如キ廣原ヲ望見シテ進退ニ窮スルノミ。本廳卽チ關係ノ官公衙ト謀リ、應急ノ避難所ヲ設ケテ之ヲ收容セリ。今其場所ヲ示セバ左ノ如シ。

麹町區　二重橋外・日比谷公園・市役所及其ノ附近・東京驛・吹上外苑・日比谷小學校・海城中學校・女子學院・東京區裁判所・府立第一中學校・司法省・衆議院・愛國生命保險會社・牛ケ淵公園・靖國神社境內外苑・千鳥ヶ淵公園・富士見小學校・永田町小學校・愛國婦人會・精華女學校・三輪田女學校・曉星中學校・教育總監部・陸軍衞戍病院・麹町心法寺・安田善三郎邸・清水谷公園・麹町高等小學校・千代田女學校・日本女子商業學校・和洋裁縫女學校・伏見宮邸・佛蘭西大使館・海軍省

神田區　一ツ橋小學校・商科大學
京橋區　石川島造船所・月島一號地・二號地・三號地・佃島・新佃島
芝　區　芝公園・增上寺・芝山內御靈屋・芝中學校・正則中學校・協調會・芝小學校・南海小學校・奉平神社・有馬ヶ原・研究會本部
麻布區　南山小學校・笄小學校
赤坂區　東宮御所・第一師團司令部・歩兵第三聯隊・仲之町小學校・赤坂小學校・氷川神社・豐川稻荷・市電青山教習所・黒田侯爵邸・一條公爵邸・東伏見宮邸・氷川小學校
四谷區　新宿御苑・四谷第二小學校
牛込區　陸軍士官學校・陸軍戸山學校・陸軍經理學校・築土小學校・江戸川小學校・早稻田小學校・山吹小學校・餘丁町小學校・府立第四中學校
小石川區　柳町小學校・金富小學校・指ヶ谷小學校・原町小學校・府立第五中學校
駕籠町小學校・北中學校・跡見女學校・盲啞學校・傳染病研究所・植物園・護國寺・福音教會・高等師範學校
本郷區　帝國大學・本郷高等小學校・本郷追分小學校・本郷追分各寺院
下谷區　下谷臨時救護所・上野公園・舊博覽會動力館・谷中各寺院
淺草區　淺草觀音堂・淺草公園・富士小學校・向柳原・衞生試驗所・新谷町市電倉庫・公園スケート場・淺草傳法院・佛教傳道館
本所區　牛島小學校・牛島神社・日本鋲釘會社・大隅邸・大川邸・日下邸・和田邸・笹沼邸
深川區　商船學校・水產講習所・航空研究所・越中島
市　外　澁谷臨川小學校・南千住瑞光小學校・同第二小學校・同第三小學校・同尋常高等小學校・千住神社・寺島小學校・秋葉神社・南千住西光寺・同眞養寺・同眞正寺・同園通寺・同交隣園・同千壽第一小學校・同第二小學校・同尋常高等小學校・龜戸香取小學校・同第一小學校・同第二小學校・三河島第三峽田小學校

更ニ定住人口ト避難者トノ比較ヲ表示スレバ左ノ如シ、

東京市定住人口ト避難者

區名	定住人口	避難者數	計（現在人口）
麹町	五三、八一八	二三、二五五	七七、〇七三
神田	一〇、八二〇	二六、〇二二	三六、八四二
日本橋	○	八、一九八	八、一九八
京橋	一、九五四	一九、四六七	二一、四二一
芝	九六、二六九	五一、五八二	一四七、八五一
麻布	九三、三九六	二六、七一三	一二〇、一〇九
赤坂	四五、四五六	二一、六六六	六七、一二二
四谷	六六、三八八	三六、四四二	一〇二、八三〇
牛込	一二七、四四六	四六、二七八	一七三、七二四
小石川	一三七、九九八	四八、五六五	一八六、五六三
本郷	一〇六、八七七	五四、〇三三	一六〇、九一〇
下谷	三三、六五三	四九、四六〇	八三、一一三
浅草	二、八〇四	九〇、八六七	九三、六七一
本所	四、六八〇	五三、四四〇	五八、一二〇
深川	○	三八、四六七	三八、四六七
合計	七八一、五五九	五九四、四五五	一、三七六、〇一四

備考　本調査ハ東京市ニ於テ九月二十一日ヨリ一週間ノ調査ニ係ル、避難者數ハ他區ヨリ來リタルモノ並ニ區内ノ罹災者ヲ含ム

第四節　消防方略

始メ震災ノ起ルヤ、緒方消防部長ハ附近ニ於ケル被害ノ甚シキニ依リテ、早クモ火災ノ續出スベキヲ慮リ、山川消防課長及里吉機械課長ヲ指揮シ、各消防署ニ對シテ直ニ出動準備ヲ命シ、尋テ機ニ臨ミ變ニ應ジテ消防ノ方略ヲ訓示シ、努メテ遺漏ナカラン事ヲ望ミタリシガ、其經過ニ就キテ考フルニ、之ヲ大別シテ三期ト爲スヲ得ベシ、卽チ一消防隊單獨ノ行動ニ依リ、或ハ二・三消防隊ノ連合ニ依リテ奮鬪セルヲ第一期トシ、消防力ノ集中整頓ヲ圖リ、專ラ中央地帶ナル山ノ手方面ニ死力ヲ盡シタルヲ第二期トシ、火勢漸ク衰ヘタルニ乘ジテ鎭滅ノ策ヲ講ジタルヲ第三期ト爲ス、今此三期ニ就キテ、本廳ノ採レル消防方略ノ大要ヲ叙述セントス。

第一　各消防隊ノ單獨行動

震災直後、消防部ガ各消防署ニ對シテ出動準備ヲ命ズルヤ、各署ハ專ラ單獨ニ行

動シ、火災ノ情況ニ從ヒ、或ハ一隊ヲ以テ、或ハ二・三隊連合ノ力ヲ以テ、未ダ大火トナラザル以前ニ鎭火スルヲ要ス。殊ニ各方面ノ發火多數ナレバ決シテ應援隊ヲ依賴スルコト勿レ、而シテ消防部及ビ隣署トノ連絡ヲ保チテ最善ノ努力ヲ致スト共ニ、情況ノ報告ヲ消防部ヘ齎ラス可キ旨ヲ以テセリ。然ルニ此命令傳達ノ際ニ於テ、電話並ニ火災報知機ハ既ニ斷絶シテ用ヲ爲サズ、傳令ハ悉ク特使ヲ派遣スルノ狀態ナルノミナラズ、本廳望樓ヨリ展望シ得ル火災ハ數十箇所ノ多キヲ見、市中ノ混亂名狀ス可カラザルモノアリ、之ガ爲ニ傳令モ亦意ノ如クナラズ、加フルニ水道ノ杜絶ハ消防上ノ大障害ヲ來シタレバ、平時ノ通則タル消防署管內ノ各隊ヲ以テ包圍部署ヲ定ムルノ手段ヲ講ズルコトヲ得ザルヤ勿論ナリ。是ニ於テ各消防署ハ概ネ單獨ノ行動ヲ採リ、一隊ヲ以テ數箇所ノ火災ニ當ラザル可カラザルノ苦境ニ陷リシガ、各消防隊必死ノ活動ハ、能ク之ヲ其初期ニ消止メタルモノ三十五件ニ及ビ、効果見ル可キモノナキニ非ラザリシカドモ、發火ノ地點ハ實ニ百數十ノ多キニ及ベルニ反シテ、消防力ハ之ニ伴ハズシテ火勢漸次擴大ノ兆アリ、殊ニ藥品油類等ノ爆發物件ヲ有スル箇所ニ於テハ其火勢特ニ强ク、殆ンド一瞬間ニシテ四方ニ延燒シ、炎々天ヲ焦スノ猛火トナリテ、各署ニ於ケル單獨行動ノ、能ク之ヲ制シ得ベキニ非ザルヤ勿論ナリ。其勢力ヲ集中シテ帝都ノ重要地帶ヲ保護シ、其全滅ヲ免レシムルコトハ焦眉ノ急務タリ。本廳ノ消防方略之ガ爲ニ變化ス。

第二　消防隊ノ勢力集中ト山ノ手方面ノ擁護

市內百數十箇所ヨリ殆ンド同時ニ發シタル火災ハ、猛烈ナル勢ヲ以テ忽チ四方ニ延燒シ、其底止スル所ヲ知ラズ。各消防署ノ單獨行動ノ如キ、今ヤ、寸功ヲ見ザルニ至リタレバ、本廳消防部ハ局部防禦ノ遂ニ不可能ナルニ察シ、已ムヲ得ズ防遏至難ノ下町方面ヲ放棄スルト共ニ、消防力ノ大集中ヲ行ヒ、要地ニ防守線ヲ設ケテ中央地帶卽チ宮城ヲ中心トスル各種政治機關其他ノ重要建築物並ニ山手方面ノ延燒ヲ絕對ニ防止スベキ方略ヲ定メ、各消防署長ヲ召集シテ之ヲ訓示シ、更ニ衞戍司令官ニ對シテ工兵隊ノ出動ヲ要求シタリ、本廳ガ工兵隊ノ出動ヲ要求シタルハ實ニ九月一日午後四時三十分ナリシガ、幾モナク其出動ヲ見タルヲ以テ、互ニ協力シテ防火作業ニ從ヒ、麴町區山元町・平河町・霞ヶ關芝區琴平町・佐久間町並ニ麴町區內幸町・有樂町・大手町方面ニ於ケル、一日ノ夜ヨリ二日拂曉ニ亙レル數時間ノ奮鬪ハ

幸ニ其功ヲ奏シ、延燒ノ區域ヲ下町方面ニノミ極限スル事ヲ得タリ。

第三　鎭火作業

第二期ノ防火方略ハ概シテ其功ヲ奏シ、中央地帶ノ安全漸ク保持セラルヽヤ、下町方面ニ於ケル火勢亦衰ヘ、風力亦頓ニ減ジタルヲ以テ此機ヲ逸セズ直ニ全市ノ鎭火作業ニ移ラントシ、消防部及ビ第一消防署ノ一部ヲシテ芝區金杉方面ヨリ南下スル火道ト、麹町方面ヨリ中樞地帶ニ侵入セントスル火道トニ當ラシメ、更ニ淺草下谷方面ヨリ南進スル火ニ對シテハ、第四・第五兩消防署ヲシテ之ニ當ラシメタルニ孰レモ能ク其目的ヲ達シ、芝區ノ南下火道ハ二日午前九時、麹町下六番町ノ火道ハ三日午前三時、下谷池端切道坂方面ノ火道ハ三日午前九時ニ至リテ之ヲ鎭火セシメ、未曾有ノ大火災モ是ニ於テ始メテ其終局ヲ告グルヲ得タリ。

第五節　消防活動

第一　消防作業

本廳ガ火災時ニ際シテ採リタル消防方略ハ上文ニ述ベタルガ如シ、而シテ此方略ニ基キテ、各消防隊ガ各方面ニ於テ如何ナル活動ヲ試ミタリシカヲ語ラザル可カラズ、抑九月一日强震ノ襲來ト共ニ、市内百餘箇所ノ火災殆ンド同時ニ發スルヤ、通信機關悉ク破壞セラレシガ爲ニ、連絡統一ノ行動ヲ完全ニ保ツ事能ハザリシト雖モ、各消防隊ハ本廳ノ指揮ヲ守リテ一齊ニ出動シ、極力消防ニ從事シタリシガ、隊員並ニ機械數等發火ノ數ニ比シテ遙カニ劣レルヲ以テ、一消防隊ハ數箇所ノ火災ニ當ルノ苦境ニ陷リ、進退意ノ如クナラズ、而モ其初期ニ於テ、消止件數二十三件ニ達シ、比較的可良ノ成績ヲ示セルニ、俄カニ水道ノ斷水ニ遭遇スルニ及ビテ著シク消防力ヲ削減セラレ、遠ク水利ヲ沼・澤・池・濠ニ求メテ、辛ウジテ一時ノ急ニ應ズルノ已ムヲ得ザルニ至リシガ上ニ、强風頓ニ加ハリテ火勢益々擴大シ、消防作業ノ困難ナル眞ニ名狀ス可カラザルモノアリ、遂ニ帝都ノ大半ヲ擧ゲテ焦土ト化セシメタルハ本廳ノ深ク遺憾トスル所ナリ。然レドモ我消防隊ガ猛火重圍ノ裡ニ不眠不休二晝夜ニ涉リテ間斷ナキ勞務ヲ連續シ、遂ニ百數十名ノ死傷者ヲ出シタルガ如キ、如何ニ其活動ノ激烈ナリシカヲ偲バシム。左ニ當時ノ一斑ヲ略述シテ苦心ノ跡ヲ繹ネントス。

其一、麹町區

（一）警視廳方面

従事隊　消防部　大型喞筒（午後零時―午後五時半）

中型喞筒（午後零時―午後四時）

第一消防署　中型喞筒（午後零時―午後十時）

小型喞筒（午後零時―午後二時四十分）

大型喞筒（午後零時四十分―午後五時）

同　（午後零時半―午後二時半）

同　（午後零時四十分―午後十時半）

震災ト同時ニ警視廳鑑識課ヨリ出火スルヤ直ニ消防部大型及ビ小型喞筒出動セシニ、幾モナク有樂町一丁目一色活版所ヨリモ亦火災ヲ發シタリ、一色活版所附近ハ俗ニ山勘横町ト稱シ、木造ノ大厦櫛比シテ消防上ニ於ケル危險地帶タリ。然ルニ今ヤ其火勢ハ南風ニ煽ラレテ忽チ木造三階建ノシンガーミシン會社ニ移ルト共ニ猛火ト化シ、將ニ警視廳官舍ヲ襲ハントス、此時ニ方リ、消防部隊ハ有樂橋通リノ消火栓ヨリ水ヲ得テ、極力之ト對抗シ、更ニ廳内消火栓ニ據リテ消防ニ努メシモ火勢熾ンニシテ容易ニ功ヲ奏セズ、卽チ第一・第二兩消防署隊ノ來援ヲ促シタル折シモ、消火栓ノ水量漸次衰ヘ遂ニ斷水スルニ至リシカバ、遽カニ廳舍前ノ濠水ヲ利用シ之ヲ沮止セン事ヲ期セリ。然ルニ猛火ハ益々其威ヲ逞クシテ遂ニ警視廳ニ延燒シ、更ニ帝國劇場ニモ飛火スルニ及ビテ再ビ部署ヲ改メ、有樂橋附近ト東京日々新聞社前トニ防禦線ヲ設ケ、府廳市廳並ニ中央高層地帶ヲ救ハントシ、各隊必死ノ覺悟ヲ以テ事ニ當リ、辛ウジテ帝國劇場ノ火勢ノ三菱三號館ニ移ラントスルヲ防ギ、更ニ日々新聞社及ビ警視廳第二號、第三號官舍日比谷警察署ヘノ延燒ヲ沮止シ、府市廳ヲ中心トセル一廓ノ無事ヲ保ツ事ヲ得タリ。

（二）大手町方面

従事隊　第一消防署築地隊　大型喞筒（午後二時四十分―二日午前三時）

小型喞筒（二日午前三時―午前八時）

久松隊　小型喞筒（二日午前三時―午前八時）

是ヨリ先帝室林野管理局ヨリ發シタル火災ハ忽チ大手町ナル内務省ニ飛火シ、大藏省ニ延燒セシカバ、警視廳方面ニ出動セル第一消防署ノ築地隊ヲ急派シ、濠水ヲ利用シテ大藏省官舍ヲバ半燒ノ程度ニ消止メタレドモ、餘災ナホ侮ル可カラズ、

而モ一ツ橋方面ヨリノ火勢、北風ニ煽ラレテ文部省中央氣象臺ニ飛火セシヲ以テ、再ビ轉ジテ其急ニ赴キ、偶々來援セル久松隊ト共ニ、内務省神社局倉庫、憲兵司令部及ビ其附屬官舍ヲ救ヒ、更ニ危殆ニ瀕セル社會局ヲシテ延燒ヲ免レシメタリ。

(三)　有樂町三丁目方面

従事隊　第一消防署三十間堀隊　小型喞筒(午後一時―午後三時)

第三消防署九段混成隊　大型喞筒(午後三時―午後十時)

三十間堀隊ハ警視廳ノ火災ヲ望見シテ之ヲ救ハントシ、其來援ノ途上尾張町一丁目芝浦モートル販賣所及ビ農商務省地質調査所ノ火災ヲ消止メ、更ニ山下町停留所附近ニ於テ河水ヲ利用シ、折柄數寄屋橋方面ニ展開セル猛火ニ對シテ消防ニ從ヒ、遂ニ有樂町三丁目ニ來リテ高架線下ノ紙倉庫、木炭倉庫、其他ヲ防禦セリ。

是ヨリ先、九段隊所屬ノ喞筒ハ修理ノ爲深川工場ニ在リシガ、此日火災ノ連發スルヤ、直ニ應急ノ修理ヲ施シ、消防手以下結束シテ萬難ヲ排シ、危險ヲ冒シ、消防部ニ來援セシカバ、卽チ之ヲシテ三井集會所、愛國生命保險會社ノ消防ニ從事セシメ、遂ニ保險會社ノミヲ救フ事ヲ得テ、再ビ轉ジテ帝國ホテル、華族會館等ニ延燒セントスル火道ニ衝リ、亦能ク其功ヲ奏シタリ。

(四)　内幸町及山下町方面

従事隊　第二消防本署隊　大型喞筒(午後九時半―二日午後十時半)

消防部隊　小型喞筒(午後七時四十八分―二日午前四時半)

東京電燈會社ヨリ發火シテ數寄屋橋方面ニ向ヘル火勢ハ、一日ノ夕ニ及ビ、風勢逆流シテ帝國ホテル、華族會館ヲ襲ハントスルニ方リ、帝國劇場附近ノ防禦稍々其功ヲ奏シテ鎭滅ニ傾キシヲ以テ、消防部隊(小型喞筒)ヲ勸業銀行前ニ派遣シ、今ヤ將ニ同行食堂ニ延燒セントスル猛火ト戰ヒ、有樂町方面ニ於ケル九段隊ノ協力ニ依リ、辛ウジテ同行及ビ華族會館、仁壽生命保險會社附近一廓ノ安全ヲ保ツ事ヲ得タリ。是ヨリ先、一日午後九時半頃東京毎日新聞社、勸業銀行等ヲ襲ヘル火勢ハ漸ク擴大シテ南進ノ形勢アリ、是ニ於テ帝國劇場附近ヲ防禦中ナリシ第二消防本署隊ヲ派遣シ、ホテル前ノ貯水池ニ位置シ、極力消防ニ努力シタレドモ火勢猛烈ニシテ風力亦强ク、到底一臺ノ喞筒ノ匹敵ス可クモアラズシテ、胃腸病院ハ忽チ火災ノ裡ニ葬ラレ、餘勢遂ニ芝方面ニ南下セリ、時ニ午後十一時、

(五)　永田町方面

従事隊　消防部隊　大型喞筒(午後六時―午後十時)

帝國劇場附近ノ火勢漸ク衰フルニ際シ、赤坂田町方面ノ火勢ハ永田町ヲ侵シ、鍋島邸、中華民國公使館ヲ燒キテ有栖川宮邸並ニ總理大臣官邸ニ及バントスルノ急報ニ接スルヤ、消防部隊(大型喞筒)ハ警視廳方面ノ防禦亦後顧ノ憂ナキニ察シ、直ニ葵橋附近ニ出動スルト共ニ、橋下ノ下水ヲ利用シ、延燒中ノ鍋島邸ノ火ニ當リテ、其一部ヲ救ヘルノミナラズ、有栖川宮邸・島津邸並ニ霞關離宮ニ對スル防禦ヲ全クシ、葵橋通東側ヘノ延燒ヲ遮斷シ、幸ニシテ議院附近及ビ各省大臣官邸等ノ安全ナルヲ得タリ。

(六)中六番町方面(富士見町一丁目・三番町・上二番町・麹町一・二・三丁目・元園町・葵町・平河町・隼町)

従事隊　第三消防署青山隊　中型喞筒(午後零時十分―三日午前一時)

矢來隊　大型喞筒(午後三時―三日午前一時)

新宿隊　大型喞筒(午後六時三十分―三日午前三時)

九段隊　小型喞筒(午後六時三十分―三日午前三時)

消防部隊　大型喞筒(二日午前三時―午前九時)

震災ト同時ニ中六番町ナル明治藥學校ヨリ發シタル火災ハ忽チニシテ猛火トナリ。就中北進主流ノ勢當ル可カラズ、青山隊ハ早クヨリ來リテ三番町帶坂上ニ在リテ消防ニ從事中、俄然水道ノ斷水ニ遭ヒ、位置ヲ市ケ谷見附ニ轉ジ、濠水ニ據リテ午後二時延燒ヲ中斷スルヲ得シモ、附近ノ飛火ノ爲ニ再ビ火勢ヲ加フルニ及ビ三タビ部署ヲ變ジテ防止ノ任ニ當レリ、カヽル折シモ矢來隊ノ來援アリ、卽チ協力シテ繼送放水ニ努メ、四番町方面ヘノ延燒ヲ防ギシガ、午後五時ニ至リ風向西北ニ變ジ、富士見町方面ノ危急目前ニ迫リシガ、時恰モ新宿隊・九段隊ノ來援ヲ見タレバ四隊ノ勢力ヲ集中シ、專ラ靖國神社境内ノ池水ヲ利用シテ防禦ニ鋭意セル結果、三番町ノ一廓及ビ富士見町一丁目・富士見軒以東ノ類燒ヲ免レシメタリ。

是ヨリ先、三番町ニ於テ猛威ヲ揮ヘル火勢ハ、午後八時風向再ビ北變スルヤ、破竹ノ勢ヲ以テ南進シ、翌二日午前一時既ニ麹町一丁目電車通マデ延燒セリ。然レドモ適當ナル水利ヲ得ルナクシテ部署ノ變更極メテ困難ナリシモ、青山・九段・矢來ノ

三隊ハ五番町ノ濠水ニ據リテ賀陽宮邸・宮内大臣官邸附近一廓ノ安全ヲ保ツ事ヲ得タルニモカヽハラズ、南進火勢ヲ防止スベキ水利遂ニ求ムル能ハズ、而シテ半藏門附近ノ濠堤上ヨリ水面迄ノ離距甚ダ遠クシテ吸水力ヲ缺クノ有樣ナレバ、遠クノ櫻田門又ハ辨慶橋附近ニ水利ヲ需メ、喞筒ヲ中繼シテ辛ウジテ一本ノ放水ヲ爲シ得タルノミ、是ニ於テ火勢ノ擴大ハ殆ンド其底止スル所ヲ知ラズ、上二番町・下二番町・元園町一・二丁目・麹町一・二・三・四丁目・五番町・山元町・一・二丁目・平河町ニ及ブ迄一帶ノ燒原ヲ出現シ、矢來隊ノ如キハ激烈ナル活動ノ結果、機械ニ故障ヲ生ジテ使用ニ堪ヘザルニ至ル、卽チ新宿隊ヲ清水谷公園ニ移シ、折シモ飯田町方面ヨリ來レル本署隊ト協力シ、紀尾井町ヨリ平河町四・五丁目ニ出デヽ、防禦ニ努メ、且ハ破壞隊ヲ組織シテ麹町六丁目銀行横町ノ一廓ヲ破壞シ、以テ其一方ヲ防止スルヲ得タリ。

此時ニ方リテ平河町ノ火勢未ダ衰ヘザルニ亘レル吸水ノ爲ニ涸渴スルニ至リタレバ、本署隊・新宿隊共ニ位置ヲ辨慶橋ニ移シテ必死ノ活動ヲ試ミ、而シテ消防部隊ノ大型喞筒モ亦之ト相前後シテ半藏門附近ニ來リテ青山隊・九段隊ヲ助ケ、先ヅ衞戍病院ヲ救ヒ、更ニ松方邸ヲ半燒ニ消止ムルト共ニ、本署隊・新宿隊ニ在リテモ亦能ク平河町五丁目ノ一廓ヲ防止シ、紀尾井町ヘノ延燒ヲ免レシメタリ。

（七）麹町五丁目方面

從事隊　消防部隊　大型喞筒（二日午後六時―三日午前三時）

第一消防本署隊　大型喞筒（二日午後六時―三日午前三時前）

同　築地隊　小型喞筒（同　上）

同　三十間堀隊　小型喞筒（同　上）

第二消防署三田隊　小型喞筒（同　上）

二日午後三時平河町方面ノ延燒中麹町五丁目ヨリ發火シ、火勢頓ニ熾ンナルヲ見タル消防部隊ハ、築地隊・三田隊ト連合シ、更ニ第一消防本署隊ト三十間堀トノ聯合消防隊ト協力シ、上二番町方面ヨリ消防ニ努メ、翌三日午前三時ニ至リテ全ク之ヲ鎭滅セシメタリ。

（八）飯田町方面

從事隊　第三消防署矢來隊　小型喞筒（一日午後三時―同六時）

同　　九段隊　大型喞筒(一日午後零時——同六時)

富士見町日本歯科醫學專門學校ヨリ發シタル火災ノ東北ニ向ヒテ延燒セントスルヤ、九段隊ハ卽時出動シテ富士見小學校前ノ消火栓ニ據リテ消防ニ從事シ、以テ一時其火勢ヲ殺キ、小學校ヲシテ危難ヲ免レシメタルモ、幾モナクシテ水道ノ斷水ヲ告グルニ及ビ、更ニ牛込見附ニ位置ヲ轉セシガ、偶〻來援セル矢來隊ト共ニ濠水ヲ利用シテ之ニ當リ、以テ遞信博物館並ニ其附近ヲ救ヘリ。然ルニ小石川區新諏訪町方面ノ火災次第ニ擴大シ、而モ消防部署ニ缺ケリトノ報ニ接シ、九段隊ハ去リテ同方面ニ向ヒシガ、富士見町方面ノ火勢ハ一大主流ヲ成シテ飯田町ニ突進セルヲ以テ、將ニ防禦ノ部署ヲ定メントスルノ際、三番町方面ノ火勢猛烈ニシテ殆ンド其底止スル所ヲ知ラズトノ急報アリ、此所ニ進退窮スルニ至リシガ、孤立無援ノ一隊ヲ以テシテ消防ノ實績ヲ收ムルコトノ不可能ナルヲ思ヒ、寧ロ分散配備ヲ避ケテ勢力集中ノ策ヲ採ラントシ、卽チ部署ヲ變更シテ三番町方面ニ移轉シ、以テ其活動ヲ試ミシ事ハ叙上ノ如シ。カクテ飯田町方面ハ全ク消防ノ部署ヲ有セズ、猛火ノ暴威ニ委ネシコト洵ニ遺憾トスル所ナリ。

其二、　神田區

従事隊ナシ

震災ト殆ンド同時ニ神田區内ニ於テハ一ッ橋女子職業學校寄宿舍・一ッ橋通リ町・錦町・表神保町・三崎町・猿樂町等ノ各地相前後シテ火災ヲ發シ、漸次擴大シタレドモ、此方面ノ消防ニ從事スベキ消防署中、九段隊ハ富士見町方面ニ、萬世橋隊ハ日本橋本町方面ニ出動シテ既ニ猛火ト鬪ヒ、而シテ隣接消防署ノ諸隊モ亦各方面ノ防禦ニ任ジタレバ、來リテ防火ノ衝ニ當リ得ルモノ一隊モナク、遂ニ和泉町及ビ佐久間町ヲ除クノ外、區内ノ全部ヲ擧ゲテ焦土ト化シ、更ニ本郷區ノ半部ヘモ延燒スルニ至リシハ、惟レ消防機關ノ不備ニ原因セリトハ云ヘ誠ニ痛恨ノ情ニ堪ヘザルナリ

其三、　日本橋區

(一)　箱崎町方面

従事隊　第一消防署本署隊　大型喞筒(一日午後五時半——午後七時半)

同　　月島隊　大型喞筒(一日午後零時半——午後十一時)

同　久松隊　小型喞筒(一日午後五時半――午後九時)

月島隊ハ月島ニ於テ二箇所ノ火災ヲ消止メタル後警視廳方面ニ來援ノ途上、再ビ永代橋附近ニ於テ靈岸島鹽町ノ火災ヲ消止メ、更ニ南新堀町ノ北進火道ニ對シテ防禦ノ策ヲ講ゼントシ、午後三時半湊橋附近ニ位置ヲ變更シタル際ニハ、火勢既ニ猛烈ヲ極メ、南北新堀町及ビ箱崎町等ハ一面ノ火海ト化スヤ、同隊ハ火煙ノ包圍スル所トナリテ活動力ヲ失シ、靈岸島一ッ橋ニ移リタレドモ、同所モ亦東京灣ヨリ吹キ上ル强風ノ爲、消防意ノ如クナラズ、忽チ箱崎町ヲ燒拂ヒテ土洲橋ヲ越エ、螺殻町一丁目ニ延燒セリ。卽チ富島町又ハ靈岸濱町ニ轉ジテ防禦ニ努力スルコト午後六時ニ及べリ。

是ヨリ先、久松隊ハ日本橋本町方面ノ火災ニ當リシガ力及バザルヲ以テ已ムナク土洲橋附近ニ移リテ箱崎町ヨリ北進スル火勢ヲ防ギ、杉村倉庫ノ延燒ヲ沮止シタリト雖モ、此時既ニ前後皆猛火ニ包マレ、進退ノ自由ヲ失ヘルガ故ニ、再ビ去リテ濱町二丁目ニ出テ同方面ノ防禦ニ任ジタリ。然ルニ幾モナクシテ濱町及ビ本町方面ノ兩火道ハ芳町方面ニ於テ相合シ、破竹ノ勢ヲ以テ擴大スルヤ、孤軍奮鬪ノ餘地ナキヲ曉リ、勢力ノ集注ニ依リテ功ヲ奏センガ爲ニ九ノ內方面ニ退却セルハ午後十時ナリキ。

月島隊ノ箱崎町方面ニ於テ、久松隊ノ本町方面ニ於テ活動セル際、本署隊ハ富島町ニ來リテ應援シ、南新堀町方面ノ火災ヲ防禦セント試ミタレドモ寸功ナク、加フルニ本町方面ノ火勢既ニ日本橋川ヲ過ギテ茅場町ヲ侵シ、同隊ノ退路ヲ遮斷セントスルヤ、位置ヲ芽場町十九番地前ニ轉ジテ之ニ當リシモ、亦効果ヲ得ズ、日本橋郵便局ノ如キモ猛火ノ洗禮ヲ受ケ、箱崎町方面ノ火勢既ニ目睫ノ間ニ迫リテ時々刻々形勢ノ非ナル事此ノ如シ。是ニ於テ更ニ後圖ヲ爲サントシ、午後七時半、走リテ消防部ニ投ズルノ已ムナキニ至レリ。

曩ニ靈岸島濱町ニ留リテ努力セル月島隊ノ位置ハ、午後六時以降猛火ノ風下トナリテ防禦ニ便ナラザルヲ察シ、三度陣ヲ移シテ龜島橋附近ニ據リ、長崎町方面ヨリ南下スル火勢ヲ防止セント企テシガ、岡崎町方面ノ火勢其背後ニ迫ルニ及ビテ萬事休シ、遂ニ守ヲ棄テヽ、京橋區築地明石町ニ赴キシニ、聖路加病院ノ敷地內ニ避難セル千數百名ノ民衆ガ八官町方面ノ火勢ニ壓セラレテ危急ニ迫レルヲ見ルヤ、

直ニ放水シテ掩護救助ノ任ニ當レリ。

（二）本石町方面

従事隊　第一消防署萬世橋隊　大型喞筒（午後零時―午後八時）

同　　久松隊　小型喞筒（午後零時―午後五時）

萬世橋隊ハ早クヨリ本町三丁目ニ出動シ、震災ト同時ニ發シタル同町藥種商及ビ本石町三丁目藥種商ノ二箇所ノ火災ニ當リ、專ラ今川橋方面ニ北進セントスル火勢沮止ニ鋭意セシガ、火勢猛烈ヲ極メ、忽チ四方ニ延燒シテ、必死ノ防禦モ遂ニ効ヲ奏セザリシカバ、已ムナクシテ龍閑橋畔ニ退キ、大手町ヨリ本石町・本銀町ヲ經テ漸次擴大ノ狀態ニアル火勢ヲ此處ニ遮斷スルノ策ヲ樹テシニ、是亦寸効ナク火勢ハ本町方面ノ夫レト相合シテ神田區ニ向ハントス、是ニ於テ更ニ新常盤橋ニ移リテ最後ノ奮鬪ヲ試ミシガ火面ハ益〻擴大シテ今川橋・龍閑橋共ニ猛火ノ突破スル所トナリ、加フルニ喞筒ハ過熱ノ爲ニ運轉不可能トナレルヲ以テ、之ヲ河中ニ漬ケテ燒失ヲ防ガントスルモ堆積ノ砂礫及ビ搬出ノ貨物ニ遮ラレテ思フニ任セズ、而モ猛火ハ四邊ニ迫リ、生命既ニ危急ニ陷レルガ故ニ、遂ニ萬斛ノ憾ヲ呑ミテ喞筒ヲ放棄シ、隊員ハ纔ニ身ヲ以テ免カルヽヲ得タリ。久松隊ハ本町四丁目ニ在リテ主トシテ東南ヨリ迫レル火勢ノ防禦ニ任ジタリシガ、延燒急激ニシテ鐵砲町、大傳馬町ノ如キハ早クモ其襲來ヲ受ケ、一面ノ火海ト變ジタル而已ナラズ、午後五時ニ至リ風向ノ變化ト共ニ火勢モ亦螺殻町方面ニ向ヒテ形勢漸ク險惡ナリ。卽チ現場ニ留マル事ノ不可ナルヲ察シ、退イテ箱崎町方面ニ轉ジ、本署及ビ月島隊ニ力ヲ添ヘタル一斑ハ叙上ノ如シ。斯クテ區内中樞ノ一帶ヲ擧ゲテ烏有ニ歸セシメタリ。

其四、京橋區

（一）八官町方面

従事隊　第一消防署三十間堀隊　小型喞筒（午後二時―午後六時卅分）

是ヨリ先、三十間堀隊ハ尾張町一丁目芝浦モートル販賣所及ビ、農商務省ノ火災ヲ消止メ、更ニ山下町ニ出動中ナリシガ、午後二時八官町方面ノ火勢猛烈ナルヲ知ルヤ、直ニ加賀町ニ轉シ、南鍋町・數寄屋町方面ニ東北進セル火勢ニ當リシカドモ、其効ナク、更ニ宗十郎町ニ移リ、銀座通東側ニ侵入セル火道ヲ防禦セントス。然ルニ一臺ノ小型喞筒ノ消防力ハ强風ニ煽ラレテ擴大スル火勢ニ適スベクモアラズ、或

ハ南鍋町ニ或ハ竹川町ニ屢〻位置ヲ換ヘテ鋭意努力セル甲斐モナク、到ル所猛火ノ爲ニ突破セラレ、遂ニ守ヲ捨テ、退却スルノ已ムヲ得ザルニ至ル、斯クテ京橋區ノ全面モ亦焦土ト化セリ。

其五、芝區

（一）芝口方面（金杉四丁目ニ至ル）

從事隊	第二消防署本署隊	大型喞筒（一日午後一時―二日午前九時）
同	盛岡隊	東京報知機械社ヨリ（一日午後八時―二日午前九時半）
同	二本榎隊	借入ノ手輓瓦斯倫（一日午前八時半）
同	三田隊	大型喞筒（一日午後七時―二日午前八時半）
第一消防署三十間堀隊		小型喞筒（二日午前六時―二日午前八時半）
有樂町及ビ京橋八官町方面ノ二大火道ハ午後七時半ニ至リ、風位ノ變化ト共ニ、俄ニ南下ノ形勢ヲ示シ、芝口ヲ突破シテ將ニ芝區ニ侵入セントスルヤ、第二消防署長ハ之ヲ沮止センガ爲ニ部署ヲ定メ、先ヅ高輪御殿ノ火災ヲ鎭滅シテ、來着セル二本榎隊ヲ土橋ニ配置シ、專ラ新幸町、芝口一丁目方面ノ防禦ニ當ラシメ、尋テ盛岡隊ヲシテ、東京報知機械社ヨリ手挽瓦斯倫喞筒ヲ借入レ、芝口蓬萊橋ヨリ芝口一丁目ヲ經テ南進スル火勢ニ備ヘシメ、必死ノ活動ヲ試ミタレドモ、風力益加ハリ、火勢猛烈ニシテ消防ノ術ナク、二本榎隊ハ新錢座裏下水ニ位置ヲ變ジ、柴井町・汐留二丁目ノ延燒ヲ防禦スルニ苦心セシガ、盛岡隊ノ如キハ手挽瓦斯倫喞筒ノ効力ナキヲ知リ、危險ヲ冒シテ之ヲ安全地帶ニ移スト共ニ、隊員等ハ二本榎隊ト合シテ奮鬪スルノ餘儀ナキニ至レリ。時ニ午後十一時半ニシテ、芝口一・二・三丁目ヨリ烏森附近ハタダ見ル一面ノ火海トナリ、加フルニ赤坂田町ヨリノ火道亦、南進シテ芝田村町方面ニ迫ル、是ニ於テ、第二消防署隊ハ急遽來援シテ、田村町芝區役所ヲ救ハントシタレドモ力及バズ、遂ニ守ヲ捨テ、芝園橋方面ニ退キ、新堀川ヲ防禦線トシテ南進ノ火道ニ當リ、漸ク之ヲ芝公園十四・十五號地ニ於テ沮止スルヲ得タリ。是ヨリ先、二本榎隊ハ、新錢座裏下水ニアリテ努力シタルモ、宇田川町方面ノ猛火ニ包マルルニ及ビ、二日午前四時半ヲ以テ位置ヲ金杉附近ニ移セシガ亦効ヲ奏スコト能ハズシテ、火勢次第ニ擴大シ、金杉新濱町・芝浦製作所ニ飛火スルヤ、忽チ四方ニ延燒シテ芝浦埋立地日ノ出町ニ及ベリ。

三田・三十間堀兩隊ノ來援セルハ二日午前四時ナリシガ、直ニ將監橋附近ニ留リ、南進ノ火道ニ對シテ門前町ヲ防禦シ、本署隊及ビ二本榎隊モ亦共ニ力ヲ戮セ、喞筒繼送ニ依リテ奮鬪セリ。斯クシテ効果漸ク現ハレ、幸ニシテ三田四國町ヘノ延燒ヲ沮止シ、新堀町・西應寺町・金杉四丁目ノ一部ヲ危地ヨリ救ヒ、午前九時三十分全ク鎭滅スルニ至レリ。

(二)　高輪御殿方面

從事隊　第二消防署・二本榎隊　大型喞筒(一日午前零時——午後六時半)
同　盛岡隊　大型喞筒(一日午後一時半——午後五時半)
同　三田隊　小型喞筒(一日午後零時——午後四時半)

震災ト同時ニ高輪御殿ニ發火スルヤ、二本榎・三田・盛岡ノ三隊ハ相前後シテ來着シ、御殿ノ周圍ニアル消火栓ニ據リテ消防ニ努メシモ効果ナク、御殿ハ遂ニ炎上シテ附近ノ民家ニ延燒セシガ、大事ニ至ラザル以前之ヲ鎭滅セリ。是ニ於テ三田隊盛岡隊ハ赤坂田町方面ニ向ヒ、二本榎隊ハ芝口方面ノ應援ニ從ヘリ

(三)　赤坂溜池方面

從事隊　第三消防署本署隊　大型喞筒(一日午後一時五十分——午後九時)
同　新町隊　大型喞筒(一日午後零時——午後十一時半)
第二消防署盛岡隊　大型喞筒(一日午後七時——午後十一時)
同　三田隊　大型喞筒(一日午後七時——二日午前四時)
消防部隊　大型喞筒(一日午後十時——二日午前三時)

震災ト同時ニ赤坂田町方面ニ發火スルヤ、第三消防署本署隊ト新町隊トハ直ニ出動シ、本署隊ハ田町一丁目ニ、新町隊ハ仲ノ町ニ在リテ、共ニ下水ヲ利用シテ之ニ當リシガ、新町隊ノ消防効ヲ奏セズシテ、一ッ木通マデ延燒セルニ反シ、本署隊ハ一時火勢ヲ沮止スルヲ得タレドモ、午後八時前後風位ノ變化スルニ及ビ、忽チ殘火ヲ煽リテ永田町二丁目ヲ侵シタリ。此時本署隊ハ飯田町方面危急ノ情報ニ接シテ去リ、新町隊ノミ獨リ防禦ノ任ニ當レル折シモ、盛岡隊・三田隊ノ來援アリ、新町隊ハ之ニ力ヲ得テ他ノ二隊ト協力シ、火勢ノ擴大ヲ沮止セントシタルモ田町・新町方面ノ火勢ニ敵スルコト能ハズシテ溜池葵町附近ヲ猛火ニ委ネ、他ノ二隊モ亦葵町附近ノ防禦ニ破レ、三田隊ハ虎ノ門ニ、盛岡隊ハ東伏見宮邸内ニ退キタリ。斯クテ新

町隊ハ纔ニ田町五丁目附近ニ於テ延燒ヲ遮斷スルヲ得タルニモ拘ハラズ、三田隊・盛岡隊ハ非常ナル苦境ニ陷リシガ、恰モ好シ、消防部隊ノ到着ヲ見タルヲ以テ、互ニ相策應シテ消防ニ努メ、東伏見宮邸並ニ琴平町一部ノ延燒ヲ免レシメ、更ニ議院方面ノ防禦ニ當リテ能ク其効ヲ奏シタリ。而モ芝西久保方面ヨリ東南進セル火道ニ對シテハ之ヲ如何トモスル事能ハザリキ。

其六、四谷區

（一）新宿三丁目方面

從事隊　第三消防署新宿隊　大型喞筒（一日午後零時―午後五時）

震災後幾モナクシテ新宿旭町アパートメント裏、豆腐屋ヨリ發火スルヤ、新宿隊ハ旭町淨水ヲ利用シテ消防ニ從事セシガ、風力頗ル強ク、火勢忽チ京王電車線路ヲ越エテ新宿三丁目ニ及ビ、市電ノ車庫ニ延燒セリト雖モ、隊員ノ奮鬪ト町内自衞隊トノ協力ニ依リテ、午後五時辛クモ之ヲ鎭滅シ、危急ニ迫レル遊廓一帶ヲ救ヘリ。

當時若シ遊廓ノ猛火ニ襲ハルヽガ如キ事アラムカ火勢ノ擴大殆ンド豫期ス可カラザリシナリ、四谷區ノ大部分ガ類燒ノ災厄ヲ免レ、物資ノ調節ニ多大ノ貢献ヲ爲シ得ルニ至レル所以ノモノ實ニ新宿隊ノ殊勳ト云ハザル可カラズ。

其七、牛込區

（一）市ケ谷本村町

從事隊　第三消防署本署隊　大型喞筒（一日午後零時―午後一時）

震災ト同時ニ、陸軍士官學校豫科理化學教室ヨリ發シタル火災ニ對シテ出動セル本署隊ハ、同校附近ノ消火栓ヲ利用シテ之ニ當リ、僅カニ校舍四棟ヲ燒キタルノミニシテ大事ニ至ラシメズ、遂ニ能ク加賀町藥王寺方面ヘノ延燒ヲ未然ニ沮止スルヲ得タリ。

其八、小石川區

（一）諏訪町方面

從事隊　第四消防本署隊　大型喞筒（一日午後一時―午後五時）

同　大塚隊　大型喞筒（一日午後三時―午後五時）

同　掃除町隊　大型喞筒（一日午後三時四十分―午後五時）

同　水道町隊　小型喞筒（一日午後三時十分―午後五時）

第三消防署九段隊　小型喞筒(一日午後二時―午後二時半)
新諏訪町及ビ陸軍砲兵工廠西北隅工場ヨリ、發火シ、殆ンド震災ト同時ナリシガ、第四消防署本署隊先ヅ馳セ來リ、尋テ九段隊・大塚隊・水道町隊・掃除町隊モ亦來援セリ。斯クテ本署隊ト水道町隊トハ江戸川白鳥橋ニ、九段隊ハ隆慶橋ニ、大塚隊ハ安藤坂ニ屯シテ二方面ヨリ消防ニ從事セシガ、時期ノ早カリシガ上ニ江戸川ノ水利ヲ得タルガ爲ニ新諏訪町ノ外ニハ江戸川町・諏訪町等ノ一部ヲ燒失セルノミニシテ全ク之ヲ沮止スルヲ得タリ。

(二)　音羽町櫻木町方面

從事隊　第四消防署大塚隊　大型喞筒(一日午後零時十五分―午後三時)
同　水道町隊　小型喞筒(一日午後零時―午後三時)
第三消防署矢來隊　大型喞筒(一日午後零時―午後二時)

震災ト同時ニ櫻木町ヨリ發シタル火災ハ南風ニ煽ラレテ音羽町方面ニ北進セシガ、水道町隊ト矢來隊トハ江戸川ノ水利ニ據リテ防禦セル際、大塚隊モ亦來リシカハ三隊協力シテ之ニ當リ、更ニ櫻木町ノ後火延燒ヲ防ギ火勢稍々衰フルニ及ビ、矢來隊ハ麹町方面ノ猛火ト闘ハンガ爲ニ去リ、大塚・水道町ノ兩隊殘留シテ能ク其功ヲ奏シ、午後三時ニ至リテ全ク之ヲ鎭滅セシメタル後、諏訪町方面ニ移動セル事上述ノ如シ。

其九、本郷區

(一)　向丘方面

從事隊　第四消防署本署隊　大型喞筒(一日午後零時―午後零時四十分)
同　駒込隊　大型喞筒(一日午後零時―午後三時半)
同　掃除町隊　大型喞筒(一日午後零時―午後三時半)
第五消防署谷中隊　小型喞筒(一日午後零時―午後零時半)

第四消防署、本署隊ハ震災ト同時ニ本郷春木町三丁目ノ藥種店ヨリノ發火ヲ消止メタル折シモ、更ニ帝國大學構內ニ火煙ノ揚ルヲ見ルヤ、直ニ之ニ赴キ、既ニ出動セル駒込隊谷中隊ト共ニ構內ノ池水ヲ利用シ、防禦ニ從事セリ。偶々掃除町隊ハ機械庫ノ倒潰セル爲出動不可ノ狀態ニアリシガ、隊員ノ努力ニヨリテ出動スルヲ得タルヲ以テ、稍後レテ來援シ、而シテ谷中隊ハ所屬管內ノ危急ヲ慮リテ去ル。卽

本署隊・駒込隊・掃除町隊ノ共同作業ニ依リテ消防ノ事ニ從ヒ、理學部工學部ノ諸建築物ニ延燒スルヲ遮斷スルト共ニ、危急ニ迫レル大學病院ヲモ救ヒ、以テ能ク多數患者ノ生命ヲ全クスルヲ得タルハ本廳ノ幸慶トスル所ナリ。

(二)　御茶水方面(本郷南部外神田)

從事隊　第四消防署本署隊　大型喞筒(一日午後五時半―二日午前六時)

同　大塚隊　大型喞筒(一日午後五時半―二日午前六時)

同　掃除町隊　大型喞筒(一日午後五時半―二日午前六時)

同　水道町隊　小型喞筒(一日午後五時半―二日午前六時)

西神田方面ノ大火道ハ駿河臺ヲ燒拂ヒタル後、午後二時半神田川ヲ越エテ順天堂病院ニ飛火シ、次テ元町ニモ飛火シテ遂ニ本郷區内ニ侵入セリ。此時ニ方リ、第四消防署ノ各隊ハ向丘ヲ始メ小石川諏訪町、櫻木町ノ各方面ニ散布シテ消防中ナリシヲ以テ急ニ應ズル能ハズ、勢漸ク旺ンナラントスルヤ、第四消防署長ハ分散消防ノ不利益ナルニ察シ、各隊ニ對シテ諏訪町鎭火ノ後本署ニ集合シテ、後命ヲ待ツベキ旨ヲ命シ置キ、自ラ消防部ニ赴キテ協議ヲ重ネ、本郷切通ニ防禦線ヲ定メテ猛火ヲ遮斷セントスルノ策ヲ樹ツ。斯クテ其日ノ夕、諸隊皆諏訪町方面ノ任務ヲ畢ヘテ來リ會セシカバ、不忍池ヲ利用センガ爲ニ大塚隊ト水道町隊トヲ同池畔ニ置キ、喞筒ノ中繼送水ヲ行ハシムルト共ニ、本署隊ヲ切通坂上ニ、掃除町隊ヲ第四消防署前ニ配置セリ、カヽル折シモ順天堂病院及ビ元町ノ火勢ハ次第ニ擴大シテ東北ニ進ミ、其主流ハ春木町ヲ襲ヒ、分流ハ同朋町及ビ外神田方面ニ向ヒシガ、諸隊ノ努力ハ遂ニ、能ク切通坂以北ヘノ延燒ヲ沮止スルヲ得タリ。偶々風勢西ニ變ジ、火勢モ亦湯島臺ヨリ東漸シテ外神田低地ヨリ東北進セル火道ト相合シ、天神町・西黒門町ノ如キハ既ニ危急ノ裡ニ在リ、幾モナク午後八時風勢北ニ變ジタレドモ、猛烈ナル火勢ニ對シテ容易ニ防禦ノ功ヲ奏シ難キノ苦境ニ陷レルヲ以テ、本署隊及ビ掃除町隊ヲシテ切通坂下ヨリ御成街道ニ至ルノ間ヲ固守セシメ、奮闘約十時間ノ後、同所以北ヘノ延燒ヲ沮止スルヲ得タリ。

其十、淺草區及下谷區

(一)　藏前方面

從事隊　第五消防署本署隊　大型喞筒(一日午後零時―午後十二時)

同　淺草橋隊　大型喞筒(一日午後零時―午後十二時)

同　向柳原隊　小型喞筒(一日午後零時―午後十二時)

震災ニ因リ藏前ナル高等工業學校藥品室ヨリ火災ノ起ルヤ、本署隊ト淺草橋隊トハ校前ノ河水ヲ利用シテ消防ニ努メタレドモ、校舍倒潰セルガ爲ニ注水ノ効果薄弱ニシテ火勢ハ南風ニ煽ラレテ遂ニ須賀町ニ延燒セリ。兩隊卽チ福富町ニ轉シ、新川ニ據リテ防禦セシガ、小旋風各所ニ起リテ益々火勢ヲ强烈ニシ、專賣局ノ如キハ忽チニシテ類燒シ、南北元町亦災ニ罹ル。是ニ於テ本署隊ハ南元町ニ淺草橋隊ハ老松町ニ退キ、三筋町方面ヘ北進スル火道ヲ沮止セントシテ敗レ、數次新川ノ沿岸ニ移動スルノ已ムヲ得ザルニ至リタレドモ、午後六時風勢ノ變化ニ依リ、辛ウジテ中部下谷ニ突進スル火道ヲ遮斷セリ。時ニ午後十二時ナリキ。

是ヨリ先向柳原隊ハ、震災ト同時ニ起レル神田和泉町三ツ輪石鹼研究所ノ火災ニ赴キ、時餘ニシテ之ヲ消止メタル後、更ニ藏前方面ニ來援セリ。時恰カモ須賀町一帶延燒ノ際ナリシカバ、直ニ部署ニ就キテ防禦セル折シモ、猿屋町ノ形勢危急ニ迫レルヲ見テ、猿屋橋福井町間ヲ防禦線ト定メ、火勢ノ北進ヲ防止セントセルモ力及バズ、忽チ一大火道ヲ成シテ鳥越方面ニ向フ。既ニシテ午後八時風勢又變ジ、向柳原ニ延燒スルニ及ビ、再ビ位置ヲ換ヘテ之ガ防禦ニ從事セリト雖、遂ニ功ヲ奏シ難カリキ。

(二)　千束町方面

從事隊　第五消防署　淺草公園隊手輓瓦斯倫喞筒(一日午後零時―二日午前四時)

淺草公園ノ凌雲閣附近ニ發シタル火勢ハ南風ニ煽ラレテ吉原及ビ新谷町方面ニ延燒セントスルヤ、公園隊ハ池水ヲ利用シテ防禦ニ努メシガ其效ナク、午後三時半ニ至リテハ花屋敷裏ヨリ五區ニ亙リテ既ニ猛火ノ襲フ所トナリ、形勢益々險惡ヲ加フ、卽チ位置ヲ粟島池ニ轉ジ、觀音堂北側ヘノ延燒ヲ遮斷シ、辛ウジテ公園內ノ社祠ト其附屬建築物ノ一部ヲ救助セリ。會〻凌雲閣附近ニ於ケル火勢ノ六區ニ迫ラントスルヲ見テ、再ビ瓢箪池ニ轉ジ、辛クモ之ヲ防止シ得シガ、光月町方面ニアリシ火勢ノ吉原日暮里方面ノ火勢ト合シテ芝崎町ヲ侵スニ及ビ、翌二日ノ午前一時頃ニハ六區ノ觀物場ヲ擧ゲテ烏有ニ歸セシムルノ慘劇ヲ生ジタリ。是ニ於テ三タビ傳法院內ノ池畔ニ移リ、折シモ馬道方面ヨリ南進セル火道ノ爲ニ危急ニ陷

レル同院ノ消防ニ衝リ、其結果纔ニ同院及ビ觀音堂並ニ三社祠・花勝料理店ノ一廓ヲ保持スルヲ得タルハ天祐ト謂ツベシ。

(ハ)　吉原光月町龍泉寺方面

従事隊　第五消防署本署隊　大型喞筒(二日午前二時―三日午前七時)

同　淺草橋隊　大型喞筒(一日午後零時―午後三時半)

同　日本堤隊　大型喞筒(同　上)

同　谷中隊　小型喞筒(一日午後零時―午後三時半)

同　金杉下町隊　小型喞筒(一日午後一時半―二日午前三時)

第四消防署本署隊　大型喞筒(一日午後零時―二日午前五時)

同　大塚隊　大型喞筒(二日午前八時半―三日午前九時)

同　掃除町隊　大型喞筒(同　上)

同　水道橋隊　小型喞筒(同　上)

震災ト同時ニ吉原廓内ニ火ヲ發スルヤ、日本堤隊ハ直チニ馳セ來リテ之ニ當リタレドモ、火勢熾ンニシテ其功ヲ奏セズ、次第ニ今戸方面ニ退却シ、日本堤警察署方面ニ於ケル延燒ノ沮止ニ努力セリ。然レドモ火勢ハ容易ニ衰ヘズ、遂ニ田中町方面ノ火道ト合シテ東北進スルニ及ビ、淺草町電車通ニ位置ヲ轉ジテ消防ノ事ニ從ヒシガ、幾モナク淺草町山谷方面一帶ノ猛火ニ包マルニ及ビテ全ク進退ノ自由ヲ喪ヒ喞筒ヲ燒失スルノ不幸ニ遭遇セリ。

是ヨリ先金杉隊ハ、千束町・光月町方面ノ火勢ト鬪ヒシガ、幾モナクシテ吉原日暮里兩方面ヨリ襲來セル火勢ノ急迫スル所トナリテ守備ヲ完クスル事能ハズ位置ヲ三輪町ノ郡境ニ移シ、專ラ音無川ヲ利用シテ、日暮里方面ヨリ火勢ノ侵入ヲ防ギ、遂ニ其目的ヲ達スルヲ得タリ。

谷中隊ハ始メ帝國大學ノ消防ニ從事シタルモ、管内ノ急ヲ聞キ、日暮里方面ヨリ南進セル火道ニ當ランガ爲ニ、金杉下町ニ轉セシガ、水利無キヲ以テ更ニ金龍小學校附近ニ移リ、千束町方面ヘ火勢ノ南下ヲ沮止セル後、更ニ進ンデ光月町ニ至リ、向田橋ニ於テ防禦スル所アリシガ、午後八時ニ至リ、風勢南ニ轉ジ、火ハ之ニ煽ラレテ益々強ク、十二時前後ニ及ビテハ獨力之ニ當ル事ノ到底不可能ナルヲ知リ、新坂本町ニ出デ、此方面ノ防禦ニ當リシト雖モ、亦其效ナク、翌二日午前三時遂ニ上野池

ノ端ニ退却セリ。

第五消防署本署隊ト淺草橋隊トハ、曩ニ藏前方面ニ在リテ、消防稍效ヲ奏スルニ及ビ、二日午前二時合羽橋附近ニ來リ、共ニ下水ヲ利用シテ防禦ニ努メ、下水ノ涸渴スルニ至ルヤ、直ニ又破壞消防ニ從事シ、以テ午前十時ニ及べリ。

第四消防署ノ諸隊ハ湯島切通坂附近ニ在リテ猛火ヲ鎭壓セル際、小島町樂山堂病院一帶ノ危急ニ迫レリトノ情報ニ接スルヤ、相前後シテ其部署ニ就キ、同町大下水ヲ利用シ、且樂山堂東側道路ヲ防禦線ト定メシモ、水量不足ナルヲ見テ、更ニ不忍池ノ水門ヲ破壞シ、流下水量ノ增加ヲ計リテ消防ニ努力セル甲斐モナク、遂ニ防禦線ヲ破ラレテ退却ノ已ムヲ得ザルニ至ル。會〻上野車坂方面ノ火道ハ、廣小路ニ迫リテ松坂屋ヲ侵サントス、卽チ不忍池ニ據リテ上野山下ノ防禦ニ從ヒ、第五消防署、本署隊、淺草橋隊モ亦來リテ力ヲ協セ、一時確實ニ其延燒ヲ沮止スルヲ得タリシガ、翌三日午前三時、廣小路三河屋ヨリ道路ノ西側ニ飛火シ、本鄕天神町方面ニ延燒セントスル形勢ヲ呈セシガ、兩署ノ諸策相應シテ以テ、辛クモ之ヲ鎭壓スル得タリ。時ニ午前九時ニシテ實ニ大火災ノ終焉ト爲ス。

其十一　深川區

（一）森下町方面

從事隊第六消防本署隊　大型喞筒（一日午後零時―二日午後五時）

震災ト同時ニ、安來町水道橋裏ノ倒潰家屋ヨリ火ヲ發スルヤ、本署隊ハ直ニ出動シテ防禦セル折シモ、西森下町方面ノ火災盛ンナルヲ知リ、消防ノ任ヲ在鄕軍人團ニ托シテ同地ニ向ヒ、彌勒寺橋附近ニ於テ河水ヲ利用シ、火勢ノ北進ヲ沮止セシモ力遂ニ及バズ、更ニ伊豫橋附近ニ移リ、更ニ轉ジテ森下町交叉點ニ位置ヲ定ムル等其苦心容易ナラザル際、東大工町方面ノ火道ハ第六消防本署ヲ襲ヒ、旋風亦加ハリテ延燒益速ナリ。是時ニ方リ、消火栓ハ全ク其用ヲ爲サズ、水利ノ賴ル可キモノナキヲ以テ、爾來專ラ避難者ノ救護ニ從ヒ、翌二日ノ午前五時ニ及べリ。

（二）東大工町方面

從事隊第六消防署黑江隊　大型喞筒（一日午後零時―午後六時）

黑江隊ハ大富橋附近ニ於テ小名木川ヲ利用シ、東大工町方面ノ火勢ニ衝リシガ、風力殊ニ強クシテ、忽チ東京紡績會社ヲ侵シ、更ニ川ヲ越エテ、富川町ニ延燒セシヲ

以テ、隊員ノ一部ヲ分チテ富川町ノ消防ニ任ゼシガ遂ニ其效ナク、前後左右悉ク猛火ノ包圍スル所トナリ、危急漸ク迫ルニ及ビ、辛ウジテ大島町新開橋附近ニ移リ、火道ノ郡部ニ侵入セントスルヲ防ギ、纔カニ其目的ヲ達スルヲ得タリ。

(三)　洲崎町方面

従事隊第六消防署洲崎隊　小型喞筒(午後零時―午後十二時)

洲崎隊ハ、始メ、西平井町ノ出火ヲ認メテ出動ノ途上、路傍ノ倒潰家屋中ヨリ救助ヲ求ムルモノアルヲ聞キ、隊員ヲ留メテ之ヲ保護セシメ、而シテ本隊ハ火點ニ向ヒ、大門際ニ於テ防禦ニ從事セシガ、洲崎遊廓ノ火勢亦頓ニ熾ナルヲ以テ、位置ヲ洲崎警察署附近ニ移シ、兩方面ノ火道ニ衝リテ防禦ニ努メシガ、遊廓ノ火ハ一時ニ擴大シテ對岸ナル西平井町ニ延燒シ、中門前町ヨリ發シタル新火道ハ入船町・平久町ニ及ビ、遂ニ警察署ヲモ烏有ニ歸セリ。此所ニ到底猛火ニ敵シ難キヲ知リ、卽チ機械ヲ埋立地ノ安全地帶ニ移シ、隊員ハ警察署附近ニ留マリテ專ラ人命ノ救助ト避難民ノ指導トニ從ヘリ。

其十二　本所區

(一)　柳原町方面

従事隊第六消防署花町隊　大型喞筒(一日午後零時―二日午後五時)

花町隊ハ柳原町二丁目ニ於テ河川ヲ利用シ、北進シ來レル火道ノ防遏ニ努メシモ、風力强クシテ意ノ如クナラズ、加之菊川町方面ノ火道ハ花町、入江町、綠町、清水町ヲ屠リテ火勢益〻擴大シ、一臺ノ喞筒ノ到底能ク消防ノ功ヲ奏スベカラザルヲ知リ、遂ニ人命救助、避難民指導ノ事ニ當ルコトヽナレリ。

(二)　若宮町方面

従事隊第六消防署松倉隊　オートバイ喞筒(一日午後零時―二日午前六時)

同　　押上隊小型喞筒(同　上)

震災ト同時ニ松倉押上ノ兩隊ハ押上町二ケ所ノ出火ニ出動シテ之ヲ消止メタル後押上隊ハ小梅業平町ニ、松倉隊ハ若宮町ニ火災アルヲ望見シ、相分レテ其急ニ赴ケリ。斯クテ業平町ノ火災ハ幾モナクシテ鎭壓シタル折シモ、再ビ中ノ鄕業平製油會社ノ出火ニ接シテ、亦能ク之ヲ沮止シ、更ニ若宮町方面ニ來リテ松倉隊ト合セリ。是時ニ方リ、若宮町一帶ノ火勢ハ既ニ擴大シテ、消防頗ル困難ヲ極メタリシ

ガ、外手町・右原町・松倉町等亦延燒シテ旋風頻リニ起ルニ及ビ、消防ノ策、遂ニ施スベキモノナシ。是ニ於テ、兩隊共ニ猛火ノ爲ニ身ヲ燒カントスル民衆ノ救助ニ從ヒ、遂ニ機械ヲ燒失スルノ不幸ヲ見タレドモ、而モ多數ノ避難者ハ隊員ノ努力ニ依リテ其生命ヲ完クスルヲ得タリ。

第二、人命救助ト避難援助

震災ニ伴フ火災ハ、上述ノ如ク、幾多ノ障碍續出セルガ爲ニ、全市各消防隊ノ必死ノ活動モ遂ニ其功ヲ奏セズ、憾ヲ呑ンデ空シク殘虐ナル運命ニ委スルノ外ナカリシガ、就中、第六消防署管内ノ如キハ、形勢最モ險惡ヲ極メ、其他ノ諸隊モ或ハ猛火ノ包圍スル所トナリテ機械ヲ燒失シ、或ハ過熱ノ爲ニ自動車喞筒ノ操縱不能トナリ、遂ニ消防作業ヲ中止スルノ已ムナキニ至レルモノ少カラズ。然レドモ勇敢ナル隊員ハ肉彈ヲ以テ猛火ト鬪ヒ、屢々危地ヲ冒シテ、避難者ノ爲ニ血路ヲ拓キ、氣息奄々タル老幼婦女ヲ火中ヨリ救助スル等ノ效果ヲ收メシコトモ亦鮮シトセズ。斯クテ火災ニ苦メル民衆ニ對シテハ之ヲ河川・濠水ニ潛マシメテ注水掩護ヲ試ミ、又ハ喞筒ニ依リテ水ヲ中空ニ揚ゲ、其雨下スルモノニ依ッテ集團避難民ノ燒死ヲ防ギ、以テ貴重ナル生命ヲ完クセシメタルモノ實ニ數千人ノ多キニ及ベリ。今其重ナル實例二・三ヲ揭載シテ參考ニ供セントス。

（一）伊豫橋附近ノ人命救助

九月一日深川區森下町ノ方面ニ出動セル第六消防署本署隊ノ消防作業、困難ノ窮地ニ陷レルノ際、本所林町伊豫橋附近一帶ハ猛火ノ包圍スル所トナリ、多數避難者ノ運命亦危急ニ迫レリ、是ニ於テ、消防手關實四郎・河野政雄・谷源松・實川慶助ハ作業ヲ中止シテ人命救助ノ任ニ膺リ、混亂ノ極進退ニ惑ヘル民衆ヲ指導シテ岩崎公園ニ避難セシメシガ、午後四時頃ニ至リ、火勢ハ遂ニ伊豫橋ヲ侵シ、多數ノ死者ヲ出スニ及ビテモ猶去ラズ、益々民衆ヲ壓キテ東六間町北ノ橋附近ニ遁レシムルト共ニ、將ニ燒失セントスル自動車喞筒ヲ操縱シテ北ノ橋附近ニ移シ、河水ヲ鐵桶ニ汲ミテ避難者ニ注ギ、以テ火熱ニ耐ヘテ其生命ヲ保ツヲ得シメ、更ニ河川ノ滿潮トナルヤ、喞筒ヲ利用シテ上空ニ放水シ、其雨下スモノヲ以テ着衣ニ點火スルノ危險ヲ防ギ、避難者ヲシテ其生ヲ保タシムルルヲ得タリ。

（二）錦絲町驛方面ノ人命救助

本所區菊川町方面ニ出動セル第六消防署花町隊モ亦、消防作業困難ノ窮地ニ陷リシガ、折シモ錦絲驛附近ニ蝟集セル數千ノ避難者ハ、東横川河岸一帶ノ延燒ニ依リテ、郡部方面ニ通ズル重要ナル退路ヲ斷タレ、全ク進退ノ自由ヲ失ヒタルニ、猛火ハ早クモ、驛構内ニ迫リシカバ、或ハ窒息シ、或ハ燒死スルモノ擧ゲテ數フ可カラズ。消防曹長中村留五郎ハ急ヲ見ルト共ニ、消防取締佐藤五郎ト協力シテ人命救助ノ任ニ膺リ、當時最モ危險ナリシ構内地下室ニ潜伏セル老幼婦女ヲ背負ヒ、或ハ誘導シテ松代町方面ニ一條ノ血路ヲ覓メ、郡部ニ避難セシムルコト數十回ニ及ビシガ之ガ爲ニ救助セラレタル者數十人ニ上レリ。火鎭マリテ後、現場ヲ踏査スルニ、構内高架線路下及ビ廣場一帶ニ於ケル死屍ノ累々タル有樣ハ、被服廠跡ニ亞グノ慘狀ヲ呈シタルニ徵シ、如何ニ其慘害ノ大ナリシカヲ想像スルニ足ラン。

（三）清住町河岸、京濱丸ニ於ケル避難救助

森下町方面ニ於ケル火災漸ク熾ニシテ、忽チ四方ニ延燒シ、第六消防署ノ如キモ遂ニ類燒ヲ免レザルニ至ルヤ、折シモ當直中ナリシ消防書記堀内烝烝ハ同僚ト共ニ、重要書類其他備品ノ搬出準備ニ從ヘルノ際、附近罹災者ノ署構内ニ避難シ來ル者限リナシ、然レドモ構内モ亦既ニ危急ニ瀕セル事上述ノ如クナレバ、直ニ之ヲ廢キテ避難ノ途ニ上リ、又躬ラ、歩行ニ惱メル老幼ヲ背負ヒツヽ、常磐町ヨリ萬年橋ヲ經テ墨田河口ナル清住町ニ達シ、淺野セメント會社際三井物産會社所有達摩船京濱丸ノ繫留シアルヲ見テ、救助ヲ求メ、船員ノ反對セシニモ拘ハラズ、强制シテ百六十二人ヲ乘船セシメ、品川灣ニ進ミシガ、兩岸ノ猛火頻リニ船體ヲ脅シテ危險云フベカラズ、遂ニ飛火ノ爲ニ火災ヲ起シタレドモ、之ヲ消止メ、品海ニ漂フ事數十時間、九月三日午後八時ニ至リテ始メテ船ヲ海岸ニ近ヅケ上陸ヲ了スルヲ得タリ。

（四）松倉町割下水ニ於ケル避難

九月一日午前十一時五十八分、强震ノ襲來ト共ニ、第六消防署松倉町出張所附近ニモ倒潰家屋續發セシガ、會ゝ同所前ナル横川町六十四番地ノ倒潰家屋内ヨリ悲鳴ヲ揚ゲテ救ヲ求ムル者アリ、消防曹長陽田新平ハ消防手山田幸次郎等ト共ニ之ヲ救助セル後、若宮町方面ニ出動シテ消防ニ努力セシガ、不幸ニシテ機械ヲ燒失セルヲ以テ、消防曹長中島國守ト謀リ、部下ヲ指揮シテ人命ノ救助ニ膺リ、其退路ヲ失シテ將ニ燒死セントスル、四十餘名ノ避難者其附近ニ徘徊セルヲ認メ、直ニ之ヲ誘

導シテ若宮町十五番地先ナル割下水ニ入ラシメ、尚ホ消防手野澤榮三郎・同佐野茂敏・同關口德三ノ三名ト協力シ、附近ニ散在セル蒲團・毛布等ニ水ヲ侵シテ避難者ニ與ヘ、頭部ニ被ヒテ火ヲ避クルノ便ニ供シ、尋テ相共ニ又割下水ニ投シ、絕エズ避難者ニ水ヲ注ギシガ、翌二日午前三時頃附近一帶漸ク鎭火スルニ及ビテ、八員ヲ檢スルニ、不幸ニシテ六名ノ燒死者ヲ出シタレドモ、其三十九名ハ死地ヲ脫スルヲ得タリ。而シテ消防手ガ能ク焦熱ニ堪ヘテ救助ノ任務ニ服スルヲ得タルハ、防火被服ヲ着裝セルコト與リテ力アリシニ似タリ。

第六節　鎭火時刻ト燒失區域及ビ著名建設物

九月一日、震災ニ伴ヒテ諸所ニ發シタル火災ハ、猛威ヲ揮ヒテ各方面ニ延燒シ、商工業ノ中心タル下町及ビ江東一帶ヲ全滅セシメ、東ハ本所・深川兩區ノ郡部境界線ヨリ向島ニ至リ、北ハ南千住ヨリ淺草區一圓、下谷ノ大半、神田・日本橋・京橋各區ノ全部ニ及ビ、南ハ芝區金杉四丁目・芝浦日ノ出町ニ達シ、西ハ飯田町・富士見町・三番町ヨリ麴町五丁目、下六番町ニ至ル線ト赤坂見附ヨリ虎ノ門ニ至ル線ニ亙リテ殆ンド宮城ノ外廓ヲ一周シ、全市ノ約二分ノ一ヲ焦土ト化シ、二日午前六時大體ノ鎭火ヲ見タレドモ、尚ホ部分的延燒アリテ、其悉ク鎭火シタルハ三日午前十時ニシテ、延燒時間實ニ四十六時間ノ久シキニ及ベリ。

第一、鎭火時刻

第一消防署管內（日本橋區・京橋區一圓・神田・麴町區ノ一半）

麴町區

有樂町警視廳附近	九月一日午後四時三十分
有樂町數寄屋河岸方面	九月一日午後八時
內幸町一丁目方面	九月一日午後十時
永田町二丁目方面	九月一日午後十時
大手町方面	九月二日午前五時

第二消防署管內（芝・麻布區一圓・赤坂區ノ一部）

赤坂區

榎坂町・葵町方面	九月一日午後十二時
芝　區	
琴平町方面	九月二日午前一時
葺手町・城山町・神谷町方面	九月二日午前四時
芝浦埋立地日ノ出町	九月二日午前五時
金杉四丁目・新堀町方面	九月二日半前七時
第三消防署管內(四谷・牛込區一圓・赤坂區ノ大部分・麹町區・神田區ノ一半・麻布區・小石川區ノ一部)	九月一日午後五時
赤坂區	九月二日午前三時
田町一丁目方面	九月一日午後四時
田町五丁目方面	九月一日午後五時半
麹町區	
三番町方面	九月一日午後四時
富士町六丁目方面	九月一日午後五時

飯田町一丁目方面	九月一日午後九時
富士見町一丁目方面	九月一日午後十時
一番町方面	九月一日午後十二時
上六番町方面	九月二日午前三時
半藏門附近	九月二日午前四時
平河町方面	九月二日午後十二時
元園町二丁目方面	九月三日午前三時
麹町區五丁目方面	九月三日午前三時
牛込區	
元中央幼年學校	九月一日午後二時
四谷區	
新宿旭町方面	九月一日午後六時
小石川區	
諏訪町方面	九月一日午後三時半

第四消防署管内(本郷區一圓・小石川區ノ大部・下谷區ノ一部)

本郷向ヶ丘方面　九月一日午後三時半
元町方面　九月一日午後四時半
春木町三丁目方面　九月一日午後六時半
天神町三丁目方面　九月三日午前十時

小石川區

櫻木町方面　九月一日午後二時

下谷區

池端仲町方面　九月三日午前十時

第五消防署管内(淺草區一圓・下谷區ノ大部、神田區ノ一部)

神田區
和泉町方面　九月二日午前八時

淺草區

橋場町北部方面　九月一日午後十二時

淺草公園方面　九月二日午前四時
向柳原町方面　九月二日午前六時

下谷區

下根岸町方面　九月一日午後十一時
入谷町坂本町方面　九月一日午後十二時

第六消防署管内(本所區・深川區一圓)

本所區
向島須崎町　九月一日午後十一時

(備考)　鎭火時刻ハ燒止リ地域ノ鎭火時刻ヲ示ス、

第二、燒失區域

震災ニ原因スル管下ノ燒失區域ハ左ノ如シ。

市部

麴町區

元平河町　平河町自一丁目至四丁目　山元町　麴町自二丁目至四丁目　富

士見町一丁目　飯田町四・五丁目　飯田河岸　三年町一番地ノ一部　永田町二丁目自一番地至六番地八番地・自六七番地至八五番地　平河町六丁目自一至四・自三〇至三二番地　麹町一丁目自一至一七番地　同五丁目自一至四・自六至一二・自一五至二〇番地　元園町一丁目一・二自四至五三番地　同町二丁目自一至一〇番地　五番町一自四至一九番地　上二番町自一至一一・自一五至二七番地　下二番町自二至一五番地　上六番町自一至一四・自一六至一九・自二一至四九番地　中六番町自二至四・自六至九・自一一至一六・自一九至三九番地　三番町自一至二二・自三九至四九・自五五至八五番地　一番町自五至四一・自四三至四五・自四七至五〇番地　飯田町二丁目自二二至三七番地　同町三丁目三番地・自五至一八・自二一至二七番地　同町六丁目自一至一八番地・二一番地　隼町自一至一五・自一七至三七番地　平河町五丁目一・二番地・自二五至三七番地　飯田町一丁目自一至一五番地　有樂町一丁目三番地　有樂町自四至五番地　同町二丁目二番地　同町三丁目一番地　幸町一丁目三番地・永樂町二丁目一番地・二丁目二番地ノ一部　錢瓶町全部　元衞町一番地ノ一部　大手町一丁目全部　大手町二丁目一部

神田區

表神保町　一ッ橋通町　錦町自一丁目至三丁目　美土代町自一丁目至四丁目　三河町自一丁目至四丁目　雉子町　佐柄木町　連雀町　多町一丁目・二丁目　關口町　新銀町　松下町　皆川町　上白壁町　鎌倉町　千代田町　西今川町　永富町　旭町　蠟燭町　竪大工町　下白壁町　新石町　塗師町　南乘物町　北乘物町　鍛冶町　鍋町　通新石町　須田町　小柳町　平永町、元柳原町　柳町　黒門町　松田町　紺屋町　東紺屋町　富山町　東松下町、西福田町　美倉町　鎌倉河岸（柳原河岸ノ內和泉橋以西）　今川小路一・二・三丁目　西小川町一・二丁目　三崎町一・二・三丁目　三崎河岸　北神保町　南神保町　通神保町　仲猿樂町　表猿樂町一・二・三丁目　裏猿樂町　小川町　淡路町一・二丁目　北甲賀町　南甲賀町　東紅梅町　西紅梅町　紅梅河岸　駿河臺鈴木町　駿河臺袋町　花房町　松住町　花田町　宮本町　同朋町　末廣町　山本町　松富町　榮町　元佐久間町　龜住町　五軒町　金澤町　田代

町　豐島町　富松町　岩本町　東龍閑町　大和町　餌鳥町　元久右衞門町、八名川町　材木町　松枝町　元岩井町　東福田町　東今川町　豐島町　旅籠町一・二・三丁目　久右衞門町　江川町　橋本町一・二・三丁目　臺所町　仲町一・二丁目　相生町　花岡町　岩井河岸　柳原河岸自十號至二〇號、自二二號至二四號　昌平河岸自一號至二六號及二十八號　佐久間河岸自一號至四三號、鞍地河岸自一號至二號、自六號至十一號　佐久間町一丁目自一番地至十八番地、松永町自十二番地至三十番地

日本橋區

小網町二・四丁目　小網仲町　蠣殼町一・二・三丁目　松島町　新霞町　芳町　住吉町　浪花町　新和泉町　長谷川町　富澤町　高砂町　中洲河岸　菖蒲河岸　濱町一・二・三丁目　久松町　村松町　若松町　橘町一・二・三・四丁目　通鹽町　馬喰町自一丁目至四丁目　矢ノ倉町　藥研堀町　米澤町一・二・三丁目、吉川町　新柳町　元柳町　横山町一・二・三丁目　柳原河岸　鎧河岸　西綠河岸　東綠河岸　本銀町一・二・三・四丁目　本石町一・二・三・四丁目　鐵砲町　大傳馬鹽町　大傳馬町一・二・三丁目　小傳馬町一・二・三丁目　小傳馬上町　龜井町、彌生町　元濱町　通旅籠町　通油町　田所町　堀留町自一丁目至三丁目、東萬河岸　西萬河岸　新材木町　新乘物町　堺町　岩代町　芳町自一至十三番地（丙六番地ヲ除ク）　新霞町自六至四番地　小網町一丁目　末廣河岸、堀江町一・二・三・四丁目　小舟町一・二・三丁目　小舟河岸　米河岸　魚河岸　本船町　安針町　長濱町　本小田原町　伊勢町　瀨戸物町　岩附町　本町一・四丁目　十軒店町　室町一・二・三丁目　品川裏河岸　品川町　北鞘町　本兩替町　駿河町　本革屋町　金澤町　綠河岸　本材木河岸　本材木町　元四日市河岸　元四日市町通自一丁目至四丁目　萬町　靑物町　平松町　佐內町　川瀨石町　新右衞門町　西河岸町　西河岸　城邊河岸　吳服町　元大工町　數寄屋町　檜物町　上槇町　箔屋町　槫正町　下槇町　三代町　楓河岸　北島町　龜島町　坂本町　南茅場町　兜町　茅場河岸　小網町三丁目四丁目自五番地至九番地　鎧河岸自一號地至三五號地　龜島河岸　行德河岸　蠣殼町一丁目四番地全部　同二丁目自一至七番地（東京モスリン會社

ノミ燒殘）

京橋區

西紺屋町　幟十郎町　南小田原町一・二・三・四丁目　東豐玉河岸　新肴町　瀧山町　南飯田町　西豐玉河岸　彌左衞門町　竹川町　上柳原町　蜊河岸　鎗屋町　南佐柄木町　南本郷町　南櫻川河岸　銀座三・四丁目　山城町　新富町自一丁目至七丁目　新富河岸　三十間堀一・二・三丁目　山下町　南八丁堀一・二・三丁目　港河岸　出雲町　南鍋町一・二丁目　入舟町自一丁目至六丁目　船松河岸　南金六町　元數寄屋町一・二・三・四丁目　明石河岸　日吉町　尾張町一・二丁目　新港町自一丁目至五丁目　南飯田河岸　丸屋町　木挽町一・二丁目　本港町　小田原河岸　八官町　采女町　船松町　加賀町　築地一・二・三・四丁目　明石町　銀座一丁目　南水谷町　白魚河岸　金六町　銀座二丁目　南紺屋町　弓町　南鍛冶町　五郎兵衞町　南傳馬町三丁目　疊町、北紺屋町　大根河岸　南大工町　桶町　南槇町　北槇町　南傳馬町一・二丁目　中橋廣小路　中橋和泉町　大鋸町　本材木町三丁目　本材木町河岸、

南鞘町　松川町　松屋町　楓河岸　岡崎町一・二丁目　松屋町三丁目　高代町　本八丁堀一丁目　北櫻河岸　龜島河岸　八丁堀仲町　日比谷河岸　永島町　靈岸島町　長島町一・二丁目　川口町　東港町一丁目　銀町一丁目　越前堀一丁目　將監河岸　四日市町　稻荷河岸　南新堀二丁目　鹽町　南新堀河岸　南新堀一丁目　富島町　新船町、元島町　長澤町　幸町　本八丁堀四丁目　日比谷町　柳町　具足町　炭町、竹河岸　鈴木町　因幡町　常盤町　佃島一部　新佃島東町一・二丁目　新佃島西町一丁目（一九・二〇番地ヲ除ク）　同町三丁目　月島通自一至十一丁目　月島東河岸通自一丁目至十一丁目（六丁目八番地ヲ除ク）　月島西河岸通自一丁目至十一丁目（六丁目七八番地ヲ除ク）　月島三號地ノ一部

芝　區

愛宕下町自一丁目至四丁目　愛宕町自一丁目至三丁目　露月町　柴井町